

令和 5 年 度

社会福祉法人東京かたばみ会
事 業 報 告

社会福祉法人東京かたばみ会

目 次

I 法人本部	1
第1 経営理念及び経営方針	1
第2 総 括	2
第3 法人が実施する事業	3
第4 重点事項への取組	5
第5 監事監査の状況	7
第6 実績報告	7
II 調布八雲苑	14
第1 総 括	14
第2 経営実績	16
第3 課別事業報告	17
1 管理課	17
2 福祉課	22
3 高齢者在宅サービスセンター	25
III 神代の杜	31
第1 総 括	31
第2 経営実績	32
第3 事業報告	32
IV 調布市ちょうふの里	40
第1 総 括	40
第2 経営実績	41
第3 課別事業報告	41
1 管理課	41
2 福祉課	48
3 高齢者在宅サービスセンター（通所部門）	52
4 高齢者在宅サービスセンター（短期入所部門）	55
5 地域支援課	58
V 上布田保育園	64
第1 総 括	64
第2 経営実績	64
第3 事業報告	65
VI 調布なないろ保育園	79
第1 総 括	79
第2 経営実績	80
第3 事業報告	80
VII 調布市立学童クラブ・放課後子供教室事業部門	90
第1 総 括	90
第2 経営実績	91
第3 事業所別事業報告	92

I 法人本部

第1 経営理念及び経営方針

本法人の経営理念及び経営方針は、次のとおりである。令和5年度についても、前年度に引き続き経営理念及び経営方針に基づき事業を展開した。

社会福祉法人東京かたばみ会経営理念

私たち社会福祉法人東京かたばみ会は、介護・支援・保育・育成を必要とする地域住民に対して、一人ひとりが安心でき、価値あるものと受けとめられるサービスを提供することにより、法人の各施設が「選ばれる施設」になることを目指します。

そのために、人間愛をベースとし、職員の専門的知識・技術の更なる向上を図り、質の高いサービスを提供します。

また、老人福祉施設と児童福祉施設という世代間交流のできる環境を活用します。

更に、これまでの地域の信頼と共感を大切にします。

社会福祉法人東京かたばみ会経営方針

1 地域への貢献

地域社会の一員としての自覚を持ち、保健・医療など関連機関との連携を強化し、地域福祉の貢献に努める。

2 自立支援・健全育成

利用者一人ひとりのニーズと意志を尊重し、自立の支援と生活の質の向上に努める。また、乳幼児及び児童が心身ともに健やかに育成されるよう努める。

3 人材育成・専門性の向上

新たな視点で「観て、考えて、行動」する幅広い視野を持った自立的な職員の育成を図るため、専門性の向上に努める。

4 経営の透明化

情報公開を積極的に行い、法人に対する信頼と理解を得られるよう努める。

5 経営の安定

質の高い総合的なサービスを継続して提供していくために、経営の安定化を図る。

第2 総括

令和5年5月8日、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられたことに伴い、徐々に制限のない日常を取り戻しつつある一年であった。その中で、本法人では、中期経営計画3年目の取り組みについて定期的に進行管理を行いながら着実に推進するとともに、令和8年度を目途に新たに公私連携型保育所を設置経営することを決定し開設準備に当たる部門を新設するなど、事業拡大に向けて組織基盤を整える一年であったと総括できる。

なお、現在の法人の事業規模は下表のとおりである。

事業所名		事業種別	事業開始年月日	定員(人)	職員数(人)
高齢者部門	調布八雲苑	特別養護老人ホーム	S62.9.1	64	89
		通所介護	S62.10.1	37	
		居宅介護支援(公益事業)	H12.4.1	—	
	調布市ちょうふの里	特別養護老人ホーム	H8.6.1	100	183
		短期入所生活介護	H8.6.1	20	
		通所介護	H8.6.1	52	
		調布市一般施策等(入浴・配食)	H8.6.1	—	
		居宅介護支援(公益事業)	H12.4.1	—	
		地域包括支援センター(公益事業)	H12.4.1	—	
		訪問介護(老人居宅介護等事業)	H12.4.1	—	
神代の杜	特別養護老人ホーム(地域密着型)	H24.9.1	29	34	
	短期入所生活介護	H24.10.1	3		
児童部門	上布田保育園	保育所	H7.4.1	90	46
	調布なないろ保育園	保育所	H20.10.1	100	41
		一時預かり事業	H20.10.1	5	
	調布市立なないろ第1学童クラブ	放課後児童健全育成事業	H20.10.1	50	15
	調布市立なないろ第2学童クラブ		H27.4.1	40	
	調布市立わかば学童クラブ		H21.10.1	70	16
	調布市立多摩川小学校学童クラブ		H27.4.1	60	10
	調布市立かみいしわら第1学童クラブ		H31.1.15	50	14
	調布市立かみいしわら第2学童クラブ		H31.1.15	50	
	調布市立あおば学童クラブ		H31.4.1	55	8
	調布市立多摩川児童館学童クラブ		R5.4.1	60	7
	調布市立第三小学校学童クラブ		R5.4.1	50	7
	調布市立多摩川児童館		児童厚生施設	R6.4.1	—
		地域子育て支援拠点事業			
	調布市立若葉小学校放課後子供教室事業	調布市放課後子供教室事業(公益事業)	H27.4.1	—	48
調布市立富士見台小学校放課後子供教室事業	H27.4.1		—		
調布市立多摩川小学校放課後子供教室事業	H27.4.1		—		
調布市立第三小学校放課後子供教室事業	H27.4.1		—		
調布市立飛田給小学校放課後子供教室事業	H27.4.1		—		
調布市立石原小学校放課後子供教室事業	H27.4.1		—		
合計				—	523
事業内容及び職員数は、令和6年4月1日現在。職員数には有期契約職員、派遣職員等を含む。法人本部の職員数は、調布八雲苑に含めている。					
なお、職員数の内訳は、正規職員234人、非正規職員289人となっている。					

第3 法人が実施する事業

本法人は、令和6年3月31日現在、次に記載する社会福祉事業及び公益事業を行っている。

1 調布八雲苑

(1) 特別養護老人ホーム調布八雲苑

社会福祉法（昭和26年法律第45号、以下「社会福祉法」という。）第2条第2項第3号（第1種社会福祉事業）に規定する特別養護老人ホーム

(2) 高齢者在宅サービスセンター調布八雲苑

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第7項に規定する通所介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第115条の45第1項第1号ロに規定する介護予防事業（第1号通所事業）

(3) 高齢者在宅サービスセンター調布八雲苑（認知症対応型通所介護）

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第18項に規定する認知症対応型通所介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第8条の2第13項に規定する介護予防サービス

(4) 調布八雲苑指定居宅介護支援事業所

介護保険法第8条第24項に規定する指定居宅介護支援事業（公益事業）

2 神代の杜

(1) 特別養護老人ホーム神代の杜

社会福祉法第2条第2項第3号（第1種社会福祉事業）に規定する特別養護老人ホーム

(2) 老人短期入所事業神代の杜

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人短期入所事業（介護保険法第8条第9項に規定する短期入所生活介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第8条の2第7項に規定する介護予防サービス

3 調布市ちょうふの里

(1) 特別養護老人ホームちょうふの里

社会福祉法第2条第2項第3号（第1種社会福祉事業）に規定する特別養護老人ホーム

(2) 老人短期入所事業ちょうふの里

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人短期

入所事業（介護保険法第8条第9項に規定する短期入所生活介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第8条の2第7項に規定する介護予防サービス

(3) 高齢者在宅サービスセンターちょうふの里

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第7項に規定する通所介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第115条の45第1項第1号ロに規定する介護予防事業（第1号通所事業）

(4) 高齢者在宅サービスセンターちょうふの里（認知症対応型通所介護）

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人デイサービス事業（介護保険法第8条第18項に規定する認知症対応型通所介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第8条の2第13項に規定する介護予防サービス

(5) ちょうふの里指定訪問介護事業所

社会福祉法第2条第3項第4号（第2種社会福祉事業）に規定する老人居宅介護等事業（介護保険法第8条第2項に規定する訪問介護事業）及びこれと一体的に行われている介護保険法第115条の45第1項第1号イに規定する介護予防事業（第1号訪問事業）

(6) ちょうふの里指定訪問介護事業所（障害福祉サービス事業）

社会福祉法第2条第3項第4号の2（第2種社会福祉事業）に規定する障害福祉サービス事業（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号、以下「障害総合支援法」という。）第5条第2項に規定する居宅介護）

(7) ちょうふの里指定居宅介護支援事業所

介護保険法第8条第24項に規定する指定居宅介護支援事業（公益事業）

(8) 調布市地域包括支援センターちょうふの里

介護保険法第115条の46に規定する地域包括支援センター（公益事業）

(9) 調布市地域包括支援センターちょうふの里（指定介護予防支援事業所）

介護保険法第115条の45第1項第1号ニに規定する介護予防支援事業（第1号介護予防支援事業）（公益事業）

4 上布田保育園

社会福祉法第2条第3項第2号（第2種社会福祉事業）に規定する保育所（子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）第7条第4項に規定する教育・保育施設）

5 調布なないろ保育園

社会福祉法第2条第3項第2号（第2種社会福祉事業）に規定する保育所（子ども・子育て支援法第7条第4項に規定する教育・保育施設）及びこれと一体的に行われている子ども・子育て支援法第59条第1項に規定する地域子ども・子育て支援事業である一時預かり事業（第2種社会福祉事業）

6 調布市立学童クラブ（調布市立なないろ第1・第2学童クラブ、調布市立わかば学童クラブ、調布市立多摩川小学校学童クラブ、調布市立かみいしむら第1・第2学童クラブ、調布市立あおば学童クラブ、調布市立多摩川児童館学童クラブ及び調布市立第三小学校学童クラブ）

社会福祉法第2条第3項第2号（第2種社会福祉事業）に規定する放課後児童健全育成事業（子ども・子育て支援法第59条第1項に規定する地域子ども・子育て支援事業）

7 調布市放課後子供教室事業（調布市立若葉小学校放課後子供教室事業、調布市立富士見台小学校放課後子供教室事業、調布市立多摩川小学校放課後子供教室事業、調布市立第三小学校放課後子供教室事業、調布市立飛田給小学校放課後子供教室事業及び調布市立石原小学校放課後子供教室事業）

「調布市放課後子供教室事業実施要綱（平成27年4月1日要綱第77号）」に基づく調布市放課後子供教室事業（公益事業）

※ 上記の「第3 法人が実施する事業」は、従来は、決算報告書の「計算書類に対する注記（法人全体用）」に、法人が実施する社会福祉事業区分における拠点区分及びサービス区分の内容として、事業の根拠となる法律の条項や委託事業の条約等を記載していたが、「社会福祉法人会計基準の制定に伴う会計処理等に関する運営上の取扱いについて（平成28年3月31日 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長、老健局長連名通知）」に基づき、当該注記への記載方法については、拠点区分及びサービス区分のみを列挙する方法へ変更したことから、決算報告書の「計算書類に対する注記」への記載に替えて、本事業報告書に記載するようにしたものである。

第4 重点事項への取組

1 中期経営計画の着実な推進

本法人は、令和3年3月に、令和3年度から令和7年度までの5年間を計画期間とする中期経営計画を策定した。計画3年目にあたる令和5年度においては、各拠点それぞれが中期経営計画に掲げる経営戦略の実現を目指した取り組みを推進するとともに、各拠点の業績や取組状況について、毎月の経営会議のほか、計画策定に携わった経営コンサルタントからの業務支援を受けながら、PDCAサイクルに基づく進行管理を定期的に行った。

また、令和5年度の中期経営計画の取組状況として、各施設のテーマ別に進捗

状況の年次評価を行い、理事会及び定時評議員会に報告を行った。

2 法人内業務の統一化・効率化

法人本部が中期経営計画に掲げるテーマの一つである「本部機能の明確化」の取り組みとして、法人内業務の統一化・効率化に向けたシステム導入検討プロジェクトチームを立ち上げ、検討を行った。

その中で現在、調布八雲苑、神代の杜及び調布市ちょうふの里で使用している出退勤システムのサポートが令和7年9月で終了することに伴い、複数のシステム業者からの情報収集及び提案内容を踏まえ検討した結果、令和6年10月から児童部門を含む全施設共通の出退勤システムにリニューアルすることを決定した。

令和6年度は、システムのリニューアルに向けた準備を着実に進めるとともに、給与明細の電子化や年末調整のオンライン化等の給与システムについても、令和7年度中の導入を目途に、引き続きプロジェクトチームでの検討を進めていくこととしている。

3 新規学童クラブの円滑な運営及び児童館運営受託準備

調布市では、児童館の民間活力の活用方針に基づき、令和2年度から8年度までの7年間で、市内児童館11箇所のうち7箇所について公設民営による「地域型児童館」として民間事業者に委託することとしている。そのうち、調布市立多摩川児童館と当該児童館に併設する多摩川児童館学童クラブについては、当該地域の学童クラブを本法人が受託運営していることから、令和5年度から本法人が多摩川児童館学童クラブを先行して受託運営を開始し、翌年の令和6年度からは、児童館運営を開始する予定である。

そのため、調布市と連携・協力しながら、児童及び保護者との信頼関係を構築するとともに、児童館運営に向けた引き継ぎを丁寧に行い、地域とのつながりや関係性を構築するなど、運営基盤を整えることに注力した。

また、調布市立第三小学校地域においては、学童クラブの利用者が年々増加していることから、同小学校敷地内に学童クラブが新設され、令和5年度から本法人が受託運営を開始した。児童及び保護者が安心できる環境づくりに努めるとともに、地域や学校、行政からの信頼に応えるべく円滑な運営を図った。

4 調布市との連携及び新拠点進出

本法人が、経営理念及び経営方針に基づく取り組みを継続し、社会福祉法人としての役割を果たしていくためには、内部努力を続けていくことはもちろんのこと、調布市における高齢者福祉施策や子ども・子育て支援施策の動向を注視し、

法人としての意見具申ししながら連携を密にし、市との協力体制の維持・強化に努めることが重要である。

とりわけ、保育園や児童館については、調布市から民間活力の活用方針が示され、公私連携型保育所への移行や児童館（併設学童クラブを含む）の民間委託が順次進められているが、本法人においても、調布市からの依頼を受け、令和5年度から新たに2か所の学童クラブを受託運営し、令和6年度からは、調布市立多摩川児童館の受託運営を開始することが決定している。さらに、令和8年度からは調布市立宮の下保育園を公私連携型保育所へ移行し、本法人が新たな保育園を設置、運営することが令和5年6月開催の理事会で決定している。

そのため、法人本部に「児童部門経営戦略室」を設置し、新園の開設準備担当を配置するなど組織・人員体制の見直しを行い、市と連携・協力しながら本格的に新園の開設準備を進めた。

また、保育園及び放課後児童部門の事業拡大を見据え、「児童部門経営戦略室」を発展的に解消し、こども関連施設を統括する「こども統括室」を令和6年度から設置するため、新たに組織規程を制定した。

第5 定款第18条及び第32条に基づく令和5年度に対する監事監査の状況

令和6年5月16日、荻原監事及び大槻監事により、理事の業務の執行状況並びに事業報告及び決算報告について実施された。監事監査報告書は、令和5年度決算報告書の1ページのとおりである。

第6 実績報告

1 理事会の開催状況

理事会については、本法人定款細則第15条の規定に基づき年5回開催したほか、社会福祉法第45条の14第9項で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条及び本法人定款第26条第2項の規定に基づく理事会の決議の省略手続を1回執った。

理事会の開催状況、決議及び承認事項並びに理事会の決議があったものとみなした事項は、次のとおりである。

第 1 回 理 事 会	1 開催日
	令和5年6月1日
	2 出席者
	(1) 理事（総数5人（1人欠員））
	出席 5人
(2) 監事（総数2人）	
出席 2人	
3 議事	
(1) 報告事項	
理事長及び常務理事の職務執行状況について	

	<p>(2) 決議及び承認事項（数字は議案番号） 7件の議案を審議し、いずれも原案のとおり議決した。</p> <p>① 専決処分の承認について ② 令和4年度社会福祉法人東京かたばみ会事業報告の承認について ③ 令和4年度社会福祉法人東京かたばみ会決算報告の承認について ④ 令和5年度夏期賞与の総原資の決定について ⑤ 任期満了に伴う社会福祉法人東京かたばみ会役員候補者の選任について ⑥ 退任に伴う社会福祉法人東京かたばみ会評議員候補者の選任について ⑦ 令和5年度社会福祉法人東京かたばみ会定時評議員会の招集について</p>
第2回理事会	<p>1 開催日 令和5年6月22日 理事及び監事の全員から、書面又は口頭により同意を得て、社会福祉法第45条の14第9項で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第94条に基づき、理事会招集手続きの省略の手続により開催</p> <p>2 出席者 (1) 理事（総数6人） 出席 5人 (2) 監事（総数2人） 出席 2人</p> <p>3 議事 (1) 決議及び承認事項（数字は議案番号） 4件の議案を審議し、議案第8号は小田切光男理事が理事長に、議案第9号は広田茂雄理事が常務理事に選定され、その他の議案についてはいずれも原案のとおり議決した。</p> <p>⑧ 任期満了に伴う社会福祉法人東京かたばみ会理事長の選定について ⑨ 任期満了に伴う社会福祉法人東京かたばみ会常務理事の選定について ⑩ 役員等賠償責任保険契約の締結について ⑪ 公私連携型保育所の設置及び運営について</p>
理事会の決議の省略手続	<p>令和5年7月11日、理事長が、書面により各理事及び監事に対して理事会の決議の目的である事項、当該提案についての通知を行い、令和5年7月19日までに理事全員から同意書、監事全員から異議確認書（異議を述べない旨の確認書）の提出を受け、社会福祉法第45条の14第9項で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条及び本法定款第26条第2項の規定に基づき、当該提案事項1件について理事会の決議があったものとみなされた。</p> <p>理事会決議があったものとみなされた日及び理事会決議があったものとみなされた事項は、次のとおり。</p> <p>1 理事会決議があったものとみなされた日 令和5年7月19日</p> <p>2 理事会決議があったものとみなされた事項（数字は議案番号） ⑫ 調布八雲苑大規模改修工事に係る入札方法、入札参加資格条件等の決定について</p>
第3回理事会	<p>1 開催日 令和5年9月14日</p> <p>2 出席者 (1) 理事（総数6人） 出席 4人</p>

	<p>(2) 監 事 (総数 2 人) 出席 2 人</p> <p>3 議 事</p> <p>(1) 報告事項 特別養護老人ホーム調布八雲苑大規模改修工事請負契約の入札結果について</p> <p>(2) 決議及び承認事項 (数字は議案番号) 2 件の議案を審議し、いずれも原案のとおり議決した。</p> <p>⑬ 特別養護老人ホーム調布八雲苑大規模改修工事請負契約の締結について</p> <p>⑭ 社会福祉法人東京かたばみ会給与規程の一部改正について</p>
第 4 回 理 事 会	<p>1 開催日 令和 5 年 1 1 月 3 0 日</p> <p>2 出席者</p> <p>(1) 理 事 (総数 6 人) 出席 4 人</p> <p>(2) 監 事 (総数 2 人) 出席 2 人</p> <p>3 議 事</p> <p>(1) 報告事項 ア 理事長及び常務理事の職務執行状況について イ 中期経営計画の取組状況 (令和 5 年度上半期) について</p> <p>(2) 決議及び承認事項 (数字は議案番号) 4 件の議案を審議し、いずれも原案のとおり議決した。</p> <p>⑮ 専決処分の承認について</p> <p>⑯ 令和 5 年度冬期賞与の総原資の決定について</p> <p>⑰ 社会福祉法人東京かたばみ会定款の一部改正について</p> <p>⑱ 令和 5 年度社会福祉法人東京かたばみ会臨時評議員会の招集について</p>
第 5 回 理 事 会	<p>1 開催日 令和 6 年 3 月 2 8 日</p> <p>2 出席者</p> <p>(1) 理 事 (総数 6 人) 出席 5 人</p> <p>(2) 監 事 (総数 2 人) 出席 2 人</p> <p>3 議 事</p> <p>(1) 決議及び承認事項 (数字は議案番号) 3 0 件の議案を審議し、いずれも原案のとおり議決した。</p> <p>⑲ 社会福祉法人東京かたばみ会保育士等処遇改善等加算手当支給規程の一部改正について</p> <p>⑳ 令和 5 年度社会福祉法人東京かたばみ会収支補正予算 (第 1 次) について</p> <p>㉑ 社会福祉法人東京かたばみ会就業規則の一部改正について</p> <p>㉒ 調布市児童館運営規程の制定について</p> <p>㉓ 調布市立学童クラブ・放課後子供教室事業部門組織規程の一部改正について</p> <p>㉔ こども統括室組織規程の制定について</p> <p>㉕ 社会福祉法人東京かたばみ会経理規程の一部改正について</p> <p>㉖ 社会福祉法人東京かたばみ会放課後児童支援員等処遇改善臨時特例手当支給規程の一部改正について</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ⑳ 調布市立学童クラブ運営規程の一部改正について ㉑ 調布市放課後子供教室事業運営規程の一部改正について ㉒ 調布八雲苑運営規程の一部改正について ㉓ 高齢者在宅サービスセンター調布八雲苑（通所介護及び調布市総合事業）運営規程の一部改正について ㉔ 高齢者在宅サービスセンター調布八雲苑（認知症対応型通所介護及び介護予防認知症対応型通所介護）運営規程の一部改正について ㉕ 神代の杜運営規程の一部改正について ㉖ 神代の杜（短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業）運営規程の一部改正について ㉗ ちょうふの里指定訪問介護事業所（訪問介護事業、介護予防訪問介護事業、調布市介護予防・日常生活支援総合事業）運営規程の一部改正について ㉘ ちょうふの里指定訪問介護事業所（障害福祉サービス）運営規程の一部改正について ㉙ 調布八雲苑指定居宅介護支援事業所運営規程の一部改正について ㉚ ちょうふの里指定居宅介護支援事業所運営規程の一部改正について ㉛ 社会福祉法人東京かたばみ会介護職員処遇改善支援補助手当支給規程の制定について ㉜ 社会福祉法人東京かたばみ会給与規程の一部改正について ㉝ 社会福祉法人東京かたばみ会嘱託職員、有期契約職員等に関する規程の一部改正について ㉞ 調布市ちょうふの里自動車運送業務委託業者との業務委託契約の締結について ㉟ 調布市ちょうふの里電動リモートコントロールベッドのリース契約の締結について ㊱ 令和6年度社会福祉法人東京かたばみ会事業計画について ㊲ 上布田保育園拠点区分都施設整備費積立金の取り崩しについて ㊳ 令和6年度社会福祉法人東京かたばみ会収支予算について ㊴ 神代の杜施設長の選任及び解任について ㊵ 調布八雲苑施設長の選任及び解任について ㊶ 調布市立学童クラブ・放課後子供教室事業部門統括施設長の選任及び解任について <p>(2) 諸報告 各事業所事業実施状況について</p>
--	--

2 評議員会の開催状況

令和5年度は、定時評議員会のほか臨時評議員会を1回開催した。

開催状況は、次のとおりである。

定 時 評 議 員 会	<ul style="list-style-type: none"> 1 開催日 令和5年6月22日 2 出席者 <ul style="list-style-type: none"> (1) 評議員（定数7人） 出席 5人 (2) 監事（定数2人） 出席 2人 (3) 理事長及び常務理事 3 議事 <ul style="list-style-type: none"> (1) 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ア 理事長及び常務理事の職務執行状況について イ 令和4年度社会福祉法人東京かたばみ会事業報告について
----------------------------	--

	<p>(2) 決議及び承認事項（数字は議案番号）</p> <p>2件の議案を審議し、原案のとおり議決した。</p> <p>① 令和4年度社会福祉法人東京かたばみ会決算報告の承認について</p> <p>② 任期満了に伴う社会福祉法人東京かたばみ会役員の選任について</p>
臨時評議員会	<p>1 開催日</p> <p>令和6年1月25日</p> <p>2 出席者</p> <p>(1) 評議員（定数7人）</p> <p>出席 7人</p> <p>(2) 監事（定数2人）</p> <p>出席 2人</p> <p>(3) 理事長及び常務理事</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>ア 理事長及び常務理事の職務執行状況について</p> <p>イ 中期経営計画の取組状況（令和5年度上半期）について</p> <p>(2) 決議及び承認事項（数字は議案番号）</p> <p>1件の議案を審議し、原案のとおり議決した。</p> <p>③ 社会福祉法人東京かたばみ会定款の一部改正について</p>

3 評議員選任・解任委員会の開催状況

評議員の退任に伴い、次のとおり評議員選任・解任委員会を開催し、1件の議案を審議した。（委員会回数及び議案番号は、委員会発足時からの通算）

第6回評議員選任・解任委員会	<p>1 開催日</p> <p>令和5年6月14日</p> <p>2 出席者</p> <p>委員（定数3人、総数3人）</p> <p>出席 3人</p> <p>3 議事</p> <p>審議議案（数字は議案番号）</p> <p>次の議案を審議し、原案のとおり議決した。</p> <p>⑥ 退任に伴う社会福祉法人東京かたばみ会評議員の選任について</p>
----------------	---

評議員選任・解任委員会委員名簿

（令和6年3月31日現在・敬称略）

選任区分	氏名	備考
外部委員	小笠原 寿弘	調布市社会福祉事業団事務局長・総合施設長
監事	荻原 久男	法人監事
事務局員	岩下 純二	法人本部事務長

4 苦情等解決第三者委員の会議の開催状況

苦情等解決第三者委員（こまりごと・なんでも相談）の会議は2回開催された。

会議の開催状況は次のとおりである。

なお、会議における個別の苦情内容や関係者の詳細、議論内容等については、個人情報保護の観点から割愛している。

第1回	1 開催日 令和5年7月5日 2 議題 (1) 令和5年度苦情等解決責任者及び苦情受付担当者について (2) 各事業所の苦情等の内容について (3) 苦情等の解決内容、方法、改善策等について (4) 令和5年度事業計画及び令和4年度事業報告について
第2回	1 開催日 令和6年2月7日 2 議題 (1) 各事業所の苦情等の内容について (2) 苦情等の解決内容、方法、改善策等について (3) 各事業所事業実施状況について

苦情等解決第三者委員名簿

(令和6年3月31日現在・敬称略)

氏名	備考
有本 キヨ子	調布八雲苑デイサービスセンター家族会リーダー NPO法人朝日カウンセリング研究会所属
伊藤 麻子	元調布市立学童クラブ指導員
加来 弘子	元調布市ちょうふの里介護職員 ケアマネジャー
村山 洋子	いっしょうふれあいネットワーク（第一小学校区地区協議会）副会長 三多摩学童保育連絡協議会事務局次長 調布市立調布中学校学校関係者評価委員

5 職員研修の状況

(1) 職層別・勤続年数別研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
新規採用職員	新任研修	4月1日	法人本部	14人
		5月1日		1人
		6月1日		1人
		7月3日		1人
		8月1日		1人
		9月1日		2人
		10月1日		3人
		3月1日		1人
	人事評価制度新規採用者研修	同上	法人本部	24人
	新任接遇フォローアップ研修	6月30日	㈱ウインズ	14人
新任副主任職	人事評価制度新任考課者研修	5月12日	法人本部	2人
主任職・副主任職	主任職・副主任職新任研修	6月23日	㈱話し方教育センター	※16人
管理職	管理職ハラスメント防止研修	6月9日	㈱話し方教育センター	13人

一般職 (勤続5～7年)	キャリアデザイン研修	11月10日	(株)インソース	10人
一般職 (勤続20年以上)	ベテラン職員研修	12月15日	(株)話し方教育センター	9人
参加延べ人数合計				112人

※「主任職・副主任職新任研修」については、現任職員含む。

(2) 法人内研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	対象者数
事務員	コミュニケーション研修	7月22日	(株)話し方教育センター	8人
参加延べ人数合計				8人

Ⅱ 調布八雲苑

第1 総括

1 新型コロナウイルス感染症の5類移行

令和5年度開始後の5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に変わったが、ウイルスの性質そのものが変化したわけではないことから、施設としての感染予防対策は継続して行った。結果として、職員や利用者数人に感染者が出たものの、感染拡大や施設内でのクラスター発生を未然に防ぐことができた。令和2年8月から実施している施設職員と本部職員による施設内一斉消毒も継続して行っていることが、感染拡大防止と職員の意識高揚に寄与していると考えている。

また、利用者との面会については感染予防の観点から、家族の皆様のご理解をいただきながら事前予約制で1回10分までとの制限を維持してきた。一方、病院や他の高齢者福祉施設における新型コロナウイルス感染症の5類移行による面会方法は、従来どおり自由に面会できる体制に変更しているところもあることから、新型コロナウイルス感染症だけでなく他の感染症の流行状況も考慮しつつ、従来行っていた施設内での自由な面会の再開についても検討していきたい。

さらに、退所者があってから、次の利用者への面接等に時間がかかる状況にも変化がみられなかったことから、空床期間が伸びて利用率や施設経営に少なからず影響を受けることとなった。

2 経営の安定化

令和5年度は中期経営計画の3年目で計画の進行管理を定期的に行い、毎月の経営会議や職員会議での状況報告、更には収支に関するデータの情報共有により、職員一人ひとりに施設の経営状況が伝わるよう周知を行った。令和4年度に引き続き、令和5年度も調布八雲苑に特化した時間を設定して外部の専門家から助言を受けた。中期経営計画の進行管理を進めていく中で、各事業安定化のためのポイントを理解しつつ、理想と現実の乖離に直面する場面を含めて、職員同士での意見交換の機会を増やすこともできた。令和6年度は、この機会を糧として更にこれを進めて、施設の経営改善につながるような取り組みを組織一丸となって進めていきたい。

令和5年度における特養利用者の平均要介護度は4.3（令和4年度は4.4）、平均年齢は87.7歳（令和4年度は87.9歳）となっており、利用者の重度化・高齢化が固定している中、様々な手法による利用率向上に取り組んだ。しかし、生活相談員が介護支援専門員を兼務したり、介護職員の急な体調不良等の状況を受けて補充要員として現場を支えたりすることもあり、専従体制を取ることが困難な状況であったことから、入所業務が滞ってしまうこともあり、令和6年

度への反省材料となった。一方、デイサービスでは施設入所や入院、転居による終結者が多い中、職員が分担して毎朝利用者に電話し、当日の健康状態の確認や通所準備の声掛けを行うことで当日の通所を促した結果、利用率の向上に結び付けることができた。それに加えて、様々な居宅介護支援事業所からの利用者の紹介を受けられるようになったことで、安定した高い利用率を確保することができた。これも職員の利用率向上に向けた努力の賜物であると言える。

調布八雲苑とそのサテライトである神代の杜の経営状況が、法人全体からみても特に焦点となる中、調布八雲苑では職員がコスト意識を持って業務に取り組めるよう毎月の職員会議において、直近月分の利用率や収支状況について令和4年度と比較した数値を報告し、その時点での情報共有と課題の確認を行ってきた。一方、福祉課や高齢者在宅サービスセンターではシフト制の勤務の職場特性もあり、職員への周知徹底や共有化の難しさを改めて実感した部分もあった。

令和5年度は介護記録のICT化を進めるとともに、在庫管理や消耗品の一括購入だけでなく、事務連絡や共通認識事項のICT化についても更に取り組みを進めていく必要があると認識した年でもあった。ICT化は記録の重複作業防止や統計資料作成のための資料整理時間等の短縮にも効果が見込まれる。令和6年度は従来から取得している介護報酬の加算を維持しつつ、取得可能な加算や利用率の更なる維持・向上を見据えた取り組みを強化していく。

3 利用者が安心できる施設環境の整備

調布八雲苑は、調布市内初の特別養護老人ホームとして開設し、地域の皆様に支えられながら37年目を迎えた。そして、平成15年から平成16年にかけて実施した大規模修繕工事からすでに約16年が経過していることを踏まえ、中期経営計画に基づき令和5年10月から12月までの3か月の期間で施設の大規模改修を実施し、空調設備の更新、キュービクルの交換、ボイラーから給湯器への変更、壁や天井、建具の修繕を行い、利用者のより良い生活環境づくりに向けた工事を完了することができた。これにより、省電力を図りながら安定した空調機器による静かな冷暖房効果、効率的なエネルギー利用が実現することとなった。

4 地域や調布市との連携

令和5年度は同年4月第4土曜日に調布市主催の防災教育の日の行事が行われた。調布八雲苑は令和元年9月に調布市立八雲台小学校と災害時の相互応援協定を締結していることから、施設長その他職員数名が八雲台小学校の訓練に、見学という形で参加することができた。

また、調布八雲苑は、調布市と災害時における2次避難所としての協定を結んでおり、災害時の電話やファックス等の通信機器の故障や不通を想定した市との通信連絡訓練を令和6年3月に実施した。調布八雲苑の全課の職員が参加し、東京消防庁から調布市総合防災安全課に派遣されている専門の職員の指導を受け

て、防災行政無線の移動系子機を利用した無線器による交信訓練を全員が体験することができた。

また、恒例の夏まつりは、感染予防の観点から施設内行事として実施し、福祉課や高齢者在宅サービスセンターの利用者を中心に、それぞれの部署において開催し、利用者には楽しい時間を過ごしていただくことができた。

5 事故報告

令和5年度に施設内で発生した市報告事故の件数は次のとおりである。

○ 課別・所属場所別報告事故件数

所属場所	事故報告書件数
福祉課（3階）	3
福祉課（2階）	8
高齢者在宅サービスセンター（デイ）	2
高齢者在宅サービスセンター（ショート）	—
配食サービス	—
管理課	0
地域支援課	—
合計	13

○ 事故内容別発生件数

事故の分類	発生件数
転倒	6
転落	0
尻もち	0
表皮剥離	0
誤薬	3
異食	0
その他	4
合計	13

第2 経営実績

目標値に対する実績

目標値に対する実績は、次のとおりである。

事業名	目標値	令和5年度 実績	令和4年度 実績
介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム） 利用率	97	88.7	91.5
通所 介護 事業	通常規模型通所 介護利用率	85	88.7
	認知症対応型 通所介護利用率	82	76.5
居宅介護支援事業 ケアプラン作成	70件（月）	96.3（件）	78.8（件）

※ 居宅介護支援事業については、当初2人の介護支援専門員で目標値を設定したが、年度始めに1人増員したため実績が増加している。

第3 課別事業報告

1 管理課

(1) 重点事項への取組

ア 中期経営計画に基づく経営改善の取組

令和5年度は、中期経営計画の3年目として令和4年度に引き続き経営改善に取り組んだ。調布八雲苑における経営改善の目標である行動計画を7つに絞り行動計画として策定し、四半期ごとに進行管理を行いつつ業務を進めた。

7つの行動計画のうち施設の大規模改修については、事前準備から令和5年末の工事完了まで順調に進捗し、空調設備、給湯機器そして室内や建具の修繕を終え、利用者に対してより快適な環境での生活を提供することができるようになったことは、サービスの向上に繋がるものと考えている。

特養利用率の向上という行動計画は、目標利用率を達成することができず、令和5年度においても成果を挙げることはできなかった。しかし、人員の関係で生活相談員がなかなか相談業務に専念することができない場合の、相談体制の整備や折り返しの電話連絡体制を構築することができた。

デイサービスの収支の維持という行動目標は、目標数値を達成することができた。利用率の向上に向けての毎日の電話連絡や出欠確認の励行が、この成果に結びついた要因であると考えている。

また、居宅介護支援事業所の拡大という行動計画についても、新たな介護支援専門員の採用からケアプラン作成件数の目標値達成まで、順調に推移することができた。

その他のプランについても、職員会議や各委員会の中での情報共有、検討会議などを経て、施設内での良い面での意識高揚の動機付けとなっている。

イ 人材の確保と育成

適性な職員の配置を維持すべく、間接処遇職員の活用及び新たな採用手法を利用して人材の確保に努めた。

令和5年度の正規職員の採用は3人（介護職員2人、栄養士1人）、退職は4人（介護職員2人、栄養士1人、事務員1人、調理員1人）であった。正規職員及び有期契約職員の人材確保が難しく、欠員分は派遣職員やワークシェアリングを利用し代替したが、年間を通じて安定的な職員体制を整えることが大変難しい一年であった。ワークシェアリングなど新たな採用方法を利用することで介護職員の働き方の変化や発見も多く、引き続き、適正な人員体制を確立し、職員の働きやすい職場環境作りに努めるとともに、職員体制の確保に一層の努力を図っていく。

また、令和4年度に引き続き、職員が心身ともに安心して仕事に取り組み

る環境づくりの一環として、全職員を対象にストレスチェックを実施した。

人材育成については、施設内での事故防止、感染症発生防止の観点から、各種対策委員会と施設内研修を行っている。安全衛生委員会（12回）、感染症等対策委員会（4回）や事故防止対策委員会（4回）、身体拘束適正化委員会（4回）を実施するとともに、年間の施設内研修計画を立て各委員会主催の研修会を10回実施することができた。

ウ 給食内容の充実

検食日誌の内容や給食委員会で出された意見を踏まえ、改善に努めた。

また、季節感や旬の食材を取り入れ、利用者に喜んで召し上がっていただけるような行事食を提供した。今後も安全で美味しい食事の提供を目標に、多職種間で協力していく。

特養の利用者においては毎月のカンファレンス等を含め、一人ひとりにきめ細かな食事提供の対応に努めた。給食の主な状況は次のとおりである。

- (ア) 食種の割合は、主食ではご飯24.6%、柔らかご飯17.5%、お粥38.6%、ミキサー粥19.2%、副食では、常食17.5%、粗刻み10.5%、刻み15.8%、極刻36.8%、ミキサー19.3%（ソフト含む）となり、常食の割合が増え、粥・ミキサーが減った。
- (イ) リクエストメニュー6回・バイキング1回・行事食14回・ホーム喫茶6回を実施し、食事を楽しんでもらうようにした。
- (ウ) デイサービスの利用者には、年間の行事予定に沿って職員と相談しながら、行事に合った食事やおやつを提供した。
- (エ) 利用者の声や検食時の意見、感想、味のチェックなど、その日の献立に対する意見等を調理に反映するよう努めた。
- (オ) 栄養ケアマネジメントは、毎月の体重測定結果と摂食状況等を看護職員、介護支援専門員、介護職員及び栄養士がカンファレンスを行い、利用者の日々の変化に対応しながら進めた。
- (カ) 衛生管理マニュアルに基づき、衛生管理及び食中毒予防の徹底を図った。

エ 神代の杜との連携

開設して11年が経過した神代の杜は、調布八雲苑のサテライト型の施設であることから、様々な分野で連携・協力して業務を行うとともに、管理課長及び栄養士の兼務により円滑な事業の実施と経営の安定化に向け、本体施設としての役割を果たした。

また、様々な問題の発生に対しては相互に応援体制が取れるよう、引き続き協力するとともに、給食調理部門において、災害時や感染症における相互応援のほか、衛生管理マニュアルの研修及び衛生管理の徹底など相互協力体制を更に進めていきたい。

(2) 実績報告

ア 特養（介護老人福祉施設。以下同じ。）利用者食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	1,735	1,736	1,735	10	1,804	1,806	1,805
5	1,737	1,740	1,740	11	1,673	1,674	1,668
6	1,801	1,807	1,806	12	1,631	1,634	1,630
7	1,829	1,831	1,829	1	1,610	1,612	1,610
8	1,810	1,813	1,811	2	1,618	1,627	1,626
9	1,718	1,720	1,717	3	1,748	1,747	1,746
				計	20,714	20,747	20,723

イ 行事食献立一覧（特＝特養、デ＝デイサービス）

月日	行事名	課名	献立内容
4月20日 24日	ホーム喫茶 春の味覚メニュー	特 特	モンブラン、スフレチーズ、いちごプリン グリーンピースご飯、鱈の西京漬け焼き、若竹煮他
5月5日 20日	こどもの日 リクエストメニュー	特・デ 特・デ	ちらし寿司、魚河岸揚げの京風煮、黒花豆甘煮他 エビカレー、キャベツとカニの酢の物、手作りゼリー
6月8日 15日	リクエストメニュー ホーム喫茶	特・デ 特	焼きそば、大根とキュウリの昆布茶和え、杏仁他 ショートケーキ・アメリカ・チョコレートアイス
7月7日 20日 31日	七夕 ホーム喫茶 土用丑の日	特・デ 特 特・デ	ちらし寿司、里芋饅頭、ゆかり和え、澄まし汁 クラシックショコラ、チーズスフレ、プリン うな井、大根ときゅうりの昆布茶和え、黄桃缶、澄まし汁
8月16日 12日	夏の味覚メニュー リクエストメニュー	特・デ 特・デ	とうもろこしご飯、いわしつみれと夏野菜トマト煮、茄子 のそぼろ煮、はんぺん枝豆和え 三色丼、魚河岸揚げの煮物、黒花豆の甘煮
9月2日 17日	リクエストメニュー 敬老祝い	特・デ 特	けんちんうどん、パプリカの肉みそ炒め他 赤飯、天ぷら、里芋饅頭、法蓮草のお浸し他
10月16日 25日	秋の味覚メニュー ホーム喫茶	特・デ 特	松茸ご飯、鮭のもみじ焼き、かぼちゃの含め煮他 シンモンブラン、ベリージュ、コーヒーゼリー
11月10日 22日	リクエストメニュー リクエストメニュー	特・デ 特・デ	ミートソーススパゲッティ、フレンチサラダ、寒天ミルク プリン 白身魚フライ、レンコンのきんぴら、山芋の梅ゆかり和え
12月25日 31日	クリスマスメニュー 年越し	特・デ 特	星のミックスフライ、アスパラとカリフラワーサラダ、ミ ネストローネ、チョコパバロア 年越しそば、大根と人参のうすくず煮
1月1日 7日	元旦 七草	特 特	赤飯、おせち料理、雑煮、5点盛り 七草がゆ、生揚げと野菜の煮物、金時豆、梅干し、味噌汁
2月3日 15日	節分 冬の味覚メニュー	特・デ 特	いわしつみれと大豆のトマト煮、冬瓜のエビあんかけ、い んげんとしめじのクルミ和え 生姜ご飯、蒸しダラと芽キャベツの柚子バターソース、大 根と人参の炒め煮、焼き椎茸と春菊のゴマ和え
3月3日 5日 14日	ひな祭り 寿司バイキング ホーム喫茶	特・デ 特 特	ちらし寿司、白菜のうま物、黒花豆甘煮 にぎり寿司、いなり寿司、茶わん蒸し、黒花豆煮 ショートケーキ・チョコレートケーキ、プリン

ウ 研修の状況

研修の参加状況は、次のとおりである。

(ア) 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
施設管理者	福祉施設における DX に必要なネットワーク環境整備のポイント	7月3日	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	1人
	高齢者虐待防止研修	11月28日	(公財) 東京都福祉保健財団	1人
	デジタルシンポジウム	10月30日	東社協 東京都高齢者福祉施設協	1人
介護職員	介護福祉士実習指導者講習会	7月12日	しかくの学校ホットライン	1人
看護職員	高齢者福祉施設向け講演会「集団発生事例を通して施設管理を考える」	10月11日	多摩府中保健所	1人
事務員	労働基準法等に関する研修	7月4日	東社協 東京都福祉人材センター研修室	1人
	社会保険 保険料控除と免除・インボイス制度	7月5日	東京社会保険協会	1人
	従事者共済会に関する事務説明会	10月2日	東社協 福祉振興部共済担当	4人
	採用担当者研修	1月18日	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	1人
	処遇改善加算セミナー	2月14日	(公財) 介護労働安定センター	1人
調理師・栄養士	栄養士のための情報交換会	7月11日	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	1人
	新人栄養士講習会	7月26日	多摩府中保健所	1人
	食品衛生実務講習会	11月21日	多摩府中保健所	1人
	嚥下調整食セミナー	11月22日	林兼産業(株)	2人
	「災害時の備蓄について」	1月17日	多摩府中給食施設協議会	2人
参加延べ人数合計				20人

(イ) 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
全職員	「食中毒予防の6つのポイント」	7月25日	感染症対策委員会	7人
全職員	「虐待の芽を摘もう」	11月15日	高齢者虐待防止法推進委員会	18人
全職員	「ストレス対応編～ストレスへの抵抗力を高める」	12月26日	安全衛生委員会	46人
全職員	「家庭教育講座」	2月11日	子育てと仕事の両立委員会 (法人主任等調整連絡会議)	28人
全職員	「嚥下をはじめとする介護事故予防」	3月12日	事故防止対策委員会	20人
全職員	「身体拘束ゼロへの手引き」	3月12日	身体拘束適正化委員会	20人
全職員	「事故防止の事例検討」	3月28日	事故防止対策委員会	18人

全職員	「身体拘束について」	3月28日	身体拘束適正化委員会	18人
全職員	「感染症予防手洗い研修」	3月29日	感染症対策委員会	36人
参加延べ人数合計				211人

エ ボランティア等の状況

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症等の感染状況を鑑みながら、ボランティア活動が再開可能な活動については、感染予防対策を実施したうえで再開したが、家庭の事情等で活動終了となったケースが多く、年間の活動延べ人数は736人で、令和3年度の1,057人に比べ、321人減少した。

(単位：人)

活動団体・内容等		活動先			延べ人数
		特養	デイ	施設全	
クラブ・技術指導等	手芸	0	0	0	0
	書道	0	24	0	24
	編み物	0	37	0	37
	籐細工	0	0	0	0
	革細工	0	81	0	81
	陶芸	0	52	0	52
	織物	0	43	0	43
全般・諸活動	リネン類整理	399	0	0	399
	傾聴	0	0	0	0
	歌・朗読・紙芝居	0	10	0	10
	鍼灸・マッサージ	0	0	0	0
	ダンス・リズム体操	0	0	0	0
	諸活動補助等	0	56	0	56
	音楽・演奏	0	0	0	0
	調布市立柏野小学校	0	0	0	0
中庭美化	中庭草取り	0	0	34	34
行事等	夏まつり	0	0	0	0
	ホーム喫茶	0	0	0	0
	その他行事	0	0	0	0
合計		399	303	34	736

オ 実習生の受入状況

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、コロナ禍前に比べて、受け入れ人数はまだ少ないが年間の受け入れ延べ人数は210人で、令和4年度の132人に比べ78人増加した。

(単位：人)

学校人等	目的	実習先			延べ 実習者数
		特養	デイ	支援	
多摩職業能力開発センター府中校	実務者研修資格取得	4	4	0	8
東京都社会福祉協議会	介護等体験	60	55	0	115
白梅学園大学	介護実習	20	0	0	20
日本福祉教育専門学校	介護実習	27	0	0	27
二葉栄養専門学校	栄養士実習	40	0	0	40
実習生合計					210

2 福祉課

(1) 重点事項への取組

ア サービスの質の確保と労働環境の省力化による業務改善

高齢者虐待防止法の推進、感染症対策、事故防止における安全対策など委員会の組織体制の見直しを進め、運営基準の順守を図り、サービスの質の確保、向上に繋げた。

また、ICT化の推進によってケア時間の拡大に繋がり、利用者の生活能力応じた危険予測とサービスの質の確保にも繋がった。

イ ケアの質の維持と多職種連携の強化

令和5年度においても、利用者一人ひとりに寄り添った適切なケアの提供の推進を目標とし、多職種協働の視点からのアセスメントを定期的実施することで一貫性のあるケアに取り組むことができた。

また、ICT化を推進することにより介護記録や申し送りなどの情報共有の効率化を図りケアの質の維持、ケア時間の拡大に繋げることができた。

ウ 家族との信頼関係の強化と連携

感染症対策に伴い家族との面会を窓越しでの実施からロビーでの対面式に戻し、利用者との面会の機会を増やすことができた。ロビーでの面会を実施することにより家族との意見交換やケアプランの意向確認、利用者の状況報告など適宜行うことができた。

また、新型コロナウイルスに感染した利用者への隔離対応では、重度化を防ぎ感染拡大予防に努めることができた。感染症対策や緊急時に適切な対処ができるような介護職の医療的スキルの向上となった。

エ 新規利用者の迅速な導入と空床利用の削減

特養申込者数が年々減少傾向にあり、待機者の多くが病院や老健、有料老人ホームなどに入っているため、当該施設での新型コロナウイルス感染症におけるクラスター発生などの理由から、迅速な受け入れに苦慮した。令和5年度においては入居申し込みをしている方の意向を定期的に確認し、適切かつ迅速な入所選考により空床期間の縮減に努めた。

また、空床情報を市内外の関連機関へ広く提供し、従来型多床室特養の利点をアピールしつつ、ニーズに合致した申込者の確保に努めた。

(2) 実績報告（特養・定員64人）

ア 年齢状況

令和5年度3月末の利用者の平均年齢は87.7歳で約0.2歳若返った。ただし、80歳から95歳の方が、全体の約4分の3を占めている。

令和6年3月31日現在（単位：人）

	年齢別	男	女	計	構成比 (%)
1	65歳未満	0	1	1	1.8
2	65～70歳未満	0	2	2	3.3
3	70～75歳未満	0	1	1	1.8
4	75～80歳未満	1	3	4	6.8
5	80～85歳未満	4	5	9	15.0
6	85～90歳未満	2	13	15	24.8
7	90～95歳未満	1	17	18	29.7
8	95～100歳未満	1	7	8	13.3
9	100歳以上	0	2	2	3.3
	合計	9	52	61	100
	最高年齢（歳）	98	108	—	—
	最低年齢（歳）	75	56	—	—
	平均年齢（歳）	85.8	88.0	—	—

イ 在籍期間

令和5年度の新規利用者は16人で、令和4年度より1人減少した。

また、利用者の在籍期間については、平均36.5か月で約3年となっている。特に男性は、平均20か月で在籍期間が短期的になっている。

令和6年3月31日現在（単位：人）

	期間	男	女	計	構成比 (%)
1	1年未満	2	11	13	21.3
2	1～3年未満	4	21	25	41.0
3	3～5年未満	3	10	13	21.3
4	5～10年未満	0	8	8	13.1
5	10年以上	0	2	2	3.3
	合計	9	52	61	100

ウ 退所状況

退所者は、年間19人で、令和4年度と比較し1人増加した。内訳は、下表のとおりである。

	性別	年齢	退所月	保険者	退所理由	在籍期間	要介護
1	女	95	4月	調布市	長期入院加療	3年1か月	5

2	男	80	4月	調布市	長期入院加療	6年3か月	5
3	女	106	5月	調布市	長期入院加療	13年1か月	5
4	女	95	5月	調布市	入院先で死亡	8年7か月	5
5	男	93	5月	調布市	長期入院加療	3年7か月	4
6	女	101	6月	調布市	長期入院加療	2か月	5
7	女	96	6月	調布市	長期入院加療	1年8か月	4
8	男	89	7月	調布市	長期入院加療	5か月半	3
9	女	96	7月	調布市	長期入院加療	3年6か月	4
10	女	96	10月	調布市	長期入院加療	4年9か月	4
11	男	82	10月	調布市	長期入院加療	1年4か月	5
12	女	100	11月	調布市	入院先で死亡	3年0か月	5
13	女	92	11月	調布市	入院先で死亡	5か月	4
14	男	95	11月	調布市	長期入院加療	7年5か月	5
15	女	95	1月	調布市	長期入院加療	3年8か月	5
16	女	89	1月	調布市	長期入院加療	7か月	4
17	女	102	1月	調布市	長期入院加療	2年6か月	4
18	男	88	2月	調布市	長期入院加療	1年2か月	4
19	女	90	3月	調布市	長期入院加療	2年2か月	5
平均		93.6	—	—		5年7か月	4.7

エ 月別要介護度分布表

令和5年度においても、日常生活支援継続加算の取得体制を継続するため要介護4以上の方を優先的に受け入れてきたことで、平均要介護度や要介護4以上の利用者の傾向は変わらない。

(単位:人)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
4	0	0	3	38	23	4.3
5	0	0	4	39	22	4.3
6	0	0	5	40	19	4.2
7	0	0	5	38	19	4.2
8	0	0	5	38	19	4.2
9	0	0	3	40	20	4.3
10	0	0	3	40	21	4.3
11	0	0	3	39	20	4.3
12	0	0	3	39	18	4.3
1	0	0	3	40	19	4.3
2	0	0	4	39	19	4.3
3	0	0	4	38	19	4.3
構成比(%)	0.0%	0.0%	6.5%	62.9%	30.6%	-
平均	0	0	3.8	39.0	19.8	4.3

オ 月別利用実績

令和5年度の年間利用率は88.7%となり、令和4年度比2.8ポイント減となった。

在籍状況が示すとおり、在籍期間の短期化とともに入院に伴う長期療養な

ど、ここ数年での入れ替わりも定着性の低さに現れている。

また、令和4年度と同様に令和5年度も新規申し込み者の待機施設や医療機関における新型コロナウイルス感染症の対応による制限的な対応が迅速な導入に繋がらなかったことを鑑み、在宅で生活する高齢者を優先的に抽出するも対象となる要介護4以上の方が皆無となり、新規利用者の利用手続きが遅れたことも利用率の低下に繋がった。

月	延べ利用日数（日）	延べ利用可能日数（日）	利用率（％）
4	30	1,739	90.6%
5	31	1,742	87.8%
6	30	1,809	94.2%
7	31	1,834	92.4%
8	31	1,813	91.4%
9	30	1,724	89.8%
10	31	1,809	91.2%
11	30	1,677	87.3%
12	31	1,638	82.6%
1	31	1,616	81.5%
2	29	1,627	87.7%
3	31	1,751	88.3%
合計	366	20,779	—
平均	31	1,732	88.7%

3 高齢者在宅サービスセンター

(1) デイサービス

ア サービスの質の確保と介護保険制度の改定を見据えた取組

デイサービスでは、特養を母体とする併設の事業であることを念頭に、業務継続計画の策定とともに感染対策に注力した。特に、新型コロナウイルス感染症が5類に分類され、発症者の待機義務等が緩和されたことにより、諸症状の確認や体温の測定などの取り組みを継続しつつも感染対策が負担にならないよう、同居家族や介護支援専門員と密に連携を図り、サービスが中断することのないように努めた。

介護保険制度の改定を見据えた取組では、高齢者虐待防止法の推進及び非常時災害対策、感染症対策、地域との連携など、特養併設サービスの特徴を活かした事業継続計画（BCP）を策定した。

イ デイサービス相互支援効果を活かしたプログラムの推進

令和5年度においても、デイサービスの集団的相乗効果を目標に、保育園児との交流会やオペラ鑑賞など新たな音楽ボランティアの導入を行い、行事やイベントを増やすことができた。

また、利用者一人ひとりのアセスメントを半年に一度行い、利用者ニーズに応じた趣味活動の選択や提供時間の相談等に積極的に関わり、利用者と家族の意向を引き出すことにより、利用者の楽しみ、笑顔、満足度の向上に繋げることができた。

ウ 利用率及び収支の安定化の維持

利用率については、新規希望者の迅速な導入に繋げるため、送迎調整を適時行い、申し込みから導入までを最短で行った。また、新型コロナウイルス感染により入所系サービスの利用が中止になった場合においても、臨時利用等を提案し、デイサービスの利用が家族等にも安心なサービスとなるよう努めた。

また、収支の安定化については、中期経営計画を基本に、送迎ルートの見直しや物品、活動費のコスト意識を職員と共有し経費の縮減に努めることができた。

エ 認知症高齢者ケアの実践と家族支援の強化の継続

認知症対応型通所介護においては、令和5年度も引き続き「自己実現」「自己達成」に繋がるプログラムの取組を行った。

また、家族（介護者）支援においても、祝日運営によるレスパイト機能を維持しながら、自立度が高い利用者の方には、エルダーシステムを利用し、脳トレーニング、転倒予防体操、音楽会、昔懐かし遊びなど、回想や心に残るプログラムを提供するなど幅広く活動を提供することができた。特に、認知症対応型通所介護の目的の一つでもある地域との活動においては、「オレンジガーデニングプロジェクト」に参加し、種まき・発芽・開花を楽しんだ。

ご家族から「連絡帳の記入内容によって、本人が施設で何をしたのか等の様子が、詳しくわかるので安心します。」との声が多く、それにより、曜日増回へと繋がり、ご家族にとっても信頼性の高いサービスの提供を図ることができた。

(2) 居宅介護支援事業

ア ケアマネジメントの質の向上及び公正中立なケアマネジメントの継続

令和5年度においては、特定事業所加算の取得に向けた取り組みとして介護支援専門員の増員を行った。これに伴い、ケアマネジメントの質の向上に努め、従来から行ってきたケアマネ会議の内容を深めるなど、利用者サービスの質の向上やケアプランの作成に取り組んだ。その結果、特定事業所加算の算定要件を満たし、収益性においても事業所の向上に繋げることができた。

なお、特定事業所としての質を長期的に確保するため、多様な研修機会の参加や事例検討会、ケアプラン点検などの取組を強化し、利用者の意思に基づいたケアプラン提供に努めた。

イ 健全な経営と地域高齢者への支援

令和5年度は、新たな事業体制を推進するための1年目として、職員の増員、指導、育成、資格取得など様々な確認や再点検作業を行った。

また、ケアプラン作成件数は100件に達し、事業の活動範囲を徐々に広げるなど、より地域への還元性を広げることができ、令和6年度に向けた準備に繋げることができた。

(3) 実績報告

ア 通常規模型通所介護（総合事業を含む。）月別利用実績

令和5年度の年間利用率は、86.5%で令和4年度比2.2ポイント減となったが、経営目標値に対しては、1.5ポイント上回っている。

令和4年度に比べてやや利用率が低下している要因の一つは、他のデイサービスやショートステイなどの事業が通常どおりの活動に戻ってきたことが利用者のサービス状況から考察される。

(単位：人)

月	利用延人数	送迎利用数	利用日数(日)	利用率(%)
4	507	1003	24	84.5%
5	571	1127	27	84.6%
6	572	1112	26	88.0%
7	546	1063	25	87.4%
8	554	1081	26	85.2%
9	532	1046	24	88.7%
10	532	1039	25	85.1%
11	511	996	24	85.2%
12	520	1017	24	86.7%
1	488	951	23	84.9%
2	506	1012	23	88.0%
3	565	1112	25	90.4%
合計	6,404	12,559	296	86.5%
1日平均	21.64	42.43		

イ 認知症対応型通所介護（介護予防認知症対応型通所介護を含む。）月別利用実績

令和5年度の年間利用率については、79.9%となり、令和4年度に比べて3.4ポイント上昇した。

新規利用者は8人で、終結者は9人であった。令和5年度前半は、安定した利用率を維持できていたが、後半から徐々に入所による終結者が増え、令和5年度は、9人の終結者の内6人が施設入所であった。

(単位：人)

月	利用延人数	送迎利用数	利用日数(日)	利用率(%)
4	237	466	25	79.0%
5	287	572	27	88.6%
6	263	526	26	84.3%
7	265	528	26	84.9%
8	271	542	27	83.6%
9	254	507	26	81.4%
10	252	503	26	80.8%
11	247	491	26	79.2%
12	227	453	24	78.8%
1	218	434	24	75.7%
2	219	433	25	72.8%
3	212	423	26	67.9%
合計	2,952	5,878	308	79.9%
1日平均	9.58	19.08		

ウ 認知症対応型通所介護事業運営推進会議の開催

認知症対応型通所介護は、地域密着型サービスのため、厚生労働省令で平成29年度から運営推進会議の設置が義務付けられた。

これは、地域との連携や施設の適切な運営を実現し、関係者からの要望、助言等を聞く機会を保障するために設置するものである。

概ね6か月に1回の開催が求められ、令和5年度の開催状況は、下記のとおりである。

	開催日	議 題
令和5年度第1回	令和5年4月18日	・令和4年度の事業運営について ・利用傾向及び利用者状況について ・活動報告について ・ご利用者、ご家族からの意見について
令和5年度第2回	令和5年10月17日	・令和5年度上半期の事業運営について ・利用傾向及び利用者状況について ・活動報告について ・ご利用者、ご家族からの意見について

※利用者及び利用者家族についてはアンケートを実施し、意見等をいただいた。

なお、運営推進会議の構成員3人については、下表のとおりである。

(敬称略)

氏 名	選任区分	任 期
添田 淳子	民生・児童委員	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日
島木 愛 (途中で交代) 松本 由満	調布市地域包括支援センター ゆうあい職員	
有本 キヨ子	地域有識者	

エ 通常規模型通所介護（総合事業を含む。）月別要介護度分布表

令和5年度の平均要介護度は1.64となり、令和4年度に比べて0.7ポイント重度化した。

全体的には令和4年度と傾向は変わらないものの、要支援者に比べて要介護者の利用が増えたことが重度化の要因となっている。

（単位：人）

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	18	51	251	77	56	54	0	507
5	18	61	279	66	78	69	0	571
6	15	67	263	71	90	66	0	572
7	19	64	261	59	84	59	0	546
8	25	70	272	64	75	48	0	554
9	28	64	240	74	77	49	0	532
10	21	66	260	69	68	48	0	532
11	22	65	255	57	61	51	0	511
12	21	64	255	57	75	48	0	520
1	19	63	239	57	65	45	0	488
2	17	70	255	45	63	56	0	506
3	20	75	289	48	72	61	0	565
合計	243	780	3119	744	864	654	0	6404
比率	3.8%	12.2%	48.7%	11.6%	13.5%	10.2%	0.0%	
1日	0.8	2.6	10.5	2.5	2.9	2.2	0.0	21.6

オ 認知症対応型通所介護（介護予防認知症対応型通所介護を含む。）月別要介護度分布表

令和5年度の平均要介護度は2.93となり、令和4年度比で0.02ポイントの重度化となったが、ほぼ横ばいである。ただし、月次別に見ると要介護3以上の方の入所が増えていることから、平均要介護度は軽度化傾向となっている。特に要介護3の利用者の減少傾向となっている。

（単位：人）

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	0	43	26	94	47	27	237
5	0	0	60	28	110	62	27	287
6	0	0	63	25	84	66	25	263
7	0	0	66	23	82	66	28	265
8	0	0	53	40	84	71	23	271
9	0	0	48	36	81	71	18	254
10	0	0	50	35	87	65	15	252
11	0	0	47	31	84	67	18	247
12	0	0	36	23	86	63	19	227
1	0	0	36	20	73	64	25	218
2	0	0	43	29	62	60	25	219
3	0	0	39	20	70	62	21	212
合計	0	0	584	336	997	764	271	2,952
比率	0.0%	0.0%	19.8%	11.4%	33.8%	25.9%	9.2%	
1日平均	0.0	0.0	1.9	1.1	3.2	2.5	0.9	9.6

カ 居宅介護支援事業所のケアプラン作成件数(介護予防サービス計画含む。)
令和5年度のケアプラン作成件数は、1,156件と令和4年度比208件増となった。

また、新人介護支援専門員1人を採用し、段階的に事業目標の105件に向けて、ケアプラン作成件数の確保に取り組んできたことが、作成数の向上に繋がっている。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
国保連請求	94	88	97	94	99	94	96	98	98	101	99	98	1,156	96.3
請求外相談	1	2	1	1	2	0	0	2	2	3	1	0	15	1.25
合計	95	90	98	95	101	94	96	100	100	104	100	98	1,171	97.6

※ 請求外相談とは、新規や入院等で介護請求が発生しなかったケース。

キ 居宅介護支援事業所の要介護認定及び要支援認定調査件数

新型コロナウイルス感染症に伴う臨時的な対応により、要介護認定調査自体が減少していたこともあったが、令和5年度は業務日程の都合等のため認定調査依頼を受けることがなかった。

Ⅲ 神代の杜

第1 総括

神代の杜は、調布市内で唯一の地域密着型特養として独自の取り組みを行うとともに、本体施設である調布八雲苑のサテライト施設として、単にバックアップの下で運営するのではなく、緊密な連携を取りつつ、単独施設として安定した経営基盤を築けるよう努力することが求められる。

また、地域密着型施設は、調布市から事業者としての指定を受けていることから、事業計画書、事業報告書及び運営推進会議議事録に基づき、適時、施設運営について報告し、指導・助言を受けている。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月から感染症法上の位置づけが2類相当から5類感染症に変更されたことにより、神代の杜での面会の制限を撤廃した。このことで、提供している入居者ケアを普段の生活から家族が見聞きできるようになったことで要望等を直接聞く機会が増えた。

入居者ケアについては、ユニット会議を毎月開催したことで、入居者の状態を的確に把握し、状態の変化にもチームとして対応できた。

また、ユニットごとの悩みや問題点を共有し、職員個々の視点で議論したことで、意思統一を図ることができた。

経営面においては、令和5年度の特養の利用率が年間で92.7%となり、目標よりも4.3ポイント低かったが、施設全体の収支差額率が0.77%となり、資金収支差額は313万円余で3年連続黒字となった。黒字となった要因としては、事業費の支出が予算を下回ったことが大きかった。

しかし、人件費については、令和5年11月から派遣職員との契約で予算以上の支出となった。今後は、人件費支出を抑制するために派遣職員に頼らない人員体制を構築する。

ショートステイの利用率は、目標値を下回ったものの、令和4年度から13.1ポイント上昇した。その結果、サービス活動収益は、令和4年度と比較して約247万円の増収となった。

令和6年度も中期経営計画の行動計画における経営戦略を実践し、ショートステイ事業の利用率向上に取り組んでいく。

なお、東京都及び調布市に報告した事故件数は次のとおりであった。

事故の分類	発生件数	事故の分類	発生件数
転倒	2	誤薬	0
転落	0	異食	0
尻もち	0	感染症	1
表皮剥離	0		
		合計	3

第2 経営実績

1 目標値に対する実績

目標値に対する実績は、次のとおりである。

(単位：%)

事業名	目標値	令和5年度 実績	令和4年度 実績
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) 利用率	97.0	92.7	95.1
短期入所生活介護 (ショートステイ) 利用率	80.0	74.0	60.9

第3 事業報告

1 重点事項への取組

(1) ユニットケアによる個別ケアの推進

令和5年度の新規入居者9人のうち5人が居宅からの入居であった。入居前の面談において、居宅での生活状況を把握し、入居後も生活が連続したものとなるよう配慮した。

特に居室のしつらえは、愛着のあるものの持ち込みを依頼し、今までの生活が継続できるよう家族と情報共有した。

また、各ユニットのセミパブリックスペースのしつらえは、ユニット会議において過ごしやすい居場所となるよう協議し実践した。

なお、福祉用具の導入については、機能性も重視しつつも居室のしつらえと調和が図れるような福祉用具の選定を心掛けた。車いすの購入については、ティルト式、リクライニング式のものを購入して入居者の状態に合った車いすを使用した。しかし、予算の都合でモジュラー型車いすを購入できなかったため、令和6年度以降に購入検討する。

(2) 安定した経営のための取組

令和4年度に引き続いて中期経営計画に掲げる経営戦略のショートステイの利用率向上に向けた改善策を実践した。

初回利用の受け入れについて、令和4年度までは2泊3日としていたものを3泊4日以上の利用でも受け入れ可能としたことで、令和5年度の新規利用者15人のうち6人が3泊4日以上の利用となった。このことから、初回利用期間の選択肢が広がり、2泊3日のお試し利用の枠を超えた家族ニーズの掘り起こしにつながった。

また、新規利用受け入れ人数については、令和5年度は15人で前年度と比較して2人減少した。しかし、2年続けて10人以上の受け入れとなった

ことは、中期経営計画の経営戦略を実践したことが実績に結び付きつつある。

(3) 地域密着型施設としての地域貢献について

コロナ禍前に神代の社会議室で体操活動をしていたグループは解散した。このことにもない、団体でボランティア活動をしているのは1グループのみとなった。

また、近隣自治会との相互協力体制の構築については、先方の都合で締結するには至らなかった。

しかし、北ノ台地区協議会（北ノ台まちづくりネットワーク地区）主催の防災訓練に職員が参加し、地域との連携強化を図るとともに神代の杜が要配慮者避難施設として指定されていることを周知・啓発を行った。

地域密着型サービス事業者に義務付けられている運営推進会議の開催については、開催自粛することなく年6回開催し、2か月ごとの事業運営状況を報告した。

なお、令和4年度に引き続き、北ノ台地区協議会（北ノ台まちづくりネットワーク地区）の運営委員として参画し、令和5年度からは役員に選出され、地域で開催される行事等に参加するとともに北ノ台地区協議会が円滑に運営できるよう対応した。

2 実績報告

(1) 給食の状況

令和5年度は、行事食計画をユニットと共有し、四季を感じる食事やおやつの内容について毎月の給食委員会で協議し行事に合わせたメニューを提供した。

また、BCP対策として新たな非常食を取り入れることにより、従来の常食用のみの備蓄だけではなく、有事の際に利用者の食形態に応じた対応が可能となった。今後もローリングストック方式による備蓄品の見直しを行い、災害時の対策を講じていく。

年間の行事などは、リクエストメニュー12回、バイキング1回、行事食10回を実施した。

特養（介護老人福祉施設。以下同じ）利用者食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	788	789	790	10	852	853	852
5	860	860	861	11	816	816	816
6	841	841	841	12	849	851	850
7	820	819	818	1	832	830	831
8	797	798	797	2	743	745	745
9	809	808	809	3	794	795	796
				計	9,801	9,805	9,806

ショートステイ（短期入所生活介護。以下同じ）利用者食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	50	61	52	10	49	62	48
5	56	67	54	11	59	72	60
6	59	70	60	12	53	67	52
7	56	67	55	1	51	66	53
8	71	85	73	2	37	52	42
9	65	77	65	3	38	49	36
				計	644	795	650

行事食献立一覧（特＝特養、シ＝ショート）

月日	行事名	課名	献立内容
4月7日 24日 27日	リクエストメニュー 春の味覚メニュー もりカフェ	特・シ 特・シ 特	煮込みハンバーグ、糸こんにゃくのかか煮、小松菜のゴマ和え グリーンピースご飯、鱈の西京漬焼き、若竹煮 菜の花の和え物 果実たっぷりショートケーキ他、飲み物4種
5月5日 24日 24日	こどもの日 リクエストメニュー もりカフェ	特・シ 特・シ 特・シ	ちらし寿司、魚河岸揚げの京風煮、黒花豆の甘煮、澄まし汁 エビカレー、キャベツとカニの酢の物、手作りゼリー 苺ショート他、飲み物4種
6月8日 20日 28日	リクエストメニュー おやつバイキング もりカフェ	特・シ 特・シ 特	焼きそば、大根とキュウリの昆布茶和え、福福杏仁 レアチョコケーキ、ダブルベリーケーキ、黒蜜抹茶ケーキ他 七夕苺ゼリー、飲み物4種
7月7日 26日 30日	七夕 もりカフェ 土用丑の日	特・シ 特 特・シ	ちらし寿司、里芋まんじゅう、黒花豆の甘煮、澄まし汁 果実たっぷりショートケーキ他、飲み物4種 うな井、大根ときゅうりの昆布茶和え、黄桃缶、澄まし汁
8月9日 23日 25日	リクエストメニュー もりカフェ リクエストメニュー	特・シ 特・シ 特・シ	ミートソーススパゲッティ、胡瓜とツナのレモン和え、福福杏仁 白桃トルテ、飲み物4種 三色丼、魚河岸揚げの煮物、黒花豆の甘煮
9月5日 20日 23日	リクエストメニュー 敬老祝い もりカフェ	特・シ 特・シ 特	けんちんうどん、パプリカの肉みそ炒め、ババロア 握り寿司、澄まし汁 チーズケーキ他、飲み物4種
10月16日 24日 25日	リクエストメニュー リクエストメニュー もりカフェ	特・シ 特・シ 特	挽肉のカレー、フレンチサラダ。手作りゼリー ロースとんかつ、きんぴらごぼう、キャベツの昆布茶和え ガトーショコラ他、飲み物4種
11月10日 16日 22日	リクエストメニュー リクエストメニュー もりカフェ	特・シ 特・シ 特・シ	ミートソーススパゲッティ、フレンチサラダ、寒天ミルクプリン 白身魚フライ、レンコンのきんぴら、山芋の梅ゆかり和え クレープ・オ・フリユイ他、飲み物4種
12月25日 31日	クリスマスメニュー 年越しそば	特・シ 特・シ	ミックスフライ、アスパラとカリフラワーサラダ、ミネストローネ、 バニラババロア 年越しそば、大根と人参のうすくず煮、えのきときゅうりの酢の物
1月1日 7日 24日	元旦 七草がゆ もりカフェ	特・シ 特・シ 特	赤飯、おせち料理、五点盛り、お雑煮 七草がゆ、生揚げと野菜の煮物、金時豆、梅干し、味噌汁 プリンアラモード他、飲み物4種
2月3日 13日 28日	節分 リクエストメニュー もりカフェ	特・シ 特・シ 特	いわしつみれと大豆のトマト煮、冬瓜のエビあんかけ、いんげんと しめじのクルミ和え タラの塩麹漬焼き、麻婆茄子、キャベツの昆布茶和え プリンアラモード他、飲み物4種
3月3日 22日 27日	ひな祭り リクエストメニュー もりカフェ	特・シ 特・シ 特・シ	ちらし寿司、がんもとぜんまいの煮物、黒花豆煮、澄まし汁 ハヤシライス、アスパラサラダ、寒天ミルクプリン 苺ショート他、飲み物4種

(2) 研修の状況

研修の参加状況は、次のとおりである。

ア 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
施設長	令和5年度集団指導	2月13日	東京都福祉保健局	1人
	シンポジウム「コロナ禍を乗り越えて」	2月26日	東京都多摩府中保健所	1人
	清掃工場視察研修	2月27日	北ノ台まちづくりネットワーク（地区協議会）	1人
事務員	介護報酬請求事務に関する研修会 2023	9月22日	東京都社会福祉協議会	1人
調理師	環境衛生・食品衛生について	6月13日	東京都多摩府中保健所	1人
	HACCPに沿った衛生管理	8月24日～ 8月25日	東京都多摩府中保健所	1人
参加延べ人数合計				6人

イ 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
介護職員・看護職員	事故防止研修	5月1日、8月29日	施設内部	13人
	褥瘡予防研修	5月15日、8月21日	施設内部	10人
	身体拘束廃止研修	4月17日、7月24日	施設内部	10人
	感染症対策研修	8月21日、11月16日	施設内部	12人
	虐待防止研修	7月24日、3月9日	施設内部	6人
	たん吸引研修	11月24日、2月28日	施設内部	11人
参加延べ人数合計				62人

(3) ボランティア等の状況

令和5年度は、ボランティアの受け入れ制限を令和5年6月に撤廃した。
このことにより、延べ活動人数が76人増加した。

(単位：人)

活動団体・内容等		人数	延べ
全般・諸活動	ピアノ・フルート演奏	2	12
	琴演奏	4	28
	フラダンス	8	8
美化	草取り、樹木剪定、菜園	17	221
	シート交換	1	34
合計		22	303

(4) 年齢状況（特別養護老人ホーム・定員29人）

入居者の平均年齢は、87.0歳であり、令和4年度と比較して2.4歳低下した。

令和6年3月31日現在（単位：人）

No.	年齢別	男	女	計	構成比 (%)
1	65歳未満	1	0	1	3.9
2	65～70歳未満	0	2	2	7.7
3	70～75歳未満	0	0	0	0
4	75～80歳未満	0	0	0	0
5	80～85歳未満	2	2	4	15.4
6	85～90歳未満	0	7	7	26.9
7	90～95歳未満	2	5	7	26.9
8	95～100歳未満	0	5	5	19.2
9	100歳以上	0	0	0	0
合計		5	21	26	100.0
最高年齢 (歳)		94	98	—	—
最低年齢 (歳)		60	66	—	—
平均年齢 (歳)		81.6	88.2	87.0	—

(5) 在籍期間（特別養護老人ホーム）

平均在籍期間が2年9か月となり、令和4年度と比較して在籍期間が4か月短くなった。

令和6年3月31日現在（単位：人）

No.	期間	男	女	計	構成比 (%)
1	1年未満	1	7	8	30.8
2	1年以上～2年未満	2	3	5	19.2
3	2年～3年未満	1	3	4	15.4
4	3年～4年未満	1	3	4	15.4
5	4年～5年未満	0	0	0	0
6	5年～6年未満	0	2	2	7.7
7	6年～7年未満	0	1	1	3.8
8	7年以上		2	2	7.7
合計		5	21	26	100.0

(6) 退去状況内訳（特別養護老人ホーム）

令和5年度の退去者数は、令和4年度の9人から3人増加し12人となった。

令和5年4月1日～令和6年3月31日

No.	性別	年齢	退去月	退所理由	在籍期間	要介護度
1	女	95	4月	長期入院加療	2年11か月	4
2	男	91	6月	長期入院加療	1年5か月	3
3	女	98	7月	入院先で死亡	3か月	4
4	女	101	7月	入院先で死亡	3年1か月	4
5	女	87	8月	長期入院加療	6年8か月	5
6	女	92	9月	長期入院加療	10年9か月	3
7	女	94	12月	長期入院加療	1年9か月	4

8	女	90	2月	救急搬送後に死亡	1年7か月	5
9	女	105	2月	長期入院加療	6年8か月	4
10	女	87	3月	救急搬送後に死亡	1年9か月	4
11	女	96	3月	長期入院加療	1年10か月	4
12	女	98	3月	長期入院加療	5か月	4
平均		94.5	—	—	4年1か月	4.0

(7) 特別養護老人ホーム 月別要介護度分布表

令和5年度の平均介護度は、3.6となり、令和4年度と比較して0.2ポイント軽度となった。

(単位：人)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
4	0	0	13	14	2	3.6
5	0	0	14	13	2	3.6
6	0	0	15	13	2	3.6
7	0	0	14	13	2	3.6
8	0	0	15	12	2	3.6
9	0	0	16	12	1	3.5
10	0	0	15	13	1	3.5
11	0	0	14	14	1	3.6
12	0	0	14	14	1	3.6
1	0	0	14	13	1	3.5
2	0	0	15	13	1	3.5
3	0	0	15	13	0	3.5
構成比 (%)	0	0	50.2	45.2	4.6	100

(8) 特別養護老人ホーム 月別利用実績

令和5年度は、令和4年度と比較して2.4ポイント下回った。この要因は、令和4年度より退去者が増えて、退去から入居までの空床日数が増加したことによる。

(単位：日)

月	延べ利用日数	延べ利用可能日数	利用率 (%)
4	790	870	90.8
5	861	899	95.8
6	839	870	96.4
7	829	899	92.2
8	800	899	89.0
9	818	870	94.0
10	854	899	95.0
11	816	870	93.8
12	851	899	94.7
1	832	899	92.5
2	746	841	88.7
3	798	899	88.8

合計	9,834	10,614	92.7
----	-------	--------	------

(9) 短期入所生活介護（ショートステイ・定員3人） 月別利用実績

令和5年度の利用率については、令和4年度と比較して13.1ポイント上昇した。

月	利用実人数 (人)	利用延人数 (人)	利用日数 (日)	稼動日数 (日)	毎月の利用率 (%)
4	11	13	65	90	72.2
5	13	15	69	93	74.2
6	11	14	72	90	80.0
7	10	13	68	93	73.1
8	12	15	85	93	91.4
9	12	14	79	90	87.8
10	11	14	62	93	66.7
11	13	15	74	90	82.2
12	13	16	70	93	75.3
1	13	15	66	93	71.0
2	11	12	52	87	59.8
3	12	14	52	93	55.9
合計	142	170	813	1,098	
平均	11.8	14.2	67.8	91.5	74.0

(10) 短期入所生活介護（ショートステイ） 月別要介護度分布表

令和5年度は、要介護2の利用者が減少した一方で、要介護4及び要介護5の利用回数が増加した。特に、要介護5の利用者が2.7倍となった。

(単位：人) 空床ショート含む

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	0	14	3	38	10	0	65
5	0	0	16	0	40	13	0	69
6	0	0	17	0	50	5	0	72
7	0	0	15	0	27	10	16	68
8	0	0	14	0	28	27	16	85
9	0	0	21	0	18	11	29	79
10	0	0	10	3	7	24	18	62
11	0	4	15	6	11	18	20	74
12	0	4	17	5	13	11	20	70
1	0	5	16	5	11	14	15	66
2	0	9	17	3	9	14	0	52
3	0	4	18	4	12	13	0	51
合計	0	26	190	29	264	170	134	813
比率(%)	0	3.2	23.4	3.5	32.5	20.9	16.5	100

(11) 運営推進会議の開催

神代の社は地域密着型サービスのため、厚生労働省令で運営推進会議の設置が義務付けられている。これは、地域との連携や施設の適切な運営を

実現し、関係者からの要望、助言等を聞く機会を保障するため設置しているものである。概ね2か月に1回の開催が求められている。

令和5年度は、感染症等で開催を自粛することはなく、予定どおり6回開催した。

	開催日	議題・報告事項
第1回	4月27日	・令和5年度神代の杜事業計画について ・3月～4月の運営状況について
第2回	6月29日	・5月～6月の運営状況について
第3回	8月24日	・7月～8月の運営状況について
第4回	10月26日	・9月～10月の運営状況について
第5回	12月28日	・11月～12月の運営状況について
第6回	2月22日	・1月～2月の運営状況について

運営推進会議委員（敬称略）

氏名	選任区分	任期
矢田部 弘行	地域住民代表	令和4年9月1日～ 令和6年8月31日
赤羽 陽子	地域包括支援センター職員	
内藤 敬子	地域有識者	

※ この他に入居者及び入居者家族各1人が委員として加わっている。

IV 調布市ちょうふの里

第1 総括

1 全体の施設運営

本年度は、新型コロナウイルス発症から4年目を向かえた。令和5年度においては、新型コロナウイルスの感染症の類指定が、2類から5類に変わり、新型コロナウイルスへの意識が和らぎつつある中、高齢者施設であるちょうふの里（以下「当施設」という。）については、基本を大切に、感染症対策を継続するとともに、ワクチン接種も希望する特別養護老人ホームの利用者に対して行ってきた。

当施設では、6月、9月、1月にショートステイ、10月にデイサービス等で小規模ながらもクラスターが発生し、事業運営に大きな影響を受けた。

年度当初から介護職員等の求人・採用活動に重点を置いた。具体的には、ハローワークの求人情報や有料の求人サイトを活用するとともに、調布市社会福祉協議会主催の「福祉のしごと相談会」や養成校主催の就職説明会に参加し、求人募集を行った。また、施設の見学を希望する方については、優先的に対応した。

また、ガス、電気、ガソリン等の燃料費の高騰や物価の急騰が続く中、当施設を運営する経費が膨大になっている状況である。

経費節減のための取り組みを行っていたが、効果は微々たるものであった。そこで、当施設で働く職員全員から広くアイデアを募るためにアンケートを実施した。

その中で「印刷経費の削減を目的にペーパーレス化の推進」や「エコタイムを設ける。」など49個の多くの提案が出された。

令和6年度には、提案されたアイデアをもとに当施設の課長会で経費節減対策を検討し、すぐに実施可能なものや予算が必要なものを分けて取り組んでいくことになった。

2 事故等発生状況（課別・所属別事故報告件数）

（単位：件）

事故発生場所	件数
特養2階	71
特養3階	93
高齢者在宅サービスセンター（ショートステイ）	27
高齢者在宅サービスセンター（デイサービス）	22
配食サービス	1
管理課	1
地域支援課	1
合計	216

第2 経営実績

目標値に対する実績

特別養護老人ホームについては、長期入院者等の退所者が令和4年度の25人より更に多く29人となった。空床期間を短くするために努力したが、入所調整が追い付かず、年間利用率96%の目標値には至らなかった。

ショートステイについては、6月、9月、1月と事業内で新型コロナウイルスのクラスターが発生し、年間を通じて感染が収束せず、年間の目標値を大きく下回る結果となった。ショートステイとデイサービスを併用して利用している方が多く、デイサービスも同様の状況であった。

デイサービス、ショートステイともに利用者や職員に新型コロナウイルスの感染が確認された際、感染の可能性がある利用者に情報を伝えるとともに直近で利用する方にも発生状況をお知らせした。その結果、在宅サービスでは自主的に利用を控えるなど影響が数週間続き、利用率の回復に時間を要した。

居宅介護支援事業については、目標値の150件を超え、安定した事業運営となった。

訪問介護については、新規利用者を積極的に獲得し、はじめて目標値を達成することができた。令和4年度より月の平均サービス提供時間の実績を66時間のばし、収入ともに大きく増やすことができた。

(単位：%)

事業名		目標値	令和5年度 実績	令和4年度 実績
介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）利用率		96.0	91.4	92.5
短期入所生活介護（ショートステイ）利用率		92.0	81.0	95.2
通所介護 事業	通所介護 利用率	80.0	70.7	72.4
	認知症対応型通所介護 利用率	75.0	63.4	68.5
居宅介護 支援事業	ケアプラン作成数（月間）	150件	151.0件	158.2件
	予防プラン作成数（月間）	20件	26.2件	26.3件
訪問介護 事業	サービス提供数（時間/月）	510時間	530時間	455時間
	障がいサービス提供数（時間/月）	20時間	16時間	25時間

第3 課別事業報告

1 管理課

(1) 重点事項への取組

ア 中期経営計画に基づく取組の推進

中期経営計画の3年目にあたる令和5年度においては、中期経営計画の一部見直しをするとともに、引き続き公営施設としての役割を認識しつつ、自

主事業の収支改善に注力するなど、それぞれの事業所間で連携・協力し、情報の共有をしながら、経営戦略の実現に向けて着実に取り組みを進めた。

イ 経費の削減と効率化

令和5年度においては、調布市からの委託料が前年度と比較して、増額となった状況ではあるが、ガス、電気、ガソリン等の燃料費の高騰や物価の急騰が続く中、利用者に影響の出ない範囲で経費の節減に取り組んだ。

ウ 安定した食事の提供と環境づくり

給食調理業務の直営化から5年が経過した中で、平時の業務については安定した食事を提供できる仕組みが整ってきた。

しかしながら、調理員の退職、募集しても応募の少ない調理補助員や現在就労している調理補助員の高齢化など、人員体制の点で多くの課題を抱えながらの事業運営を実施した。

(2) 実績報告

ア 研修の状況

体系		内容	回数
職場研修	施設内研修	① 「新入職員研修」(講師 各管理職) 4月3日 参加者8人 ② 事故防止対策 ○「事故発生時の対応について」(福祉課) 6月22日 参加者16人 8月9日 参加者7人 ○「事故報告書の記入方法について」(デイサービス) 7月28日 参加者21人 ○「事故防止委員会の活動について」(ショートステイ)3月28日 参加者10人 ③ 虐待防止研修 ○施設職員向け『「その人らしさ」を大切にしたケアを目指して』 7月中旬 資料配布全員 ○虐待防止研修「尊厳を支えるケアについて」(福祉課) 7月24日 参加者19人 9月13日 参加者10人 ○「不適切な介護を考える」(デイサービス) 11月17日 参加者21人 ○「虐待防止研修について」(ショートステイ) 1月25日 参加者8人 ○「虐待防止について」(地域支援課) 9月21日 参加者11人 ④ 「ハラスメント研修」 9月中旬 資料配布全職員 ⑤ 感染症対策研修 ○「吐しゃ物の処理について」(福祉課) 11月7日 参加者17人 ※その後悉皆にて全介護職員等参加 26人 ○「クラスター発生の振り返りについて」	29

	<p>(デイサービス)</p> <p>12月22日 参加者 20人</p> <p>○「感染症対策について」(ショートステイ)</p> <p>10月31日 参加者 7人</p> <p>11月22日 参加者 7人</p> <p>12月 5日 参加者 5人</p> <p>○「感染予防について」(地域支援課)</p> <p>12月19日 参加者11人</p> <p>⑥ 事故防止研修「介護のリスクマネジメント・事故防止について」</p> <p>11月下旬 資料配布全職員</p> <p>⑦ 褥瘡予防研修「床ずれ対策について」</p> <p>12月19日 参加者 9名</p> <p>その他職員に資料配布</p> <p>⑧ 感染症対策研修</p> <p>『「行動が変わる！」迷わない・疲れないシンプルな感染症対策へ』</p> <p>1月下旬 資料配布全職員</p> <p>⑨ 労働安全衛生研修</p> <p>「生活習慣病についてもう一度考えよう。」</p> <p>9月下旬 資料配布全職員</p> <p>「腰痛予防研修」</p> <p>2月上旬 資料配布</p> <p>⑩ 「身体拘束について」</p> <p>3月中旬 資料配布全職員</p>	
	<p>⑪ 身体拘束廃止研修</p> <p>○身体拘束廃止研修「身体拘束について」(福祉課)</p> <p>2月14日 参加者 9人</p> <p>2月26日 参加者11人</p> <p>○「身体拘束について」(ショートステイ)</p> <p>12月28日 参加者 8人</p> <p>○「これって身体拘束？」(デイサービス)</p> <p>11月17日 参加者21人</p>	
福祉課内研修、勉強会	<p>① 「摂食・嚥下について」</p> <p>7月 4日 参加者16人</p> <p>② 「緊急時の対応について」</p> <p>3月 5日 参加者19人</p>	2
ショート研修、勉強会(ショートステイ担当内研修)	<p>① 「吸引について」</p> <p>6月 8日 参加者 8人</p> <p>② 「スキンテア(表皮剥離)について」</p> <p>9月22日 参加者12人</p>	2
デイサービス研修、勉強会(デイサービス担当内研修)	<p>① BPSD ケアプログラム</p> <p>4月13日 参加者12人</p> <p>5月11日 参加者11人</p> <p>6月 8日 参加者11人</p> <p>7月13日 参加者13人</p> <p>8月10日 参加者12人</p> <p>9月14日 参加者12人</p> <p>10月12日 参加者12人</p> <p>11月 9日 参加者12人</p> <p>12月14日 参加者 9人</p> <p>1月11日 参加者 9人</p> <p>2月 8日 参加者11人</p> <p>3月14日 参加者 9人</p> <p>*BPSD ケアプログラムとは、認知症の行動・心理症状をそれぞれ数値化し、分析、評価しながら個別のケア方針や内容を立てていくプログラム。</p>	12

地域支援課：訪問 介護事業所研修、 勉強会	① 「ヒヤリハットの重要性について」 4月19日 参加者13人 ② 業務管理システム「ケアピアノットの使い方について」 5月18日 参加者13人 ③ ガン末期ケースの在宅支援について 8月8日 8人 ④ 「高齢者の脱水症状の見分け方について」 8月14日 参加者13人 ⑤ 「ハラスメントについて」 10月18日 参加者15人 ⑥ 「ヘルパーができることできないことの確認について」 12月19日 参加者11人 ⑦ 「地震災害時マニュアルについて」 1月16日 参加者11人 ⑧ 介護支援専門員のためのハラスメント対策 1月16日 参加者 7人 ⑨ 高齢者へのメンタルヘルス 3月19日 参加者 8人	9
職場研修参加者合計延べ 557人		合計54回

	内 容	主 催	人数	延べ
外部研修	第1回認知症対応型サービス事業管理者研修	東京都社会福祉協議会	1	3
	介護支援専門員のための福祉用具・住宅改修(オンライン研修)	東京都社会福祉協議会	1	1
	施設における感染管理(オンライン研修)	東京看護協会	1	1
	高齢者施設の看護(オンライン研修)	東京看護協会	1	1
	ハラスメントのない職場づくり(オンライン研修)	東京都社会福祉協議会	1	1
	「行動が変わる！」迷わない・疲れないシンプルな感染対策へ	多摩府中保健所	1	1
	高齢者権利擁護研修「高齢者虐待防止研修」	東京都福祉保健財団	1	2
	安全運転管理者講習会	警視庁	1	1
	介護報酬請求事務に関する研修(オンライン研修)	東京都社会福祉協議会	1	1
	東京都認定調査員現任研修(オンライン研修)	調布市	16	16
	高齢者権利擁護研修「高齢者虐待防止研修」(介護サービス管理者向け)	東京都福祉保健財団	1	2
	集団発生事例を通して施設管理を考える	多摩府中保健所	2	2
	調布市介護事業者研修「個人スーパービジョン研修」	調布市	1	2
	介護支援専門員研修「初学者向けチェックリスト検証研修」(オンライン研修)	厚生労働省	1	1
	普通救命救急講習会	調布消防署	1	1
	「押さえておきたい!2024介護報酬改定のポイント」(オンライン研修)	東京都社会福祉協議会	2	4
	「介護職員のためのオンライン意見交換会」(オンライン研修)	東京都社会福祉協議会	1	1
	デイサービス研修「2024年度の介護保険制度改正と介護報酬改定」デイサービスの改正・改定のポイント	東京都社会福祉協議会	1	1
「過去の病気ではない!高齢者施設での結核対策を学ぼう。」	多摩府中保健所	1	1	

	若年性認知症企業向け研修会（オンライン研修）	東京都福祉局	1	1
	食品衛生実務講習会	多摩府中保健所	1	1
	福祉現場で活かすサービスを学ぶセミナー「お客様の立場でサービスを考えてみよう。」	東京都社会福祉協議会	1	1
	障害者虐待防止研修「福祉職のダークサイドを考える。」	調布市社会福祉協議会	1	1
	介護現場におけるハラスメント対策説明会（オンライン研修）	東京都社会福祉協議会	2	2
	生活相談員研修「再集結！生活相談員みんなががんばろう！介護報酬改定」	東京都社会福祉協議会	1	1
参加者43人・延べ50人				

イ 実習生等の受入状況

実習生等の受け入れについては、延べ233人となり、昨年度の延べ183人と比較すると増加した。

令和5年度は新たな取組として、東京都の事業の*「TOKYO かいごチャレンジインターンシップ」に参加し、介護職に興味のある方を受け入れた。

*「TOKYO かいごチャレンジインターンシップ」とは、介護職に興味のある方に対し、職場体験を通じ、介護現場を知ってもらう事業

(単位：人)

学校名等	実習目的	実習先			合計
		特養	デイ・シ	包・居・訪	
都立野津田高等学校	介護福祉士	90	—	—	90
公益財団法人東京YMCA医療福祉専門学校	介護福祉士	30	26	—	56
都立多摩職業能力開発センター府中校	介護職員新任者研修	12	12	—	24
調布市福祉人材育成センター	介護職員新任者研修	—	2	—	2
日本福祉大学	社会福祉士	6	10	8	24
杏林大学保健学部看護学科	地域包括ケア実習	—	—	4	4
東京慈恵会医科大学医学部看護学科	老年看護学	7	—	—	7
東京慈恵会医科大学医学部看護学科	地域連携	—	—	6	6
慈恵第三看護専門学校	在宅介護	—	—	2	2
東京都福祉保健財団	介護支援専門員	—	—	5	5
調布市福祉総務課	社会福祉士	—	4	—	4
教員免許取得者介護等体験	介護体験	—	5	—	5
TOKYO かいごチャレンジインターンシップ	職場体験	2	2	—	4
合計		147	61	25	233

※デイ・シ＝デイサービス及びショートステイ 包＝地域包括支援センター
訪＝訪問介護事業所 居＝居宅介護支援事業所

ウ ボランティア等の状況

令和5年度においても、毎年恒例であった「ふうりん祭り」や「ボランティア懇親会」を中止するなど、新型コロナウイルスの影響を大きく受けたが、ボランティアの受け入れ総数は、延べ935人となり、昨年度より増加した。徐々に回復している状況である。

令和5年度は、地域包括支援センターと調布市社会福祉協議会が共同で取

り組んでいる介護予防事業の一環の*「らんまんガーデニング倶楽部」が本格的に活動を開始した。

*「らんまんガーデニング倶楽部」とは、園芸ボランティアの活動を通じて、健康増進を図る介護予防事業の一つ。活動場所はちょうふの里

(単位：人)

活動団体・内容等		活動先			合計
		特養	デイ・ショート	地域支援	
クラブ・技術指導	書道	15	124	—	139
	詩吟	20	—	—	20
	編み物	—	79	—	79
	音楽リハビリ	24	84	—	108
	クラフトバンド	—	45	—	45
	絵手紙	—	16	—	16
	美術クラブ	—	24	—	24
	陶芸	—	131	—	131
	はり絵	—	47	—	47
	小計	59	550	—	609
生活全般	リネン類整理	170	—	—	170
諸活動	傾聴	—	28	—	28
	朗読	5	—	—	5
	マッサージ	—	—	—	—
	ドッグセラピー	—	—	—	—
	紙芝居	—	—	—	—
	活動支援(活動の準備等)	—	7	—	7
	新年会	8	20	—	28
	敬老会	—	15	—	15
	バスハイク	—	—	—	—
	表彰式	—	12	—	12
	サマーボランティア	—	—	—	—
	ふうりん祭り	—	—	—	—
	施設周り清掃及び花壇の手入れ	—	—	61	61
	ホーム喫茶	—	—	—	—
	福祉祭り	—	—	—	—
小計	183	82	61	326	
合計	242	632	61	935	

エ 特別養護老人ホーム 利用食数

(単位：食)

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	2,727	2,729	2,731	10	2,746	2,747	2,747
5	2,904	2,905	2,906	11	2,680	2,678	2,679
6	2,791	2,793	2,792	12	2,738	2,739	2,739
7	2,919	2,919	2,917	1	2,700	2,700	2,700
8	2,889	2,891	2,887	2	2,551	2,554	2,554
9	2,649	2,649	2,646	3	2,779	2,778	2,779
				合計	33,073	33,082	33,077
				1日平均	90.6	90.6	90.6

オ 単独型短期入所生活介護 利用食数

(単位：食)

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	468	386	469	10	347	279	346
5	462	382	455	11	427	344	427
6	407	336	403	12	425	349	427
7	411	336	419	1	409	340	405
8	462	385	458	2	367	303	370
9	411	341	410	3	429	358	430
				合計	5,025	4,139	5,019
				1日平均	13.8	11.3	13.8

カ 行事食献立一覧 (特=特養、シ=ショートステイ、デ=デイサービス)

月 日	行事名	課名	献立内容
4月1日 8日	いなり寿司の日 花祭り献立	特・シ 特・シ・デ	夕食 いなり寿司 昼食 桜寿司、天ぷら、菜の花のお浸し、うどと人参の炒め、果物、おやつ(まんじゅう)
17日 21日 28日	いなり寿司の日 選択メニュー お誕生日ケーキの日	特・シ 特・シ 特	夕食 いなり寿司 夕食 牛丼又は味噌ラーメンから利用者が選択 バイキング形式(ケーキ2種)
5月5日 9日 17日 27日	端午の節句膳 ホーム喫茶 いなり寿司の日 お誕生日ケーキの日	特・シ・デ 特・シ・デ 特・シ 特	ちらし寿司、天ぷら、若竹煮、おすまし、果物、(おやつ：上生菓子(こいのぼり)) ケーキ2種類、練り切り、サンドイッチ、りんごジュース、ぶどうジュース 夕食 いなり寿司 バイキング形式(ケーキ2種)
6月1日 9日 17日 24日	いなり寿司の日 選択メニュー いなり寿司の日 お誕生日ケーキの日	特・シ 特・シ 特・シ 特	夕食 いなり寿司 夕食 うな井又はジャージャー麺から利用者が選択 夕食 いなり寿司 バイキング形式(ケーキ2種)
7月1日 7日 17日 30日 28日	いなり寿司の日 七夕献立 ホーム喫茶 いなり寿司の日 土用の丑 お誕生日ケーキの日	特・シ 特・シ・デ 特・シ・デ 特・シ 特・シ・デ 特	夕食 いなり寿司 昼食 七夕そうめん、天ぷら、冬瓜のかにあん、果物、(おやつ：やわらか和菓子) ケーキ2種類、練り切り、サンドイッチ、ぶどうジュース、カルピスソーダ 夕食 いなり寿司 昼食 うな井、おすまし、果物 バイキング形式(ケーキ2種)
8月1日 4日 15日 17日 25日	いなり寿司の日 選択メニュー 終戦記念日 いなり寿司の日 お誕生日ケーキの日	特・シ 特・シ 特・シ・デ 特・シ 特	夕食 いなり寿司 夕食 かきあげ丼又はかきあげそばから利用者が選択 昼食 すいとん 夕食 いなり寿司 バイキング形式(ケーキ2種)
9月1日 14日～16日 17日 22日 26日 29日	いなり寿司の日 敬老祝い膳 敬老祝い膳 お誕生日ケーキの日 お彼岸 十五夜献立	特・シ デ 特・シ 特・シ 特・シ・デ 特・シ・デ 特・シ・デ	夕食 いなり寿司 赤飯、天ぷら、煮物、和え物、おすまし(松花堂弁当) (間食) 祝まんじゅう 赤飯、天ぷら、煮物、和え物、おすまし(松花堂弁当) (間食) 祝まんじゅう バイキング形式(ケーキ2種) おはぎバイング(やわらかおはぎ・あん・ごま・きなこ) 昼 月見うどん 間 月見まんじゅう
10月1日 6日 17日 20日 27日	いなり寿司の日 選択メニュー いなり寿司の日 秋の味覚献立 お誕生日ケーキの日	特・シ 特・シ 特・シ 特・シ 特	夕食 いなり寿司 夕食 海鮮丼又は味噌ラーメンから利用者が選択 夕食 いなり寿司 松茸ごはん、土瓶蒸し風、さつま汁、柿 バイキング形式(ケーキ2種)

11月1日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
13日	ホーム喫茶	特・シ・デ	ケーキ2種、上生菓子、ミニグラタン、サイダー、ぶどうジュース
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
23日	お寿司	特・シ	夕食 にぎり寿司
25日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
12月1日	いなり寿司	特・シ	夕食 いなり寿司
17日	クリスマス会	シ	間食 クリスマスケーキとシャンメリー
	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
18日	クリスマス会	デ	間食 ファンタグレープ・クリスマスケーキ
19日	クリスマス会	デ	間食 ファンタグレープ・クリスマスケーキ
21日	クリスマス会	特	クリスマスケーキとシャンメリー
22日	冬至	特・シ・デ	間食 ゆずまんじゅう 夕食 南瓜のいとこ煮
25日	クリスマスメニュー	特・シ・デ	(昼食) 鶏肉の香草焼き、(夕食) ミートローフ (間食) クリスマスケーキとシャンメリー
29日	お誕生日ケーキの日	特・シ	バイキング形式(ケーキ2種)
31日	年越し	特・シ	夕食 年越しそば(海老天そば)
1月1日	元旦	特・シ	おせち料理、雑煮、(おやつ:ねりきり・甘酒)
4日~6日	新年会	デ	おやつ 干支饅頭
7日	七草粥	特・シ	七草粥
11日	鏡開き	特・シ・デ	おしるこ
15日	小豆粥	特・シ	小豆粥
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
	ホーム喫茶	特・シ・デ	ケーキ2種類、上生菓子、サンドイッチ、サイダー、リンゴジュース
28日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
2月3日	節分献立	特・シ・デ	(昼食) 大豆の煮物、つみれ汁 (間食) 練りきり「鬼」、夕食 恵方巻き
9日	選択メニュー	特・シ	夕食 鉄火丼又は醤油ラーメンから利用者が選択
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
23日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
3月3日	ひな祭り献立	特・シ・デ	ちらし寿司、刺身、高野豆腐の煮物、菜の花浸し、果物
7日	ホーム喫茶	特・シ・デ	ケーキ2種類、上生菓子、お好み焼き、オレンジジュース、甘酒
14日	にぎり寿司	特・シ	夕食 にぎり寿司
17日	いなり寿司の日	特・シ	夕食 いなり寿司
19日	お彼岸	特・シ・デ	ぼたもちバイキング(やわらかぼたもち・あん・ごま・きなこ)
25日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)

※ 朝食は、「ごはん食」か「パン食」の選択メニューを毎日行っている。

2 福祉課

(1) 重点事項への取組

ア 利用者の尊厳の尊重

利用者一人ひとりの思いを大切にされたケアプランの作成を心掛け、職種間で連携を図りながら利用者に寄り添うサービス提供に努めた。また、個々の心身の状況に応じた健康管理と生活支援を提供することができた。

ちょうふの里コンプライアンスマニュアルにある期待する職員像を目指し、利用者の尊厳を尊重して日常の業務を適正に遂行するよう努めた。

イ 利用者支援の充実

季節感のある行事やレクリエーション、職員が工夫を凝らした余暇活動を積極的に実施した。保育園との交流では子供たちの成長の一助としながら、

素敵な笑顔や活気を受け取る貴重な機会となった。数年ぶりの外出活動も実施することができ、日常の中に変化と刺激のある生活の場の提供に取り組んだ。

新型コロナウイルス感染症の罹患者はみられたが、過去の教訓を活かし感染症対策を講じることで、何れも感染拡大することなく収束することができた。

様々な感染症に対する対応として、有症利用者の健康観察期間や必要な簡易検査、生活空間のゾーニング方法について職種間で一定の基準を定めて日々の感染症対応を行うことで、施設内感染拡大防止に繋がり感染症対応の標準化を図ることができた。

ウ 職員・人材育成の充実

法人本部階層別研修への参加や外部研修にも積極的な参加を心掛け、職員個々の研鑽を図った。各種委員会が主体となる施設内研修では「尊厳を支えるケア」「身体拘束廃止」等、利用者のアドボカシー（擁護）に着目し日々のケアの再点検の機会とした。

また、課内研修も複数回実施、摂食嚥下の理解や夜間緊急時の対応等、日頃のケアでの不安を解消し、すぐに活用できる内容を演習形式で行い、技術や知識を深めることができた。

様々な感染症対策を講じ、教育機関等の協力を得ながら社会福祉士や介護福祉士などの実習生の受け入れ、学ぶ場の提供を積極的に行った。

また、各資格の学習カリキュラムの変更や日程調整などについて、教育機関と情報交換を密に行い、福祉を志す人材を大切に育成にする体制づくりを進めた。

エ 利用者家族との連携

昨年新設した面会スペースを有効活用し、利用者家族の面会の機会を比較的自由に提供することができた。

家族と直接顔を合わせる機会を大切に、ケアプラン説明やカンファレンスを積極的に行い、利用者の日々の生活状況や心身の変化について共有を図ることができた。しかしながら、様々な感染症を鑑み現在も直接居室への面会は控えている。家族には、電話等での情報提供やケアプラン説明を行い、積極的な情報共有に努めた。

(2) 実績報告（特別養護老人ホーム：利用定員100人）

ア 年齢別利用者状況

平均年齢は88.4歳と令和4年度に比べ1.1歳上昇した。80歳未満の利用者が減少し、結果として平均年齢があがった。

令和6年3月31日現在（単位：人）

No.	年 齢 別	男	女	合計	構成比(%)
1	65歳未満	0	0	0	0.0
2	65歳以上 70歳未満	0	0	0	0.0
3	70歳以上 75歳未満	0	0	0	0.0
4	75歳以上 80歳未満	0	6	6	6.5
5	80歳以上 85歳未満	5	15	20	21.5
6	85歳以上 90歳未満	6	23	29	31.2
7	90歳以上 95歳未満	4	21	25	26.9
8	95歳以上 100歳未満	1	11	12	12.9
9	100歳以上	0	1	1	1.0
合計		16	77	93	100.0
最高年齢 (歳)		97	100	—	—
最低年齢 (歳)		81	77	—	—
平均年齢 (歳)		87.9	88.5	88.4	—

イ 在籍期間

平均在籍期間は3年4か月と若干短縮した。5年以上が計6.5ポイント上昇したが、それ以上に2年未満が13.4ポイント上昇した。

令和6年3月31日現在（単位：人）

No.	期 間	男	女	合計	構成比(%)
1	1年未満	6	18	24	25.8
2	1～2年未満	5	19	24	25.8
3	2～5年未満	3	16	19	20.4
4	5～10年未満	2	22	24	25.8
5	10年以上	0	2	2	2.2
合計		16	77	93	100.0
平均在籍期間		—	—	3年4か月	—

ウ 退所状況

前年度に比べ退所者数が増加し29人となり、退所者の平均年齢は0.8歳下がり、平均介護度も0.1下降した。

No.	性別	年齢	退所月	保険者	退所理由	在籍期間	要介護
1	女	97	4月	府中市	入院先で死亡	6年 4か月	5
2	男	80	4月	調布市	長期入院加療	4か月	5
3	女	96	5月	調布市	長期入院加療	6年 3か月	4
4	男	86	5月	調布市	長期入院加療	4年 6か月	5
5	女	96	6月	府中市	入院先で死亡	3年 10か月	4
6	女	86	8月	府中市	入院先で死亡	3年 2か月	5
7	男	80	8月	府中市	入院先で死亡	1年 2か月	4
8	女	96	9月	三鷹市	長期入院加療	2年 3か月	5
9	男	92	9月	府中市	長期入院加療	2年 2か月	4
10	男	93	9月	調布市	長期入院加療	3年 8か月	5
11	女	97	9月	調布市	長期入院加療	2年 5か月	4
12	女	80	10月	調布市	長期入院加療	2年 2か月	5
13	女	93	10月	府中市	長期入院加療	4年 2か月	4
14	女	101	10月	調布市	長期入院加療	10年 2か月	4

15	男	82	11月	調布市	入院先で死亡	5か月	5
16	男	80	11月	調布市	長期入院加療	4年 8か月	4
17	男	72	11月	府中市	長期入院加療	1年 0か月	5
18	男	85	12月	三鷹市	入院先で死亡	2年 1か月	3
19	男	77	12月	三鷹市	入院先で死亡	2年 0か月	5
20	女	96	12月	調布市	長期入院加療	7か月	5
21	女	83	1月	府中市	入院先で死亡	7年10か月	5
22	女	94	1月	調布市	入院先で死亡	2か月	4
23	女	92	1月	府中市	入院先で死亡	3年 2か月	4
24	女	85	2月	調布市	長期入院加療	1年 6か月	5
25	男	89	3月	調布市	入院先で死亡	7年 6か月	5
26	女	94	3月	調布市	長期入院加療	18年 4か月	5
27	女	92	3月	調布市	長期入院加療	2年 6か月	5
28	女	91	3月	三鷹市	入院先で死亡	1年 3か月	4
29	女	85	3月	調布市	入院先で死亡	2年 8か月	5
平均		88.8	—	—	—	3年 9か月	4.6

エ 月別要介護度分布表

要介護5の利用者の割合は3.8ポイント下降したが、要介護4の割合は3.6ポイント上昇し、引き続き利用者の重度化が目立っている。

(単位：人)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
4	0	2	8	38	47	4.4
5	0	2	8	40	45	4.3
6	0	2	9	41	46	4.3
7	0	2	9	39	47	4.4
8	0	2	9	39	45	4.3
9	0	2	9	37	44	4.3
10	0	2	9	40	43	4.3
11	0	2	10	38	45	4.3
12	0	2	10	37	42	4.3
1	0	2	10	38	40	4.3
2	0	2	9	39	43	4.3
3	0	2	10	38	40	4.3
構成比 (%)	0.0	1.0	6.8	37.8	54.4	4.3

オ 月別利用実績

年間利用率は4.6ポイント目標値に至らず達成できなかった。

(単位：日)

月	延べ利用日数	延べ利用可能日数	利用率 (%)
4	2,746	3,000	91.5
5	2,913	3,100	94.0
6	2,822	3,000	94.1
7	2,951	3,100	95.2
8	2,922	3,100	94.3
9	2,699	3,000	90.0

10	2, 764	3, 100	89. 2
11	2, 728	3, 000	90. 9
12	2, 789	3, 100	90. 0
1	2, 739	3, 100	88. 4
2	2, 571	2, 900	88. 7
3	2, 812	3, 100	90. 7
合計	33, 456	36, 600	91. 4

3 高齢者在宅サービスセンター（通所部門）

(1) 重点事項への取組

ア 変化する新型コロナウイルス感染症対策への対応

令和5年10月に認知症対応型通所介護にて新型コロナウイルス感染症クラスターが発生した。利用者8人、職員8人が罹患し、業務が縮小となったため利用率は低下した。

行事については、ここ3年間新型コロナウイルス対策として中止や規模を縮小して実施していたが、9月に敬老会を実施し、久しぶりに外来ボランティアの協力のもと3日間開催することができた。10月の運動会と12月のクリスマス会は感染症の影響で縮小開催とした。1月の新年会と3月の表彰式は予定どおり開催した。今年度の行事は感染症の状況に合わせてながら柔軟に対応した。

イ 円滑な在宅生活を継続するための支援

在宅介護の疑問や悩みなどを話し合う家族会「絆の会」を数回企画していたが一回の実施となった。必要に応じて送迎時や電話にて家族の悩みを聞き、家庭への訪問等を行い問題解決に努めた。

ウ 職員育成の強化

職員の高齢化や利用者の重度化に伴い、介護技術にばらつきが見られ始めていたことから、基本を忠実に経験のある職員からレクチャーを受け介助に活かしている。特殊な入浴介助の方の入浴方法を職員同士で研修し対応の統一化を図った。

エ 利用者の重度化への対応

利用者の重度化に伴い介助技術が複雑になってきたため、より安全に対応できるように利用者の情報を細かく申し送り、職員全員が同じような対応ができるように努めた。

オ 家族支援の拡充

年間3回「絆の会」を企画していたが、感染症の影響で2回中止となった。年度後半に実施できた「絆の会」では、認知症を抱える家族の悩みを同じ悩みを抱える家族が、解決策や気持ちの持ち方をアドバイスしている姿が見られた。

カ 安心・安全の配食と安否確認の実施

配食サービスでは、アレルギーや感染症に十分注意し、利用者の体調不良による急な食種変更等にも迅速に対応した。また、配達時に安否が確認できない場合は、確認できるまで追跡を行った。

(2) 実績報告

ア 通所介護利用実績（一日の利用定員40人）

年間利用率は昨年度、72.4%から70.7%と1.7ポイント低下した。10月の認知症対応型通所介護で新型コロナウイルス感染症のクラスターがあり、通所介護でも自粛の動きがあり、その影響で年間の平均としては前年度を下回った。

(単位：人)

月	利用延べ人数	送迎利用者数	入浴利用者数	利用日数(日)	利用率(%)
4	755	1,206	253	25	75.5
5	778	1,235	267	27	72.0
6	722	1,442	254	26	69.4
7	733	1,462	241	26	70.5
8	759	1,515	261	27	70.3
9	738	1,475	247	26	71.0
10	674	1,347	229	26	64.8
11	742	1,482	251	26	71.3
12	715	1,428	234	24	74.5
1	681	1,358	205	24	70.9
2	712	1,422	215	25	71.2
3	699	1,392	207	26	67.2
合計	8,708	16,764	2,864	308	70.7
1日平均	28.3	54.4	9.3	—	—

イ 認知症対応型通所介護利用実績（一日の利用定員12人）

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症によるクラスターの影響で利用率は低下した。その後も症状が回復せず休む方が多かった。また、施設入所や在宅生活が難しくなる利用者が終結になるケースも増えた。下期に入院となる利用者が増加したことや年間を通してちょうふの里のショートステイを定期的に利用する利用者が増加したことから、昨年度68.5%であった利用率は今年度63.4%と5.1ポイント減少する形となった。

(単位：人)

月	利用延べ人数	送迎利用者数	入浴利用者数	利用日数(日)	利用率(%)
4	214	428	111	25	71.3
5	234	467	112	27	72.2
6	228	456	105	26	73.1
7	227	454	101	26	72.8
8	228	453	111	27	70.4
9	213	425	106	26	68.3
10	142	282	67	26	45.5

11	156	311	88	26	50.0
12	154	306	84	24	53.5
1	160	318	93	24	55.6
2	176	349	97	25	58.7
3	210	418	117	26	67.3
合計	2,342	4,667	1,192	308	63.4
1日平均	7.6	15.2	3.9	—	—

ウ 介護保険外（調布市受託）事業利用実績

(ア) 通所入浴サービス

延べ利用者数は、令和4年度108人に対し、令和5年度は、79人と減少した。減少した理由は、新規利用者が少なかったことと、定期的に利用している方の長期入院が大きな要因である。また、3月に登録者の1人が死去された。

(イ) 配食サービス

昨年度18,688食から今年度15,999食と2,689食の大幅な減食となった。要因として、入所や入院など長欠者が多いことが挙げられる。

(単位：人)

月	通所入浴サービス (1日の定員8人)	配食サービス (1日の食数、昼夕合計200食)
4	4	1,299
5	4	1,354
6	5	1,301
7	4	1,422
8	6	1,404
9	9	1,316
10	8	1,336
11	6	1,258
12	6	1,332
1	8	1,351
2	9	1,306
3	10	1,320
合計	79	15,999
1日平均	0.3	43.7

エ 通所介護要介護分布表

年間利用者数では、要介護3は令和4年度876人に対し令和5年度855人と減少した。要介護4は令和4年度513人に対し令和5年度560人、要介護5は令和4年度186人に対し令和5年度266人と増加した。要介護4と5は大幅に増加したことから重度化が進んでいる。

(単位：人)

月	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	26	106	245	241	79	39	19	755
5	0	31	95	256	248	80	45	23	778
6	0	26	86	232	228	73	52	25	722
7	0	28	103	234	227	58	55	28	733
8	0	22	96	261	224	70	57	29	759
9	0	20	103	236	231	70	52	26	738
10	0	23	94	214	205	64	47	27	674
11	0	22	112	243	216	68	54	27	742
12	0	27	104	219	218	84	50	13	715
1	0	31	98	223	204	68	44	13	681
2	0	34	100	230	216	70	45	17	712
3	0	33	104	232	217	74	20	19	699
合計	0	323	1,201	2,825	2,675	858	560	266	8,708
比率(%)	0	3.7	13.8	32.4	30.7	9.8	6.4	3.2	—
1日平均	0	1.0	3.9	9.2	8.7	2.8	1.8	0.9	28.3

オ 認知症対応型通所介護要介護分布表

令和4年度は要介護4、5の比率合計が35.5%であったが、令和5年度は36.4%と0.9ポイント上昇した。このことから利用者の重度化が進んでいることがうかがえる。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4	0	0	64	25	41	42	42	214
5	0	0	69	18	56	47	44	234
6	0	0	67	23	48	46	44	228
7	0	0	64	26	56	45	36	227
8	0	0	52	27	61	65	23	228
9	0	0	37	43	53	67	13	213
10	0	0	13	33	37	47	12	142
11	0	0	19	40	36	44	17	156
12	0	0	17	37	42	40	18	154
1	0	0	24	46	45	29	16	160
2	0	0	18	64	45	32	17	176
3	0	0	31	67	46	47	19	210
合計	0	0	475	449	566	551	301	2,342
比率(%)	0	0	20.3	19.2	24.2	23.5	12.8	—
1日平均	0	0	1.5	1.5	1.8	1.8	1.0	7.6

4 高齢者在宅サービスセンター（短期入所部門）

(1) 重点事項への取組

ア 利用者援助の充実

利用者や家族のニーズに対応するため、各関係機関から情報収集するとともに、利用中に変化があった際にも家族や担当ケアマネジャーと相談しながら、利用者が安全、安心して利用できるよう努めた。

イ 事故の防止

事故やヒヤリハットが発生した際、3日間再発防止に向けての検討をすることで職員への意識付けを行うとともに、マニュアルの再確認をして、ヒューマンエラーを減らし事故の防止に努めた。

ウ 人材確保と育成

ショート内での課題を抽出し、6月に「吸引について」、9月を「スキンケアについて」、10月、11月と12月は、「感染症対策について」、そして12月は「身体拘束について」、最後の2月は「虐待防止について」勉強会を行った。

また、コロナ禍のため書面開催となった、7月「虐待防止について」、11月「介護のリスク・事故防止について」、12月「褥瘡予防について」を回覧して知識を深めた。

エ 感染症対策

令和5年度も引き続き新型コロナウイルス感染症対策に取り組んだが、残念ながら6月下旬に利用者5人、職員2名の感染、9月下旬に利用者3人、職員3人、1月下旬に利用者2人、職員1人が感染となり、利用自粛のお願いをすることとなったため、事業運営に影響を及ぼす結果となった。

オ 安定した事業運営

居宅介護支援事業所に予約決定の通知と共に、2か月分の空き状況を各事業所へ送り、利用率向上に向けての営業活動を行った。また、緊急ショートの受け入れを行うことで、新たな事業所との関係構築に努めた。

令和5年度緊急ショートで利用したのは5人、延べ444日間であり、長期での利用が多かった。

(2) 実績報告（ショートステイ：利用定員20人）

ア 利用実績

新規利用者は令和4年度の70人に対し、令和5年度は59人の契約締結であった。また、廃止利用者は令和4年度の29人に対し、107人となったのは、長期間利用がない利用者をケアマネジャーに照会をしたため、前年よりかなり多くなっている。

年間を通して新型コロナウイルスの感染状況が収束せず、年間目標を大きく下回る結果となった。

(単位：人)

区 分	新規利用者	廃止利用者	利用実人数	利用延べ人数	稼働日数(日)	月毎の利用率(%)
4月	4	4	67	553	30	92.2
5月	1	3	64	545	31	87.9
6月	1	3	61	474	30	79.0
7月	8	1	60	485	31	78.2

8月	8	4	62	539	31	86.9
9月	6	1	58	481	30	80.2
10月	7	3	59	423	31	68.2
11月	8	8	65	510	30	85.0
12月	4	2	61	505	31	81.5
1月	4	4	54	478	31	77.1
2月	6	66	52	435	29	75.0
3月	2	8	52	499	31	80.5
合計	59	107	715	5,927	366	81.0

- ※ 4月の利用延べ人数には、「調布市措置利用」による利用者（介護保険該当）の「30人分」を含む。
- ※ 5月の利用延べ人数には、「調布市措置利用」による利用者（介護保険該当）の「31人分」を含む。
- ※ 6月の利用延べ人数には、「調布市措置利用」による利用者（介護保険該当）の「27人分」を含む。
- ※ 7月の利用延べ人数には、「調布市措置利用」による利用者（介護保険該当）の「52人分」を含む。
- ※ 8月の利用延べ人数には、「調布市措置利用」による利用者（介護保険該当）の「61人分」、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「4人分」を含む。
- ※ 9月の利用延べ人数には、「調布市措置利用」による利用者（介護保険該当）の「56人分」、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「4人分」を含む。
- ※ 10月の利用延べ人数には、「調布市生活支援ショート利用」による利用者（介護保険非該当）の「13人分」を含む。
- ※ 11月の利用延べ人数には、「調布市措置利用」による利用者（介護保険該当）の「10人分」、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「30人分」を含む。
- ※ 12月の利用延べ人数には、「調布市措置利用」による利用者（介護保険該当）の「15人分」、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「31人分」を含む。
- ※ 1月の利用延べ人数には、「調布市生活支援ショート利用」による利用者（介護保険非該当）の「29人分」を含む。
- ※ 2月の利用延べ人数には、「調布市措置利用」による利用者（介護保険該当）の「23人分」、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「14人分」を含む。
- ※ 3月の利用延べ人数には、「調布市措置利用」による利用者（介護保険該当）の「28人分」を含む。

イ 要介護分布表

令和4年度の要支援1及び2の利用者が1.9%に対して、令和5年度は2.2%と0.3ポイントの増加、要介護1から3は令和4年度58.5%に対して令和5年度は59.2%と0.7ポイント増加となった。この中には、認知症による行動障害が見られる利用者も多く含まれており、家族の負担軽減から利用日数が増加となったケースが多い。また、要介護4及び5は、令和4年度39.0%に対して令和5年度は36.5%と2.5ポイント減少となった。要因としては、体調が安定せず利用前にキャンセルとなるケースや、今まで長期で利用していた方が施設入所するケースが多くあったことが減少の大きな理由である。

また、虐待ケースや一人暮らしが困難なため受け入れた生活支援については、令和4年度0.6%に対して令和5年度は2.1%と1.5ポイント増加となり、緊急で受け入れるケースが多くあった。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	生活支援等	合計
4	3	17	84	50	174	148	77	0	553
5	0	17	80	71	156	126	95	0	545

6	0	8	66	54	158	104	84	0	474
7	13	7	86	46	154	107	72	0	485
8	0	14	61	65	218	97	80	4	539
9	0	10	41	72	230	73	51	4	481
10	0	5	53	78	152	78	44	13	423
11	0	10	61	77	147	90	95	30	510
12	0	10	37	48	185	111	83	31	505
1	0	8	52	58	147	121	63	29	478
2	0	8	54	62	146	97	54	14	435
3	0	8	55	45	181	150	60	0	499
合計	16	122	730	726	2,048	1,302	858	125	5,927
比率	0.3	2.1	12.3	12.2	34.5	22.0	14.5	2.1	100%

5 地域支援課

(1) 重点事項への取組

ア 地域包括支援センター

(ア) メイン・サブセンターの運営

基本三職種（社会福祉士・主任介護支援専門員・保健師等）のメイン・サブセンター担当者は、地域包括支援センター主催の事業を協同で企画・開催した。見守りネットワーク事業・認知症地域支援推進・医療福祉連携強化は、三職種の専門職が協力し、担当者を中心に事業の強化を図った。

(イ) 総合相談支援業務の充実

高齢者の総合相談窓口として、多様化する相談に対応できるよう「包括的・継続的ケアマネジメント」、「虐待防止・権利擁護」、「介護予防支援」などの地域包括支援センターの基本的な機能に加え、「認知症支援・医療福祉連携」について、プランナーを含め、メイン・サブセンターの全スタッフが協同し総合相談事業を行った。

(ウ) 関係機関との連携強化

「地域包括ケアシステム」の構築に向けた取り組みについては、「第8期調布市高齢者総合計画」の最終年度であり、地域包括支援センターが中核となって、「地域ケア会議」や「関係者会議」「ケアマネと事業」「虐待防止研修」を企画・開催した。新型コロナウイルスの感染予防に配慮し、地域ケア会議・関係者会議をはじめ、他の包括との専門職部会の会議も、オンラインホスト（主催者）としてZOOMで行った。医療依存の高いケースや虐待等複合問題ケースへの協働支援を通じて、地域の医療や福祉機関との他職種連携の強化を図ることができた。

(エ) サブセンターの移転

令和3年4月開所のサブセンターは令和6年3月末賃貸契約終了により、令和6年3月11日から新たな場所へ移転となった。関係機関や地域住民への広報活動を続けながら、地域の相談窓口として推進していく。

イ 居宅介護支援事業所

(ア) 収支の安定と体制強化への取組

併設の地域包括支援センターと連携して、新規利用者を迅速に獲得できた。困難ケースや医療ニーズの高いケースも積極的に担当し、地域包括支援センターや他の関係機関との情報共有や連携を図るとともに、調布市医師会主催の調布在宅ネット（MCS）も活用して、利用者が安心して在宅での生活を送れるように、質の高いマネジメントを実施した。

(イ) 介護支援専門員の質の向上

高齢者支援に必要な知識や情報だけでなく、障がいや生活困窮者、難病等に関する研修にも積極的に参加し、多種多様な知識の習得とケアマネジメントスキルの向上に努めた。また、調布市ケアプラン点検では、1年目の介護支援専門員のケアプランがアセスメント力などの高い評価を得た。

ウ 訪問介護事業所

(ア) 在宅生活を快適に送るためのサービス提供

サービス提供責任者が令和5年3月に変更となり、新体制で令和5年度はスタートしたが、混乱することなく、「自立支援」を意識したサービス提供を展開し、「選ばれる事業所」として、前年度以上に収支を伸ばす運営を行うことができた。また、月一度のヘルパー会議を有効に活用して、情報共有の場だけではなく、リスクマネジメントや災害時の対応、ハラスメントについてなど業務上で必要な知識を高めた。

(イ) 経営の安定

「訪問介護管理・記録ツール」の有効活用により、連絡ミス等はなくなくなり、円滑に業務管理ができています。そのことが、安全で安心のサービス提供に繋がっている。また、計画的な新規利用者の取得も併設の居宅介護支援事業所と連携ができていたため、引き続き、収支は伸びている。

(2) 実績報告

ア 地域包括支援センター 区分別相談件数

サブセンター設置後、来所の相談数が若干ではあるが増加した。総数については、毎年増加している。

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
電話	376	375	310	434	409	410	407	395	435	414	442	444	4,851	404.2
来所	36	53	29	54	65	50	36	42	44	48	51	37	545	45.4
訪問	147	138	120	133	142	133	150	138	133	127	118	99	1,578	131.5
その他	15	21	18	31	19	24	27	27	34	26	24	13	279	23.3
合計	574	587	477	652	635	617	620	602	646	615	635	593	7253	604.4

イ 地域包括支援センター 相談内容別件数

「保健医療」の相談については、医療機関側の「入退院連携加算」もあり、医療機関から入院時の相談が非常に増えている。

「介護相談」は少なく、「認知症相談」や、「経済・住宅問題」も並行して問題を抱えているケースが増えている。

また、家庭不和や精神疾患・障害のある家族を抱えるケース等の「家族問題」については月平均約30件あり、支援はより複雑になっている。

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
保健医療	181	208	167	192	198	258	234	213	225	232	229	243	2,580	404.2
介護保険	152	186	135	186	174	218	186	186	203	188	192	257	2,263	188.6
予防給付	172	202	135	217	187	195	181	181	198	190	199	189	2,246	187.2
総合事業	98	105	77	121	113	112	121	118	113	136	118	116	1,348	112.3
ケアマネ支援	14	20	17	16	13	24	14	25	20	21	17	20	221	18.4
介護相談	8	6	11	22	26	22	28	16	16	17	7	20	199	16.6
認知症相談	25	30	26	49	27	40	55	40	38	31	42	22	425	35.4
経済・住宅問題	24	18	9	6	16	9	21	5	7	13	26	12	166	13.8
家族問題	34	30	35	39	40	25	17	18	43	14	42	31	368	30.7
権利擁護（成年後見）	6	3	1	1	4	1	0	5	3	2	2	11	39	3.3
権利擁護（地権・その他）	10	7	1	5	3	5	6	4	3	9	5	5	63	5.3
虐待相談	22	21	11	23	17	18	10	26	24	26	21	0	219	18.3
その他	122	94	94	111	104	90	96	84	132	96	199	0	1,222	101.8
合計	868	930	719	988	922	1,017	969	921	1,025	975	1,099	926	11,359	946.6

ウ 地域包括支援センター 調布市一般施策相談件数

在宅介護の重度化で日常生活用具の防水シーツの申請が多かった。「紙おむつの給付について」は利用要件が要介護3以上のため相談件数、申請数ともに大きく減っている。

配食サービスについては、民間事業所の自由度の高いサービス（副食のみでも配達可能、選択メニュー、翌日から変更可能など）や付加サービス（買い物サービスの併用・安否確認機能など）により、民間サービスを選択する利用者が増え続けている。

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
配食サービス	7	4	9	9	4	4	8	4	13	7	6	11	86	7.2
日常生活用具	9	4	3	11	11	2	1	10	5	6	2	11	75	6.3
おむつの給付・助成	16	20	6	18	33	9	19	16	8	15	11	10	181	15.1
緊急通報システム	3	16	11	9	9	11	13	8	9	8	15	8	120	10.0
徘徊探知器	0	2	1	0	1	0	0	2	0	1	1	3	11	0.9
その他	1	7	9	3	1	9	8	84	0	6	4	4	136	11.3
合計	36	53	39	50	59	35	49	124	35	43	39	47	356	50.8

エ 地域包括支援センター 実態把握件数

月平均104.6件の実態把握を行った。新規相談に対しては迅速に訪問し、ニーズの確認やサービス調整等の実態把握を行った。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
実態把握	256	127	86	103	102	98	76	78	77	80	89	83	1,255	104.6

オ 地域包括支援センター 見守りネットワーク 連絡件数

通報は、隣人・知人からが最も多く、次いで民生委員によるものが多かった。最近は商店からの通報も増えている。

PR活動として、サブセンターの移転も含め、広報紙を年3回発行し、市民・地域の関係機関に配布した。認知症サポーター養成講座や、小地域交流事業・地域文化祭・介護教室・介護予防等の住民講座でも「みまもっと事業」のPRを行った。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
通 報	6	4	5	3	14	4	7	2	6	5	10	6	72	6.0

カ 地域包括支援センター 予防プラン作成数

(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)

予防プラン作成は、センター業務の半分近いウエイトを占めている。

福祉用具貸与や訪問看護のサービス併用者は多く、「介護予防支援」のプランが総合事業単体の「介護予防マネジメント」を大きく上回っている。

全国的な問題ではあるが、要支援者の訪問介護を受ける市内の事業所が圧倒的に不足しておりサービス調整が極めて困難な状況である。

(ア) 介護予防支援

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
直接作成	116	116	113	118	119	121	109	113	115	121	119	118	1,398	116.5
委託作成	41	37	35	33	36	36	38	31	36	37	37	38	435	36.3
合計	157	153	148	151	155	157	147	144	151	158	156	156	1,833	152.8

(委託率23.7%)

※ 「介護予防支援」は、総合事業に加え、訪問看護、福祉用具貸与等を利用するプランもしくは、訪問看護、福祉用具貸与のみ利用するプラン

(イ) 介護予防マネジメント (総合事業対象者を含む)

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
直接作成	67	67	70	68	67	67	71	75	78	75	75	71	851	70.9

委託作成	31	32	32	31	30	30	30	27	29	27	27	25	351	29.3
合計	98	99	102	99	97	97	101	102	107	102	102	96	1,202	100.2

(委託率29.2%)

※ 「介護予防マネジメント」は、総合事業（通所介護、訪問介護）のみ利用するプラン

キ 居宅介護支援事業所の居宅サービス計画書作成件数

前年度の2,214件と比較すると、87件減少し、2,127件となった。減少の理由としては、長期支援をしていた利用者の逝去や施設入所が増加したことや看取り支援の増加により短期間で終了となったことが挙げられる。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
国保連請求	178	174	175	184	176	174	177	173	180	181	176	179	2,127	177.2

ク 居宅介護支援事業所の要介護・要支援認定調査件数

令和5年度も新型コロナウイルス感染予防のための臨時的な取り扱いにより、介護認定有効期間の1年延長を希望する方が大多数のため、調布市からの認定調査依頼は横ばいとなった。一方で、三鷹市からの調査依頼は増えた。

※「新型コロナウイルス感染症に係る要介護認定の臨時的な取り扱い」とは、更新申請の方で感染拡大防止を図る観点から面会が困難なことにより訪問調査が行えない被保険者が申請することにより、従来の介護度の有効期間を12ヶ月延長するもの。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
認定調査	4	5	5	4	9	5	5	8	4	4	6	8	67	5.6

※ 施設認定調査含む。

ケ 訪問介護事業所の訪問介護派遣状況

介護保険の派遣時間は、数名の退職者があつたにも拘らず、初めて目標値を達成することができた。その値は収支にも反映された。

(単位：時間)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
介護保険派遣時間	374	423	402	386	543	544	485	487
障害サービス派遣時間	25	22	26	26	12	13	14	11
介護保険外派遣時間	54	60	54	23	32	87	70	66
訪問介護派遣時間合計	453	505	482	435	587	644	569	564

(下段に続く)

区分	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
介護保険派遣時間	514	524	501	506	5,689	474
障害サービス派遣時間	13	11	11	12	196	16
介護保険外派遣時間	61	61	55	46	669	56
訪問介護派遣時間合計	588	596	567	564	6,554	546

※ 派遣時間については、分の単位30分以上を切り上げて1時間とし、30分未満は切り下げて計算している。

V 上布田保育園

第1 総括

令和5年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類となり、園生活の中での様々な規制も緩み、保護者の園への出入り、地域社会との交流、保護者同士の交流の場を持つことなど、日常が一気に戻った一年であった。上布田保育園では、コロナ禍で希薄となりつつあった保護者同士の関係作り、地域社会との交流の中で子どもの社会性を育てていくこと、たて割り保育の充実に焦点を当てて取り組んだ。

保護者と職員、保護者同士の関係作りでは、「朝の散歩を楽しみ隊」などのイベントや年6回の保育講座の開催、行事の中での保護者交流などに取り組んだ。日常の保育の中でも、梅ジュース作りのお手伝いや電気通信大学の鉄道研究会への訪問付き添い、保育士体験への参加や保育参観など、子どもと一緒に保育活動を楽しむ機会を多く設けた。仕事の合間の時間を見つけては積極的にイベントや行事に参加する保護者が多く見られ、保育への関心が高いこと、イベントや行事への参加意欲が高いこと、保護者同士の交流を求めていることを改めて感じることができた。これからの保育園の役割として、今後も保育活動への参加や保護者同士の交流の場の提供を推し進めていきたい。

また、地域社会との交流として、調布市ごみ対策課によるゴミ収集車の体験、認知症サポート月間「オレンジガーデニングプロジェクト」への参加、近隣のお店屋さん見学、電気通信大学鉄道研究会との交流、学童クラブとの交流など、地域との交流も積極的に行った。子どもたちが地域に出向いていくことで地域社会と様々な関わりを持つことができ、子どもたちの興味を広がり、園内ではできないような体験を積み重ねていくことができた。

たて割り保育では、幼児たて割り3グループの中での関係作りを丁寧に行い、その関係の中でそれぞれの年齢の発達の保障をしていくことを目指した。当番活動や振り返りの会の実施、遠足の企画を担うことで、それぞれの育ちが実感でき、たて割り保育の良さを改めて感じることもできた。

第2 経営実績

1 定員

(単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	6	10	12	18	22	22	90
実数	8	12	14	21(1)	21(2)	22(1)	98

※()内は、障がい児の受入れ数

2 利用率

(単位：%)

事業名	令和5年度 実績	令和4年度 実績
上布田保育園	108.9	108.9

第3 事業報告

1 重点事項への取組

(1) 中期経営計画への取組

中期経営計画で令和5年度に計画していた設備修繕については、1階テラスのロールテントの張り替え、施設内全部の排煙窓の交換、調理室のダクト追加工事及び送風機の新設工事を行った。

また、職員の事務負担軽減や業務の効率化を図るために導入した保育システムは、運用開始2年目となって、職員及び保護者ともにスムーズに活用できるようになり、保護者への敏速な連絡にも役立っている。

保護者支援としては、保護者同士が知り合う機会として、「朝の散歩を楽しむ隊」のイベント企画や、クラス懇談会で親睦を深める取り組み、全体保護者会でのグループディスカッションなどを積極的に取り入れた。

子どもの環境整備として取り組んできた園庭の改修計画では、子どもにとって最善の環境を職員会議の中で話し合い、業者も交えて内容の検討を進め、令和6年度に園庭改修を実施する運びとなった。

(2) 豊かな育ちに繋げる保育

子どもたちが主体的に遊びを導き出し、更に遊びが発展するよう子どもたちが園庭で遊ぶ拠点を見直し、園庭でも制作活動が行えるよう様々な素材や道具を入れたワゴンの設置や、使用していない期間のプールを制作場所として活用するなど、環境整備に力を注いだ。環境が整ったことで、子どもの豊かな発想からの遊びの広がりが見られ、遊びが学びに繋がっているという手ごたえを感じることができた。

また、新しい試みとして、幼児たて割りグループで「振り返りの会」を毎日開催するようにし、子ども達が遊びの中で楽しかったことや感じたこと、その日にできたことや明日やってみたいことなどを皆の前で発表することで、自分を表現することや伝える力が培われ、遊びの継続性にも繋がった。特に年度の後半にかけて5歳児を中心にけん玉が流行し、日々できた技を「振り返りの会」で発表する中で、5歳児から4歳児、4歳児から3歳児へと遊びが伝承されていく姿が見られ、たて割り保育ならではの子どもの育ちを実感することができた。その子どもの育ちは園内研修で検証し、「振り返りの会」の取り組みを今後活かす、保育の質の向上へと繋げていきたい。

園庭では、土や水、植物を存分に使った遊びの中で、様々な経験を積んでいった。子どもたちにとって必要な環境を職員で検証し、令和4年度に引き続き自然物を使った遊びが発展していくような園庭を目指し、乳児も幼児も楽しみ、土や水、植物に触れながら豊かに遊びを展開していく環境作りの計画に取り組んだ。職員会議では、様々な職員から職種を超えて多くの意見が飛び交い、計

画どおりの進行とはいかなかったが、職員会議で意見を出し合うことで保育への思いや目指すべきことが擦り合っていく機会となった。今後も職員が思いを語り合いながら園庭改修に取り組んでいきたい。

(3) 安心して子育てに向き合う関係作り

コロナ禍で希薄となりつつあった保護者同士の繋がりや構築に重きを置き、保護者同士が知り合い、繋がることで子育ての思いを共有できる関係作りのサポートに力を注いだ。家族皆で参加できる「朝の散歩を楽しみ隊」のイベントを年2回開催し、クラスを超えて保護者同士がおしゃべりを楽しみながら散歩や朝食を共にし、交流を深めた。また、クラス懇談会では同年齢児の保護者と、全体保護者会では異年齢児の保護者との交流を楽しめるように、ディスカッションの時間を多く設け、関係作りのサポートをした。

保育士体験、保育参観では、コロナウイルスの分類が感染法上5類になったことにより参加の規制もなくなり、積極的に参加する保護者が一気に増えた。園生活の中に保護者が入り込むことで、職員との交流や、園児との交流も盛んになり、保護者同士が繋がっていく良いきっかけとなった。

また、子どもの育ちを保護者と共有する手段としてとして、「振り返りの会」の内容を毎日グループごとにボードに掲示した。ボードの内容について親子で話す場面もよく見られ、保護者を巻き込んだ保育にも繋がっていった。

(4) 職員がお互いを認め合い、高め合う職場

職員同士がお互いの保育業務を体験し、認め合い、高め合う取り組みとして、クラス担任の交換研修を取り入れた。当日に向けた事前打ち合わせでは、各クラスで大事にしていることや子どもたちの育ちに関する情報を共有し、研修後には振り返りを行った。この取り組みにより、お互いの保育業務を理解し合うだけでなく、子ども達の成長に喜びを共有し、今後の交流にも繋がり、園全体の保育の方向性の擦り合わせにも繋がった。さらに、保育室だけでなく、給食室との職員交換研修も行い、お互いの業務を体験することで新たな気づきや思いを共有し、互いを尊重する関係を築く機会となった。

令和4年度から継続して取り組んでいる調布なないろ保育園との交換研修では、従来どおり、園内の交換研修と同様に振り返りまで行った。この研修は、職員交流としても良い機会となり、各園での取り組みを参考にして自園のクラス運営に活かしていくことができた。職員の視野を広げるとともに保育の質の向上にも繋がり、今後もこの取り組みを継続していきたいという職員からの声も聞かれた。

2 実績報告

(1) 園児の受入状況

月別の園児受け入れ状況は次のとおりである。

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	5歳児	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264
	4歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	3歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	2歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
	1歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
	0歳児	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
	計	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	1,176

(2) 地域の子育て支援

ア 保育園体験

地域の親子を対象に、0歳児、1歳児及び2歳児クラスに各3組ずつ受け入れ、月1回、在園児と一緒に活動に参加する「保育園体験」を行い、園児や担任との交流、地域の保護者同士の交流を行った。令和4年度は感染症対策のため2組までという人数制限を行い、雨天時は室内での活動になるため中止としていたが、コロナウィルスの感染症法上の分類が変更されたことで、コロナ前の受け入れ体制に戻した。

参加人数については、0歳児クラスと2歳児クラスには3組ずつの登録があった。1歳児クラスには2組が登録したが、年度途中で保育園入園が決まったため登録者が無い状況となり、追加募集を行ったが応募はないまま終了となった。従来、1歳児クラスの応募は多かったが、0歳児の間は育児休業を取得し、1歳児から復職する保護者が増え、保育園も増加したため、保育園体験を希望する保護者が減少したと考えられるが、保育園を実際に体験した保護者からは、地域の親子にとって非常に有意義な時間になるという感想も聞かれるため、今後もこの取り組みを継続したいと考えている。

イ 給食体験

(ア) 離乳食体験

地域の子育て中の親を対象に、離乳食を始める際のサポートを行った。栄養士や保育士による指導のもと、離乳食開始時期の目安や初期・中期食の進め方、調理方法などを学んでもらい、実際に離乳食を試食する機会を提供した。令和4年度は中止としたが、今年度はコロナウィルスの感染症対策を講じながら開催した。3組の応募があり、一組ずつ対話しながらゆっくりと進めていくことができた。

離乳食体験の状況

(単位：組)

実施日	参加者
9月12日	3
11月21日	3
参加者総計	6名

(イ) 乳児食体験

地域の乳児とその親を対象に、給食を園児と同じ環境で一緒に食べる機会としていたが、食事や会食でのコロナ感染率が高いため、令和4年度に続き令和5年度も中止とした。

通常は、乳児食の味つけや量を体験するほか、食事の環境設定や食具についても情報提供を行っている。この乳児食体験は、例年、参加希望者が多いため、今後も開催可能な形を検討していく。

(ウ) 保育講座

親子のふれ合いの時間を大切に、日々の子育てが楽しくなるような講座を開催している。令和4年度はコロナ禍により中止としたが、令和5年度は感染症対策を講じながら開催した。親子で楽しめる講座を中心に年6回開催し、親子で過ごす有意義な時間となった。

保育講座の開催状況

(単位：人)

月 日	講 座 名	参加者
6月10日	オーガニック石けん作り	34
7月1日	親子で一緒にストレッチ	9
9月30日	わらべうたであそぼう	15
10月21日	ハロウィンオーナメント	22
11月18日	東京防災教室	7
12月16日	クリスマス音楽会	33
	参加者総計	120名

(3) 園児の健康報告

ア 感染症

令和5年度は、5月にインフルエンザA型による集団感染が発生し、保健所と連携を取りながら感染拡大を防止するための対策を行った。同様に、9月にはアデノウイルス感染症が流行し、再度保健所との連絡を密にし、感染拡大を防止するための対策を行った。

年間を通じて地域でも様々な感染症が流行したため、子どもの体調観察に注意し保護者と連絡を取り合うよう努めた。

【感染発生状況】

(単位：人)

R Sウイルス感染症	2	流行性角結膜炎	1
溶連菌感染症	11	突発性発疹	2
手足口病	2	アデノウイルス	30
インフルエンザ	50	ヒトメタニューモウイルス	1
新型コロナウイルス感染症	6	ヘルパンギーナ	1

手足口病	2		
			感染者総計 108名

イ 受診状況

令和5年度に受診した園児は16人であった。頭部・顔面の受傷が多く、歯科・脳神経外科受診が多かった。ケガの中には亀裂骨折、縫合など通院回数が数回に及ぶものもあり、その都度対策について話し合い、事故再発防止に努めた。

【受診ケース】

月 日	性別・年齢	項 目	受診先
4月12日	4歳女子	園庭にてコンテナで遊んでいて口唇と歯肉から出血	歯科
4月14日	2歳女児	室内で遊んでいて友だちの手が眼に当たり、角膜に傷が付く。	眼科
4月26日	5歳男児	テラスでくるくる回っていて他児と衝突、左頬をぶつけ腫れる。	脳神経外科
4月27日	2歳男児	テラスで他児と衝突し倒れ、そのまま帽子掛けにぶつかり左眼瞼を強くぶつける。	脳神経外科
5月2日	5歳男児	午睡明けコットから起き上がる際に顔をコットにぶつけ、歯肉から出血と内出血。	歯科
6月26日	3歳男児	左掌に砂粒が入り周囲に炎症を起こす。	皮膚科
6月27日	4歳男児	落ちてくる紙飛行機を見上げていた先の机に口をぶつけ歯肉から出血、動揺あり。	歯科
7月4日	2歳男児	室内遊び中に足裏を虫に刺された様子があり痛みと腫れがひどく受診	皮膚科
10月24日	2歳男児	追いかけてっ中に転倒、顔面をぶつけ歯肉から出血・内出血	歯科
11月10日	6歳女児	鬼ごっこ中に転倒、左肩と左頭部を打つ。	脳神経外科
11月29日	4歳女児	滑り台で滑った際に腕を捻り受診。肘内障の診断	整形外科
12月6日	2歳男児	テラスの柵に掴まっていて滑り落ち、左前額部をうち腫れと擦過傷	脳神経外科
1月19日	4歳女児	ハサミ使用中にうまく使えず勢い余って手を目にぶつけ充血	眼科
1月18日	5歳男児	室内遊び中に足を滑らせて転倒、左前額部に擦過傷と内出血	小児科
3月6日	6歳女児	雑巾リレー中にバランスを崩し左腕で身体を支えた時に左腕関節部を亀裂骨折	整形外科
3月26日	6歳男児	段ボールカッターを使っていて左手親指第一関節辺りを切り、3針縫う。	外科
受診件数総計			16件

ウ その他

令和5年度も、園医による健康診断を0歳児は毎月、1歳児から5歳児は年に2回受診できるよう設定した。

歯科健診及び歯磨き指導は、各々、年に2回行った。歯磨き指導では数年ぶりに5歳児クラスで染め出しを行い、3・4歳児クラスも、歯ブラシを持

っての指導を実施してもらうことができた。

職員研修としては、手洗い研修、嘔吐処理研修、救急救命、エピペン研修等行い、園児たちが保育園で安全に健やかに生活できるように努めた。

【実施できた保健活動】

検査名	時期	人数	結果
尿検査	6月	61人	陽性者なし
歯科健診	6月	89人	虫歯あり1人
歯磨き指導	6月	57人	染めだしは実施せず
歯科健診	12月	88人	虫歯あり3人
歯磨き指導	12月	60人	5歳児のみ染め出し実施
総計			355人

(4) 障がい児保育

令和5年度に受け入れた障がい児は、3歳児1人、4歳児2人、5歳児1人の計4人であった。前年度はコロナ禍のため受け入れできなかった子ども発達センターに通う子どものための交流保育は、令和5年度は受け入れ可能ではあったが、近隣に該当する子がおらず、行っていない。

ア 作業療法士との連携

生活、活動の中での様子、検討したいことなどを個人記録としてまとめ、作業療法士に目を通してもらい、月1回の来園時にその記録を基に子どもの様子を観察してもらった。その後のケース会議で専門的な視点で子どもへの支援方法、指導の仕方等のアドバイスをもらい、日々の保育に活かした。

イ 保護者対応

保護者からの要望や希望があるときは、職員を通して作業療法士への相談等も受け、子どもにとって最善の支援を一緒に考えていくようにした。

ウ 関係機関との情報共有

必要に応じて、関係する療育機関と連絡を取り、お互いの状況を把握する中で、日々の保育に活かせるようにした。

(5) 年間行事報告

1年間に実施した行事は、次のとおりである。

月日	項目	内容
4月1日	入園進級式 (新入園児の保護者参加)	園庭で実施し、一年の始まりを皆で喜び合った。新入園児の保護者を招き、新入園児一人ひとりを紹介した。進級児が歌やダンスを披露し、温かい雰囲気の中で実施することができた。
5月13日	青空おやこで懇談会	令和5年度はコロナウィルスの感染症法上部分類が変更になったことで、数年ぶりに園内で開催した。コロナ禍を経験し、顔を合わせて繋がりを持つことの大切さを実感したことで、子どもたちを真ん中に保護者と職員、保護者同士が手を携えながら子育てを楽しむ1年にするために、お互いを知り合うきっかけを作りたいという強い思いがあった。顔を合わせて保護者と話ができる機会はとても貴重だと、この会を通し改めて感じた。

6月20日	プール開き	前日に5歳児クラスに布多天神へ安全祈願に行ってもらったことで、プール開きでお神酒をまくことの意味、理解へと繋ぐことができた。今年は密を避けるため、さくら組のみプールサイドに入ったが、来年度は幼児みんなで顔を合わせてプール開きの意味を確認し合いたい。
7月12～15日	夏祭り3days + 夏祭り(土) (父母会共催)	父母会共催行事ということで、どのように保護者にも参画してもらい、皆が楽しみに当日を迎えられるか、父母会と話し合いをしながら準備を進めてきた。保育士体験の中で、夏祭り当日までの手作りおもちゃ作りや父母会のゲーム作りなどを保護者に協力してもらい、当日までの雰囲気と一緒に感じてもらうことができた。5歳児クラスはたくさんのお店を企画、準備して出店した。実際に電車に乗ってお店見学をしたり、毎日「振り返りの会」を行うことで日々工夫を重ね、まわりの子どもたちが楽しめる店へと発展させていった。毎日の様子をドキュメンテーションで配信したり、手作り玩具作製の協力を募ったりと、保護者と共に取り組むことができた。 父母会からはダーツゲームコーナーの出店協力があり盛り上がっていた。保護者が参加できる最終日の土曜日は、日頃から子どもたちが取り組んできた姿をそのまま感じてもらうことができ、親子で楽しむ姿が見られた。準備を含め3daysでの子どもたちの育ちと、保護者と共に盛り上げていこうという目的は、十分に達成できた。
8月31日	プール仕舞い	3,4歳児はそれぞれで今年度最後の水遊びを楽しみ、5歳児はプール遊びを楽しんだ後、ひと夏使った玩具を洗って終了した。
9月9日	さくら組の日	クラスの中でやり取りを重ねながら一日をどの様に過ごすかについて子どもたちが主体となって計画を立てた。クッキー作りでは、作ったクッキーをおやつに食べ、残りはお土産にし、帰宅後も家庭と楽しい思い出を共有できる日になった。
9月15日	おじいちゃん・おばあちゃんと一緒に遊ぼう会	保育の中で祖父母や身の周りにお年寄りの方への関心を高め、感謝の気持ちを持ちながら、祖父母宛にはがきを書く機会を持ったり、来園していただき一緒に楽しく過ごすことで、世代間交流の場を持つことができた。
10月7日	かみふだあそぼうかい	「みんなで作る みんなが楽しい かみふだあそぼうかい」をテーマに、日常の中で友だちと作り上げた運動遊びを思い切り楽しみ、ひとまわり大きく成長した姿を保護者と分かち合える機会にしたいという思いで、子どもたちと内容を話し合いながら、準備を進めた。 子どもたちが考えたしっぽ取りやゲーム遊びを自分たちで運営、進行し、その様子を「大きな保育参観」という形で保護者に見てもらった。また、会当日までの話し合いや準備の経過を、種目ごとのコーナーにてドキュメンテーションを作り掲示し、その過程の中で子どもたちの育ちをわかりやすく伝えた。当日は、主体的に動く子どもたちの姿に職員も保護者も感動した。
10月20日	秋のお弁当の日(遠足)	幼児クラスは一緒に生活している友だちと「遠足」という特別な一日を過ごすことで関係を深めるため、数年ぶりにバスを使い、「アクアパーク品川」まで出かけた。また、日々の保育の中で0～5歳児の大きなたて割りでの交流を目的として1か月を過ごし、その中でいろいろな年齢の子どもたちとたて割り散歩に出かけた。
10月25日	芋掘り	秋の旬な自然・食材に触れ、自分たちの力で収穫できた喜びを感じるため幼児クラスが縦割グループに分かれ、芋掘りを行った。
11月2日	いも煮会	「秋の味覚を皆で味わう会」として、2～5歳児は簡単な調理体験を通し、給食の豚汁づくりの手伝いを行った。給食は、青空の下、園庭で会食をした。調理から関わり、楽しい雰囲気の中での給食時間になり、秋の味覚を味わった。
12月8日	もちつき	新しい年を迎える前に餅をつくことの意味を伝えながら、餅つきを体験した。有志のお父さん3人に「モチレンジャー」として手伝いをして頂き、一緒に子どもたちを盛り上げてもらった。子どもたちは子ども用の杵を使い、自分たちでつく楽しさを味わった。餅の感触を楽しみながら、のし餅作りの体験をした。

12月22日	クリスマス会	12月に入ってから、サンタさんへお手紙を書いたり、当日の企画を考え準備したりしながら当日を迎えた。クリスマスの製作遊びや、子どもたちの作った劇や職員の出し物などを楽しんだ。サンタコースも登場し、お礼に子どもたちから歌のプレゼントもした。
1月9日	新年会	昔から行われてきた伝承遊びやお節料理の意味など、新年についての日本の伝統を子どもたちに伝えた。 その後、園庭や室内でたこあげ、独楽回し、カルタ、福笑い、すごろくなど、正月ならではの遊びをみんなで楽しんだ。
1月28日	人形劇 (父母会共催)	毎年来園して下さる人形劇団が今年度活動を再開したので開催することができた。エプロンシアターや手袋人形を子どもたちは瞳を輝かせながら楽しんでいった。
2月1～9日	クラス懇談会	保護者同士の交流に重きを置き、我が子紹介クイズや子どもかるたなど、各クラス工夫を凝らした内容となり、笑い声の響く懇談会となった。保護者の参加も多く、保護者同士の交流とともに一年を振り返りながら子どもの育ちが実感できる良い機会となった。
3月20日	就学を祝う会	桜が咲く中で、21名の卒園児全員が揃い、門出の日を迎えた。令和5年度も卒園児、保護者、職員とでゆったりとした中での開催にするため、休日に実施した。就学児、在園児(3・4歳児)、職員みんなで思いを込めて会場作りをし、上布田らしく手作り感があふれていた。 当日は、卒園児が得意なことを会場の入口で披露してから入場し、大きな拍手の中席に着いた。始めから笑いがあふれ、クラスのカラーが引き立つ会となった。お別れ太鼓や野点(お茶)も楽しみ、子ども、保護者、職員が一体となって就学する喜びを分かち合うことができた。
3月22日	お別れ会	4歳児が企画・運営をし、「さくらさんとお別れする会」を実施した。5歳児は就学を祝う会で行った歌や言葉を在園児の前で披露し、3・4歳児からも歌と言葉を贈った。在園児からのプレゼント(チューリップの鉢植え)を渡し、温かみのあるとても良い会になった。
定例	誕生会	その月生まれの園児、保育園体験の子ども達の誕生を皆で祝うことで、大きくなった喜びを共感しあった。誕生児の保護者が参観することが定着してきており、一緒に大切な一日を過ごすことができた。
定例	伝統行事	こどもの日、七夕、節分、ひな祭りなど季節の伝統行事において、それぞれの意味、内容について話を聞いたり、製作や歌を歌ったりして楽しんだ。

(6) 研修の状況

令和5年度は、外部研修の機会を増やし、職員のスキルアップに努めた。その取り組みの一環として、オンラインで開催される研修へも積極的に参加する機会を設け、多くの職員がオンラインと実地研修を併用しながら、幅広いテーマに関する学びの機会を得ることができた。

園内研修については、例年どおり年間を通して実施した。前年度までは外部講師を招き実施してきたが、令和5年度は「子どもの遊びと保育環境」をテーマに、乳児・幼児の保育に必要な重点事項について、グループワークで探求する勉強会を行った。この勉強会は、日頃の保育について語り合える良い機会にもなっており、現在進行中の園庭改修計画においても、改めて子どもたちにとって必要な保育環境を皆で考えていく良い機会となった。

このほか、虐待をテーマにした研修や、栄養士による職員向けの離乳食講座、看護師によるエピペン・AED講習会、嘔吐処理研修なども実施した。

なお、外部研修への参加状況は、次のとおりである。

ア 職種別専門研修

対象者		研修名	実施日	実施機関	参加者数
新規採用職員					該当者なし
保育士	勤続2～4年目	保育所における食育の在り方	6/14	東京都社会福祉協議会	9人
		多様な子ども達の発達理解・支援について	7/10	調布市保育園協会	
		離乳食～食事提供と援助の在り方～	7/13	東京保育士会	
		地域子育て支援機関研修	7/19	東京都福祉保健局	
		多様な子ども達の発達理解・支援について	9/4	調布市保育園協会	
		みんなであそび歌	11/1	調布市保育園協会	
	勤続6～10年目	どの子どもも輝ける保育を目指して	1/12	東京都社会福祉協議会	4人
		エビペン投与シミュレーション研修	6/15	調布市役所保育課	
		多様な子ども達の発達理解・支援について	10/16	調布市保育園協会	
		子ども発達センター療育見学会	11/6	調布市子ども発達センター	
勤続11年以上	「こどもまんなか」の社会で保育はどうあるべきか	1/15	東京都社会福祉協議会	1人	
	子ども発達センター療育見学会	7/24	調布市子ども発達センター		
分野別リーダー	保育士等キャリアアップ研修（保護者支援・子育て支援）	11/17, 22, 27	（一社）保健福祉振興財団	8人	
	保育士等キャリアアップ研修（障害児保育）	12/25～26	（一社）家庭まち創り政策ラボ		
	キャリアアップ研修（食育・アレルギー）	3/2～4	白梅学園大学・白梅学園短期大学		
CSV1、CSV2	保育士等キャリアアップ研修（保護者支援・子育て支援）	6/2, 9, 23, 30	（公財）社会教育協会	8人	
	保育士等キャリアアップ研修（保護者支援・子育て支援）	8/15, 21, 28	（一社）保健福祉振興財団		
	保育士等キャリアアップ研修（乳児保育）	12/18	総合健康推進財団		
副主任	保育士等キャリアアップ研修（乳児保育）	7/30～8/1	すずらんチャイルドケア	7人	
	保育士等キャリアアップ研修（保護者支援）	10/2, 15, 27	（一社）保健福祉振興財団		

	援・子育て支援) 子どもの権利条約を 学ぶ会	10/24	東京保育士会	
主任	保育事業者セミナー 保育所保育実践研修 会	11/16 2/20	東京都福祉局 東京都民間保育園協会	2人
施設長	保育事業者セミナー	11/16	東京都福祉局	1人
看護師	小規模プール衛生講 習会 感染症を媒介する蚊 対策講習会 保育園における応急 手当 上級救命講習 子供のアレルギー疾 患の関する相談事務 研修	6/2 6/14 6/29 12/20 12/22	東京都多摩府中保健所 東京都健康安全研究セン ター 調布市役所保育課 東京消防庁 東京都健康安全研究セン ター	5人
栄養士	災害時の栄養・所支 援において保育所が できること	9/27	東京都社会福祉協議会	1人
調理員	保育所における食育 の在り方 離乳食～食事提供と 援助の在り方～ 災害時の栄養・食生 活の支援において保 育所ができること 食品衛生実務講習会 乳幼児の食べる機能 と発達 保育所におけるアレ ルギー対応 給食研究会新人研修 会	6/14, 23 7/13 9/15 11/21 12/1 1/25, 29 2/20	東京都社会福祉協議会 東京保育士会 東京都社会福祉協議会 東京都多摩府中保健所 東京都社会福祉協議会 東京都社会福祉協議会 東京都社会福祉協議会	9人
事務員	保意見控除と保険料 免除今後の法改正・ インボイス制度	18/9	東京トラック事業健康保 険会館	1人
参加延べ人数合計				55人

イ 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
保育士 (正規職員のみ)	子どもの育ちに必要 な環境	5/25, 7/7, 9/21, 10/13, 11/2, 1/18	上布田保育園	63人
栄養士・調理員 (正規職員のみ)	給食室会議	7/7, 9/21, 10/13	上布田保育園	9人
全職員 (日中非常勤職員含 む)	AED研修	5/17, 7/19, 9/13, 10/24, 11/16, 12/ 21, 1/17, 1/30	上布田保育園 (看護師)	32人
全職員 (正規職員のみ)	パパママ東京ぼうさ い出前教室	11/18	上布田保育園 (外部講師：東京都防 災安全課)	20人
全職員 (正規職員のみ)	職員の資質向上研修	5/13, 6/17	上布田保育園 (園長・主任)	46人

全職員 (正規職員のみ)	食育研修(離乳食について)	9/2	上布田保育園 (栄養士)	22人
全職員 (正規職員のみ)	虐待についての研修	9/2	上布田保育園 (施設長)	22人
保育士・調理員	2施設合同勉強会	7/6, 7/20, 12/6, 1/18, 1/24, 2/20, 2/21	上布田保育園 調布なないろ保育園	9人
保育士・調理員 (正規職員のみ)	園内交換研修	6/14, 9/28, 11/20, 12/12, 12/19, 1/17	上布田保育園	14人
全職員 (非常勤含む)	保健研修	4/1, 6/1, 6/14, 10 /18	上布田保育園	50人
参加延べ人数合計				287人

(7) 食を大切にする保育の推進

令和5年度も給食年間計画に基づき、旬の食材を使い、四季の移り替わりを感じる手づくりのおいしい食事とおやつ作りに努めた。

新しい食の取り組みとして「園庭の梅の実を使った梅ジュースづくり」、食事前に少しだけ味見をして、グループの友達に味見の感想を伝える「おあじみ当番」、保護者と一緒に土曜日の朝に園周辺を散歩し、家から持ってきたおにぎりや園で作った豚汁を園庭で食す「朝のお散歩楽しみ隊」(希望者のみの参加)を実施し、子どもたちがいきいきと楽しむ豊かな食の体験を、保護者とも共に分かち合えた。梅ジュースを家で作ったり、苦手な野菜料理を家庭でも「おあじみ」することで、食べられるようになったとの報告を受けたり、朝の散歩の継続を希望する声も多く寄せられ、保護者との距離が近くなった1年となった。

園庭の花壇やプランターで季節の野菜を育てて収穫し、子どもたちが野菜を洗って土を落として給食室に届けたものをその日の給食に調理して入れることも定着してきた。2歳児と幼児グループでそれぞれ種類の違うきのこを栽培し、収穫後は給食に入れたり、干し椎茸を作るなど、加工して味わう経験もできた。豊かな食体験の様子は毎月の給食だよりで保護者に知らせ、保護者と共に子どもたちの成長を喜び合うよう心がけた。

「食育アレルギー会議」は、令和5年度もアレルギー児の情報共有や、「子どもの食事で大切にしたいこと」「発達を踏まえた具体的な食事の助け方」を学び、共通の認識を持つことを目標に進めた。秋に行う園内研修では「離乳期に大切にしたいこと」について、正しい理論と実際の保育中の食事介助の場面を動画におさめ、捕食、咀嚼、嚥下時の口腔機能の動きを学び、大人の温かい言葉かけや市販のベビーフードの食べ比べ、食事の食べさせ方を共有した。

ア 行事食と季節の料理

	行事食	季節の料理
4月	たけのご飯（誕生会） お楽しみクッキー	たけのごサラダ 鱈のねぎみそ焼き・新じゃがと鶏の煮物
5月	ピースごはん・わかたけ汁・バナナケーキ（誕生会）	鮭のチーズ焼・アスパラベーコンソテー かぶとハムのサラダ
6月	鮭と青菜のごはん・鶏のみそ味唐揚げ・パイナップルケーキ（誕生会）	新ごぼうのサラダ・ぎすけ煮 （歯と口の健康週間）鱈フライ かみなり汁・あじさいゼリー・茶つきり むしパン（新茶）・夏越しまんじゅう
7月	七夕そうめん（七夕） 枝豆ご飯・つくね焼き（誕生会） 鰯のかば焼き丼（土用の丑の日）	夏野菜カレー・冷やしうどん おぐらのスープ 棒棒鶏・サラダずし
8月	しょうがごはん・めかじきのチリソース・アイスクリーム（誕生会）	なす入りミートソース・ラタトゥイユ あじの南蛮漬け・胡瓜とみかんの酢の物 すいかのパンチ・焼きとうもろこし
9月	くりごはん・鶏のみそ味唐揚げ・キャロットケーキ（誕生会） 非常用わかめごはん・非常用さばのみそ煮（引き取り訓練）	さばの塩焼き なすのミートグラタン・ 二色おはぎ・スイートポテト 月見うさぎのホットケーキ さつま芋むしパン
10月	さつま芋ご飯・さばのおろし和え・れんこんサラダ・りんごケーキ（誕生会）	けんちんうどん・きのこのカレー さんまの塩焼・れんこんカレー炒め ぶどうゼリー・ふかし芋
11月	わかめごはん・芋の子汁（芋煮会） しょうがごはん・チキン南蛮・マロンケーキ（誕生会）	ちゃんぽんうどん・さつま芋カレー 鯖のみそ煮・魚とほうれん草のグラタン 大根とツナの中華風サラダ カリフラワーのカレーサラダ
12月	きなこもち（もちつき） かぼちゃのサラダ（冬至） 赤米ごはん・はんぺんチーズフライ・パイケーキ（誕生会） クリスマスピラフ・鶏の唐揚げ・フルーツサンド（クリスマス）	ぶり大根・豚肉と蓮根の炒め煮 れんこんサラダ ブロッコリーとささみみのサラダ 年越しうどん
1月	七草がゆ（七草） 鏡びらきのおしるこ（鏡びらき） 鮭と青菜のごはん・鶏のみそ味唐揚げ 大納言ケーキ（誕生会）	鶏の松風焼き・さばの竜田揚げ ぶりの照り焼き・カリフラワーの酢みそ 和え 肉まん
2月	おにっごごはん・鰯のかば焼き・きびだんご（節分） しょうがごはん・おろしハンバーグ・りんごケーキ（誕生会）	冬にゆうめん・けんちんうどん 根菜カレー・のっぺい汁 五目豆・ブロッコリーのおひたし
3月	ちらしずし・ぶりの照り焼き・桜まんじゅう（ひなまつり） ゆかりごはん・はんぺんチーズフライ キャロットケーキ（誕生会）	鶏のから揚げ・豚肉とふきの煮もの たけのごサラダ 二色おはぎ 年長児のリクエスト献立

イ 食育

4月	たけのご皮むき	10月	さんまの姿を見よう
----	---------	-----	-----------

5月	グリーンピースむき	11月	芋煮会 野菜ちぎり、包丁 きのこの栽培、収穫
6月	そら豆のさやむき 梅の収穫と梅ジュースづくり	12月	もちつき2~5歳 お箸のおはなしと練習
7月	枝豆とり とうもろこしの皮むき	1月	スイートポテトづくり 食事の姿勢、マナーのおはなし
8月	夏野菜の収穫	2月	野菜ちぎり(2歳)
9月	非常食を食べよう 「さくら組の日」クッキーづくり	3月	

ウ 給食での給与栄養目標量

保育園での給与栄養目標量については、本年度も年間通しての設定とした。

	エネルギー	蛋白質	脂質
乳児	503kcal	17.6g	16.8g
幼児	566kcal	21.1g	18.5g

エ 食物アレルギー児の状況

卵のみ1人、ごま1人、くるみ、ピーナッツ2人、くるみ、ピスタチオ1人、ペカンナッツ1人の合計6人のアレルギー児に対して対応した。卵に関しては食事の除去、代替食を実施。ごま、ナッツ、くるみは給食に使用しなかった。

(8) 防犯・防災対策

ア 避難訓練

訓練は4月から始め、月を増す毎に設定を細かくし、これまで以上に職員が緊張感を持って臨めるよう日程を定めずに実施する月を設定するなど、様々な状況に対応できるようにした。

また、令和5年度も様々な時間に発生した災害想定での訓練も設定し、少ない職員数の中での訓練を実施した。

その他、防災計画及び自衛消防組織編成を見直し、地震・火災対策に応じた役割分担をより明確化するとともに、職員同士の伝達、協力体制を強化した。

(単位：人)

月日	内容	園児	職員
4月17日	火災訓練、消火訓練	90	23
5月16日	火災訓練、消火訓練	83	23
6月13日	火災訓練、消火訓練	86	22
6月17日	地震訓練、消火訓練	9	5
7月6日	地震訓練、消火訓練	2	3
7月26日	地震訓練、消火訓練	65	26

8月23日	地震訓練、火災訓練、消火訓練	82	26
9月1日	地震訓練、引取訓練	84	27
9月27日	火災訓練、消火訓練	73	26
10月11日	火災訓練、消火訓練	78	27
11月7日	地震訓練、消火訓練	92	30
11月14日	防犯訓練、通報訓練	89	30
12月11日	火災訓練、消火訓練	86	21
12月16日	地震訓練、消火訓練	6	4
1月26日	火災訓練、消火訓練	93	26
2月8日	地震訓練、消火訓練	9	6
2月20日	火災訓練、地震訓練、消火訓練	88	27
3月18日	地震訓練、火災訓練、消火訓練	85	25
参加者総計		1200名	377名

イ 救命訓練（AED・エピペン）

傷病者を発見してから救急隊に引き渡すまでの訓練を行った。

意識確認→呼吸確認→心肺蘇生→AED、また、119番通報、園児への対応など一つの流れを作り、誰もが処置できる訓練をした。エピペンの対象児が1人いるため、急遽投与が必要になった際に誰もが適切に対応できるように、エピペン練習用トレーナーを使用してのトレーニングを全職員に行った。

(単位：人)

月 日	参加職員数	月 日	参加職員数
7月15日	5	12月22日	5
9月16日	6	2月25日	7
10月21日	4		
参加者総数			27名

ウ 侵入者対策、防犯訓練

近年、子どもの施設を対象にした不審者の事件が報道されることが増え、安全対策の重要性が一層高まっている。このような状況を踏まえ、より緊張感をもって訓練に臨めるよう、マニュアルをもとに職員間で内容を確認した上で、事前に具体的な訓練内容は職員には伝えず、実際に職員がどのように動くことができるのかを検証した。子どもたちの避難誘導、不審者への対応など、この訓練によりマニュアルにある役割に沿った動きの難しさや課題点も分かり、防犯に関する職員の意識がより高まった。

VI 調布なないろ保育園

第1 総括

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の分類が第5類に引き下がり、コロナ禍中の運営を土台に、一つひとつの活動の意味を吟味しながら、より良い保育園の暮らしにシフトチェンジした一年間だった。

コロナ禍中の3年間は保育園の運営に苦慮することの連続であったが、その期間があったからこそ、「子ども達をどのように育てていくのが望ましいのか」「家庭や地域とどのように繋がるべきなのか」ということを真剣に考える事ができた。

また、コロナ禍以降、社会的には小中高生の自殺者数が全国で500人を超え、更には児童虐待数も高止まりの状況が継続している。自尊心を育む大切な幼少期を保護者と共に責任を持って育て、子どもを未来に向け送り出すには、保育園と家庭とが、「支援する側・支援される側」という関係の垣根を越えて繋がりを広げ、育んだコミュニティを確固たるものにしていく必要性を喫緊の課題だと捉えてきた。

これらを実現するために令和5年度に始めた「おつかフェ」や「七色亭おつかレール定食」また、「縁庭*開放」や「お父さん・お母さん集まれ」などの機会を通して、保育園に集う大人同士のより豊かな関係性を築き、子どもの育ちを見守るネットワーク作りに貢献できた事は、第三者評価の結果にも100%の満足度として表れている。

保育内容では、子ども達がより自分らしく育っていくための具体的な暮らし方の見直しにも着手し、乳児クラスでは0歳児クラスから2歳児クラスをフリースペースのように活用し、「安定した気持ちでいられる環境作り」を実現した。また、幼児クラスでは、個々の興味を追求した異年齢活動等を展開し、子ども自らが選択して園内を往来する姿が増え、子ども達の多様な経験の幅が広がったことで、人との関わりに厚みが生まれた。

こうした「子ども中心」の園運営の背景には、保護者や地域の保育園への関心や協力に加え、職員が、園内研修や各種会議の中で、自身の職層や立場を理解し能動的に働きかけてきたチーム力の賜物だと確信している。

保育システムを活用した事務作業のさらなる効率化の探求や、有給休暇の取得目標を明確化したこと等も、働く職員のライフワークバランスに寄与する形となった。

今後も、園運営に関する課題を抽出しながら、保育園に関わる全ての人にとって居心地の良い、そしてかけがえのない場所となるよう前進していく。

※ 調布なないろ保育園では、令和5年度から「園庭」をあえて「縁庭」と謳っている。令和2年度の改築後、園庭を拠点として園児や保護者、また地域が集う場と発展していくよう「ご縁が繋がりますように」との願いを込めた。職員だけでなく、保護者や地域家庭にも浸透している。

第2 経営実績

1 定員

(単位:人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	6	14	20	20	20	20	100
実数	9	14	20	21(1)	21(1)	21(1)	106

※ 括弧内は、障がい児の受入れ数

2 利用率

(単位:%)

事業名	令和5年度実績	令和4年度実績
調布なないろ保育園	106.0	106.0

第3 事業報告

1 重点事項への取組

(1) 中期経営計画の取組

中期経営計画として掲げた5つの経営課題に基づき、計画どおり進行していけるよう取り組んだ。令和5年度は行動計画の優先順位を見直し、子ども達に関わる異年齢交流の強化や地域交流を最優先に取り組んだ。

(2) 生きる力を育む保育実践

「子ども主体の保育実践」に重点を置き、子どもの一日の暮らしと遊びが連動していけるよう実践した。保育園の一斉時程に子どもを合わせるのではなく、個の生活リズムに園が合わせられるよう見直した。特に幼児クラスでは、給食の食べ終わり時間を意識して、自分で遊びの折り合いをつけることで、遊び込み方に変化が出始めた。

また、幼児クラスを解体し、子ども達の興味で分かれた「なないろ探検隊」「なないろ工房」「劇団なないろ」の異年齢交流は、「好き」とおして新たな友情が芽生え、遊びが深まった。子どもと大人の共主体を目指す保育実践が目指す方向に形作られてきたので引き続き探求していく。

(3) 保育園と保護者、地域との関わり

毎週金曜日を地域家庭対象に、そして月に一回土曜日を保育園に通う家庭を対象に園庭を開放した。また、保護者が子どもを迎えに来た時に立ち寄れる「おつかフェ」や、保育園で夕飯を食べる「七色亭おつかカレー定食」、そして「お父さんお母さん集まれ」の企画等が定着したことで、そこで出会った保護者同士が普段の育児の中で助け合える関係性が生まれた。

さらに地域では新たに、凸凹山の森での遊びや、絵本の読み聞かせサークルである「カランコエの花かご」との繋がりもでき、子ども達が地域の方と触れ合ったり、地域の方が保育園の様子を知ったりできる縁に恵まれた。令和6年度も子ども達の経験に嬉しい縁を大切に育てていく。

(4) 職員の資質向上

令和4年度に引き続き、上布田保育園との交流実習を実施した。保育方法や環境設定で学びを得るだけでなく、職員同士が交流を深める良い経験に繋がった。

また、年齢別研修の受講や、毎月一回の園内研修では、保育ドキュメンテーションの方向性や園庭等の環境設定についてテーマに沿った意見交換ができ、園の課題抽出や改善に役立てることができた。

さらに、職員個々の職層や経験年数などに基づいたマネジメント強化や、数年先を見据えた人事構成を鑑み、職員個々のキャリアアップに関するアンケート調査やその結果に基づいた担任構成等に着手した。

2 実績報告

(1) 園児の受け入れ状況

月別の園児受け入れ状況は、次のとおりである。(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	5歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	4歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	3歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	2歳児	20	20	20	20	19	20	20	20	20	20	20	239
	1歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
	0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
計	106	106	106	106	105	106	106	106	106	106	106	106	1,271

(2) 地域の子育て支援

ア 一時保育事業

令和5年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、利用率が全体の5割から6割の利用状況だった。

しかし、地域には子育てに悩みを抱えている家庭や私立幼稚園との併用等でのニーズもあり、一時保育事業を実施しているからこそ支援に繋がった家庭も多かった。また、本年度は、利用していた5歳児の子ども達に対して園児同様に「卒園証書」を授与し大変喜ばれた。一時保育利用後は建物内併設の調布なないろ学童クラブに通う子もいて、一時保育利用児であっても継続した支援に繋がっている。今後も一家庭一家庭に寄り添ったきめ細やかな事業を継続していく。

(単位：人)

一時保育延べ利用児童数													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	67	27	30	42	60	43	47	65	83	68	74	101	707

イ 地域交流事業

令和5年度は、園庭で遊ぶことや園児と一緒に散歩に出掛けること、更にもちつきの会や豆まきなどの行事への参加も行い交流を図ることができた。自園の園庭では、家庭ではできない遊びが経験できると好評で、金曜日の登録園庭開放は、毎週のように来園し、園庭で自由遊びをのびのびと行う家庭もあった。引っ越しをしたばかりで地域との繋がりが無い家庭もあり、園庭開放を通して保護者同士を繋げる良い機会にもなった。

(単位：組)

保育園体験	参加者
6月9日	2
7月6日	4
9月27日	6
10月27日	1
12月14日	3
1月10日	4
2月2日	7
計	27

ウ マタニティサポート

出産を控えた妊産婦や4か月未満の子を持つ保護者を主な対象として、0歳児クラスにて保育体験をしながら子育て相談を行った。令和5年度から「0歳児交流」と名称を変更し、地域の保護者にも内容に興味を持ってもらえるようにした。0歳児クラスや1歳児クラスと関りながら、暮らし方や遊び方を見学したり、実際に園庭で遊ぶ時は、砂に触れる経験が初めてという子も多い年齢で、遊び方を伝えたりするなどした。参加した保護者からは、保育園の様子を知ることができ、貴重な経験に繋がったと好評であった。離乳食講座は、予測より申し込みが少ない状況であったが、少人数の中で行うことで、じっくりと個別の質問にも答えることができ、子育て相談の役割も担うことができた。

(単位：組)

実施日	参加者
6月7日	1
7月5日	2
11月15日	1
12月20日	1
計	5

エ 保育講座

保育園に在園している家庭を対象に園の特色を生かした内容で保育講座を行った。令和5年度は、感染症の制限もなく、リズム遊びや食育活動など日頃保育の中で行っている内容を取り入れることで保護者も興味を持ち、参加希望が多く毎回好評であった。

(単位：組)

実施日	内容	参加者
6月24日	さくらさくらんぼリズムをしよう	13
11月11日	写真立て作り	7
2月3日	餃子の皮でピザ作り	10
計		30

(3) 食育活動

「食べることを大切にし、感謝の気持ちを持てる子ども」「正しい食習慣が身につく子ども」「食材に興味・関心を持ち楽しく食べる子ども」の3点をテーマに、栄養士や調理員が中心となって、食育の月目標を立て実践した。実施にあたっては、食育実践計画表を作成し、保育士と事前に内容について話し合い評価・反省を行った。子ども達に分かりやすいようエプロンシアターや手作りのパネル、パペットを用いて伝え、給食時には喫食の様子を見に行くなどして状況把握に努め、月1回のカリキュラム会議で報告した。

また、年間を通して食材を見たり触れたりする調理活動を多く実施できた。食育活動は室内に留まらず、園庭で、安全に配慮しながら葡萄の収穫体験や、野菜の皮むきの手伝いをするクラスもあり、周りで遊んでいた他のクラスの子も興味を持ち、一緒に手伝いをする様子もあった。

さらに、保護者と開催した園庭での豚汁作りや、保育講座でのピザ作り、そして夕食を園で提供する「おつかレー定食」を実施した。子どもたちの家庭での様子や、提供したカレーの作り方や材料についての質問など、給食担当職員が保護者と交流する良い機会となった。積極的なSDGsの取り組みとして、食品ロス削減を目指して残菜を透明容器に入れて可視化したり、地産地消を意識して調布産の野菜等を積極的に活用したりした事も子どもと大人の豊かな経験に繋がった。

ア 行事食と郷土料理

月	行事食	郷土料理
4月		郷土料理（沖縄県） ・タコライス ・アーサー汁
5月	子どもの日 ・ツイストロール ・煮込みハンバーグ等	
6月		郷土料理（北海道） ・いかめし ・鶏のザンギ ・道産子汁
7月	七夕 ・選べるご飯	

	(ご飯、わかめご飯、鮭ご飯)	
8月		郷土料理 (長野) ・ごぼとん井
9月	防災の日 (非常食) ・やきとり丼 ・えいようかん	
10月	開園記念日 ・お赤飯 ・銀ダラの煮つけ等 運動会応援献立 ・ぶひぶひカツカレー ハロウィン ・かぼちやのドーナツ	
11月	和食の日献立 ・カレーの煮つけ ・白和え等	郷土料理 (新潟県) ・三条カレーラーメン
12月 アレルギー 除去強化月	なかよし献立 ・スパイシーはんぺんフライ もちつき ・きなこ団子 冬至 ・かぼちやのサラダ クリスマス ・わかめご飯 ・鶏のから揚げ等	
1月	七草 ・七草粥 鏡開き ・おかき	郷土料理 (青森県) ・せんべい汁
2月	節分 ・巻きずし	
3月	5歳児リクエスト献立 ・煮込みハンバーグ ・味噌ラーメン ・フルーツポンチ等 ひな祭り ・ひな祭りごはん ・鶏のからあげ ・ブロッコリー炒め等	

イ 食育活動

5月	ココアミントクッキー (5歳児)	10月	お絵描きハロウィンホットケーキ (3歳児)
6月	梅シロップ (3歳児・4歳児)	11月	焼き芋 (全体)
6月	ホットケーキ (2歳児)	11月	大根葉のふりかけ (全体)
7月	果物ゼリー (5歳児)	11月	餃子の皮でピザ (2歳児)
7月	茹で枝豆 (4歳児・5歳児)	12月	スイートポテト (1歳児)
7月	焼きとうもろこし (2歳児)	12月	大根ステーキ (全体)
7月	かき氷 (全体)	12月	ふかし芋 (乳児)
8月	ホットドッグ (4歳児)	12月	焼きバナナ、焼きマンユマロ (幼児異年齢)

8月	色変わりジュース（3歳児）	12月	クッキー（3歳児）
8月	シャーベット（一時保育）	2月	豆炒り、焼い嗅がし（5歳児）
9月	焼きそば（2歳児）	2月	菱餅（全体）
10月	ホットドッグ（4歳児）	3月	ほうれん草ソテー（4歳児）

※ 日々の保育の中で野菜の皮むき・おにぎり作りを実施（5月～3月）

※ 当日献立食材を、見て、触って、感じる（0歳児）

※ 旬の食材の種類を感じ、触感、香り、味覚の違いを感じる（1～2歳児）

※ 米研ぎ・炊飯（5歳児クラス）

(4) 保健報告

ア 健康管理

秋に3歳クラスでインフルエンザA型が流行し、クラスのほぼ全員が罹患、職員も含め感染者が増加し、保健所へ報告をした。その他の感染症については、地域の流行に応じ一時的に感染者の増加はあったものの、感染報告が増えてきた時点で保護者や職員への感染症情報を詳細に伝え、異年齢交流を一時的に中断するなどの対策を早め実施し、大規模感染には至らなかった。

令和5年度も連絡帳アプリを積極的に活用し、特に欠席者へ感染症情報を伝え、体調確認を行ったほか、ケガの報告には創部写真を添えて配信し、迅速に状況を報告するなどして、保護者と積極的に連絡をとるよう配慮した。

保健指導としては、例年通り手洗い指導、歯みがき指導のほか、令和4年度から導入したプライベートゾーン指導を5歳クラスに実施した。

【感染症罹患状況】

（単位：人）

インフルエンザA型	36	手足口病	6
溶連菌	17	ヒトメタニューモ	6
新型コロナウイルス	16	RSウイルス	5
突発性発疹	5	ヘルパンギーナ	4
インフルエンザB型	5	水痘	2
アデノウイルス	4	感染性胃腸炎	2

イ 受診ケース

ケガの内容は主に頭部や顔面の外傷、口腔内のケガであった。令和4年度に比べ受診件数は増加したが、口腔内のケガについては念のため受診したものが多く、継続治療を要したものは1件のみであった。骨折が2件あり、継続治療を要したため法人と市に報告をした。

月 日	性別・年齢	項目	受診先
4月11日	女児・5歳児	保育室で転倒、乳歯脱臼	歯科
5月16日	男児・2歳児	ロッカーに口をぶつけ歯肉出血	歯科
6月5日	男児・3歳児	園庭で転倒、右肘を骨折	整形外科

8月31日	男児・4歳児	園庭遊具に口をぶつけ歯肉出血	歯科
10月28日	男児・3歳児	園庭で転倒。歯肉出血	歯科
10月31日	女児・5歳児	室内でかかるとに裂傷	形成外科
11月1日	女児・4歳児	室内で転倒し、足の小指を骨折	整形外科
12月18日	男児・3歳児	園庭で転倒、上脛の裂傷	眼科
12月22日	女児・5歳児	玩具が口に当たり歯肉出血	歯科
12月27日	男児・3歳児	室内ロッカーに額をぶつけ裂傷	形成外科
12月6日	男児・5歳児	園庭で転倒し歯肉出血、歯牙動揺	歯科
1月12日	女児・0歳児	他児に顎を噛まれ出血	形成外科
3月5日	女児・1歳児	散歩帰りに転倒、口唇に擦過傷	歯科
3月18日	女児・5歳児	園庭で玩具が口に当たり歯肉出血	歯科
受診件数総計			14件

(5) 避難訓練及び防災対策

避難訓練は、例年同様日中の時間帯や土曜日・延長保育時間など様々な状況における災害を想定し月1回以上実施した。6月から12月までは告知訓練とし、1月からの訓練は抜き打ちで行った。

9月に実施した引き渡し訓練では、防災訓練も実施し、令和4年度に実施した炊き出しの課題を改善しながら調理を行い、実際に子ども達と非常食の味比べなどを行った。また、簡易トイレや発電機、消火器の体験を子ども達と行い、災害が起きた時の備えを確認することができた。

また、令和5年度の水害訓練は、学童クラブと合同で職員・園児・学童児の垂直訓練を行い、実際に備品を運び、限られた空間の中で子ども達が待機しながら、食事の準備などを行う上での課題など確認を行うことができた。また、令和4年度に引き続き職員の水平訓練に加え、4・5歳児も実際に避難先の調布市立第三小学校までの避難経路確認を行い、実際に災害が起きた場合の問題点の確認を行った。

(6) 年間行事報告

一年間に実施した行事は、以下のとおりである。

月 日	項 目	内 容
4月1日	入園式	在園児代表として4、5歳児が参加した。5歳児の歌「にじ」の披露、メダルのプレゼントをして新入園児の入園を祝った。
4月28日	4・5歳児春の遠足	5歳児は都立武蔵野の森公園内の丘で一面の野の花の中で思いっきり遊び、4歳児は多摩川にてエビ釣りや押し花など自然の中で遊んだ。それぞれ戸外で弁当を食べ友達と共に春を満喫した。

5月19日	3歳児春の遠足	近隣のターザン公園に出かけ、初めて行く場所にワクワクして、遊具で遊んだり、広場を思いっきり駆け回ったりして楽しんだ。持参した弁当を園庭で食べ、子ども達はとても喜んでいた。
7月8日	夏祭りの会	じっくりと楽しめるよう、乳児・幼児と時間差をつけて実施した。コロナ後、久しぶりに飲食物のコーナーや5歳児のお化け屋敷に夏祭りが盛り上がった。保護者と職員と混合で行った腕相撲大会も白熱し、夏の思い出となった。
8月4日・5日	お泊り保育	子ども達の希望で、うどん作りを行い、乳児クラスも関わりながら一日を通して楽しむことができた。また、忍者修行と題して、夜の保育園を探索したり、映画鑑賞をして楽しんだり、子どもたちは意欲的に参加し、宿泊行事を通して大きな自信につながった。
9月4日～8日	おじいちゃんおばあちゃんと遊ぶ会 (内容変更)	多くの祖父母と交流できるように1週間の行事に変更して行った。希望者を募り、各クラスで交流したが、祖父母がそれぞれの得意なこと(楽器・絵画など)を披露してくれたことで子ども達も親しみをもち、興味津々で交流を楽しんでいた。
10月21日	運動会	令和5年度は3歳児クラスと4、5歳児合同の2部制とし、入れ替えて行った。テーマを「つなごう～がんばれのきもち、うれしいきもち～」とした。4、5歳児の競技では日常の保育から赤白オセロの勝負が続き、運動会でも決着がつかず、その後も子ども達の勝負に保護者の注目を集めた。運動会を挟んで、保育が継続し、それらの経験が様々なことを乗り越えていく心の土台となった。
11月9日	秋の遠足(3歳児)	園から3kmほど遠方にある西町公園に出かけた。秋の自然を子ども達が感じられるように、探索カードを作ってチャレンジした。また、子ども達に魅力的な遊具があり、十分に楽しんだ。公共の場所で弁当を食べる経験は初めてで、どの子も満喫していた。
11月16日	秋の遠足(4歳児)	普段から自然の中で遊ぶことが好きな子ども達なので、八王子の「夕やけ小やけふれあいの里」にバスで出かけた。好きなルートを子ども達が選び、2グループに分かれて行動し、探索をしたり、原っぱで思い切り身体を動かしたりして楽しんだ。
11月17日	秋の遠足(5歳児)	貸し切りバスを利用し高尾山登山遠足を予定していたが、荒天のため登山は中止とした。599ミュージアムでは高尾の自然に関するプロジェクションマッピング鑑賞や昆虫の標本を見て楽しんだ。しかし、子ども達には高尾山に登りたかったという気持ちが強く、後日話し合い、3月19日に高尾山登山を実施した。
12月14日	餅つき会	晴天の中、園庭で卒園児の保護者の手伝いもあり、園児、職員とともに大いに盛り上がった。また、園庭開放日であったこともあり、近隣の子育て家庭の親子にも楽しんでもらうことができた。さらに、年長児が近隣家庭に年末の挨拶に鏡餅を贈ることができ、大変喜ばれて子ども達は嬉しそうだった。
1月10日	新年を祝う会	年長児が独楽やけん玉などの正月遊びを披露した。また、職員の扮する獅子舞が一人ひとりの子ども達の無病息災を願って頭を噛むなどし、日本の文化に触れた。幼児クラスの子が乳児クラスの子に独楽等の遊び方を実際に教える姿が増え、年始を満喫した。
2月1日	観劇会「劇団風の子」	2歳児以上のクラスが参加。物語の内容がわかりやすく面白く、音楽が多かったこともあり、子ども達は夢中になって劇を楽しんでいた。
2月2日	節分の会	乳児は段ボールの鬼で的あてゲーム、幼児は園庭にて3クラス合同で豆まきを行った。前日に年長児が大豆を煎り、鰯を焼いて頭をもぎ、柊の枝に刺して鬼除けを作るなどして節分の準備をした。当日は各クラス、自分達の作った鬼に関するアイテムを身につけ、その後、赤鬼、青鬼の登場で怖がりながらも豆まきを楽しんでいた。

3月15日	卒園式	年長児は歌や言葉など友達と喜び合いながら堂々とした姿で参加し、その姿に、会に参加した4歳児や保護者、職員は感極まりながら盛大に祝うことができた。本年度の卒園式は初めて会場の設営方法を大幅に変更して行ったが、そのことにより、より臨場感を分かち合える式となった。
定例	誕生会と伝統行事	七夕、十五夜、雛祭りなど、季節ならではの行事を年齢に合わせて意味等を伝えながら行った。誕生会は乳児クラスはそれぞれ自クラスで、幼児クラスは全体で集合し、簡単なゲームなどを取り入れて楽しんだり、誕生児を写真にて紹介したりして祝った。

(7) 研修の状況

研修への参加状況は次のとおりである。

ア 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
新規採用職員	新人研修	4/2 10/9	調布なないろ保育園	1人 2人 計3人
保育士	勤続1～3年目	実技研修 6/14～16 6/23 11/1 11/20	公益社団法人全国 私立保育連盟	1人 1人 1人 1人 計6人
	勤続4～9年目	中堅職員研修 6/23 9/4 10/13 10/16 11/1 11/9	西東京こどものと も社 他3社	1人 2人 1人 2人 1人 1人 計8人
看護師	保健衛生研修	6/29 2/9 2/29	調布市保育園協会 他1社	1人 1人 1人 計3人
栄養士	給食担当講習会 衛生講習会	6/14～6/16 10/2 11/21 1/18 1/24	公益社団法人全国 私立保育連盟 他3社	1人 1人 1人 1人 1人 計7人
調理員	食育研修	6/29 12/8 1/16 1/24	社会福祉法人東京 都社会福祉協議会 他1社	1人 1人 1人 1人 計4人
事務員	事務担当者研修	8/9	東京都社会保険協会	1人
分野リーダー	保育士等キャリアアップ研修(各分野)	6/1～9/23 計11回	一般社団法人アジ ルラーニング 他1社	各回1人 計11人
	保育実践研修	6/14～6/16 9/15 11/2	西東京こどものと も社 他1社	1人 2人 1人

				計6人
CSV1	保育士等キャリアアップ研修(各分野)	11/18～1/16 計5回	一般社団法人家庭 まち創り政策ラボ	各回1人 計5人
	保育実践研修	10/13 11/16 1/19	東京都福祉局 他2社	1人 1人 1人 1人 計5人
副主任	保育実践研修	8/31	株式会社スマート エデュケーション	1人
主任	保育実践研修	9/15	西東京こどものと も社	1人
施設長	パソコン研修	5/10	一般社団法人東京 都民間保育園協議 会	1人
	保育実践研修 保育情勢	10/24～2/29 計7回	社会福祉法人日本 保育協会 他5社	各回1人 計7人
施設長・CSV1	子どもの虐待死を悼 み命を讃える市民集 会	11/5	特定非営利活動法 人 児童虐待防止 全国ネットワーク	4人
参加延べ人数合計				73人

イ 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
保育士	年齢別保育等	5/10～1/17 計34回	こどもの文化学 校他1社	各回1～4人 計81人
施設長・保育士・看護師・ 栄養士・調理員	園内研修	4/9～3/28 計14回	調布なないろ保 育園	各回11～22人 計257人
保育士・栄養士・調理師	両園合同勉強会	7/6	上布田保育園	2人
		7/20	調布なないろ保 育園	2人
		12/6		2人
		1/11		2人
		1/24		2人
		2/20		3人
		2/21		1人
		2/26		1人
参加延べ人数合計				353人

Ⅶ 調布市立学童クラブ・放課後子供教室事業部門

第1 総括

令和5年度は、新たに2つの学童クラブ（第三小学校学童クラブ、多摩川児童館学童クラブ）の運営を受託し、合計7施設9学童クラブと6小学校の放課後子供教室事業「あそびバ」（以下、「あそびバ」という。）の各施設においてそれぞれの事業を実施した。また、令和6年度に受託する多摩川児童館の円滑な運営を図るため、市児童青少年課とともに準備を進めた。

さらに、それぞれの施設が事業計画に定めた重点事項に取り組む中で、子どもたちの「居たい、行きたい、やってみたい」を実現できる居場所の提供に努めるとともに、職員一人ひとりが子どもの人権に対する意識を持ちながら、保護者とともに子どもたちの成長に寄り添った支援を行うことができた。

令和6年度も令和5年4月から施行されたこども基本法の趣旨を踏まえ、市の方針及び当部門の職員マニュアルに基づき、すべての子どもが放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、学童クラブ等の運営を推進していく。また、学童クラブ等はこども基本法の中心となる子どもたちに直接関わる仕事であるからこそ、子どもたちが持っている権利をよく理解し、それが守られる社会づくりに貢献していく。

1 学童クラブ

学童クラブでは、基本方針に位置付けた3つの育成目標の達成に向け、学童クラブでの日々の生活や様々な活動を通じて、子どもたちの自主性を促すとともに、生活習慣や社会性を身につけ、心身ともに健やかに育つよう支援を行った。

また、経営目標に掲げた各施設の医療機関への受診件数は、多摩川小学校学童クラブで目標値以内に留めることができなかった。引き続き「アクシデントシート」及び「ヒヤリハットシート」を活用し、学童クラブ・放課後子供教室事業部門の管理職、各施設長、コーディネーターをメンバーとする法人施設長会議で情報の共有化を図り、ケガの防止に取り組んでいく。

感染症の罹患者数は、新型コロナウイルスが令和5年5月8日から感染法上の分類を「5類」に引き下げられたが、インフルエンザ等の流行に伴い、感染者数は激増した。そのような中、手洗い等の基本的な感染対策の徹底により、各施設での感染の拡大防止に取り組んだ。

各施設で実施した行事は、新型コロナウイルスが令和5年5月8日から感染法上の分類を「5類」に引き下げられたこともあり、令和4年度まで中止していた事業の再開、観戦等の制限の緩和など、コロナ禍以前の活気に満ちた事業を実施することができた。

2 あそびバ

あそびバは7小学校から6小学校（緑ヶ丘小学校の減）の受託となった。緑ヶ丘小学校を除く各あそびバでの児童の受入状況は、前年度比1,547人3.3%の微減となった。また、経営目標に掲げた医療機関への受診件数は、すべての施設で目標値以内となり、目標を達成することができた。

各あそびバでは、前年度に引き続き、地域のスポーツクラブとタイアップしたかけっこ教室や地域の育成団体の協力のもとキッズソフトイベントを実施するなど地域とのつながりを意識した取組を推進した。また、新たに他の事業者が運営するあそびバとのオンラインイベントの実施するほか、学童クラブと一体型のあそびバでの交流会の実施、近隣児童館による出張児童館の開催などにより、施設間の連携や児童の交流を図ることができた。

第2 経営実績

1 学童クラブ

(1) 定員

施設名	定員(人)
なないろ第1学童クラブ	40
なないろ第2学童クラブ	50
わかば学童クラブ	70
かみいしわら第1学童クラブ	50
かみいしわら第2学童クラブ	50
多摩川小学校学童クラブ	60
あおば学童クラブ	55
第三小学校学童クラブ	50
多摩川児童館学童クラブ	60

※ 第3-1(2)「ア 児童の受入状況」参照。

(2) 目標値に対する実績

学童クラブの安全で安心できる運営を目指して、各施設の医療機関への受診件数を目標値として定め、ケガの防止を重点目標として取り組んだ。

令和5年度は、第三小学校学童クラブと多摩川児童館学童クラブの2施設が増えたこともあり、前年度比7件増の15件となった。多摩川小学校学童クラブは、目標値以内に留めることができなかったが、他施設では目標値以内の受診件数となった。

延べ利用人数	目標値	施設名及び受診件数	R5実績	R4実績
10,000人未満の施設	3件以下	あおば学童クラブ	2件	2件
		第三小学校学童クラブ	3件	

15,000 人未満の施設	4 件以下	なないろ学童クラブ	2 件	4 件
		わかば学童クラブ	0 件	1 件
		多摩川小学校学童クラブ	5 件	1 件
		かみいしわら学童クラブ	2 件	0 件
		多摩川児童館学童クラブ	1 件	
合計			15 件	8 件

2 放課後子供教室事業「あそびバ」

(1) 定員

全在籍児童対象の事業で、登録制のため定員は定めていない。

(2) 目標値に対する実績

あそびバの安全で安心できる運営を目指して、各施設の医療機関への受診件数を目標値として定め、ケガの防止を重点目標として取り組んだ。

令和5年度は前年度比2件減の4件となった。全施設で目標値以内の受診件数となった。

延べ利用人数	目標値	施設名及び受診件数	R5 実績	R4 実績
5,000 人未満の施設	2 件以下	緑ヶ丘小学校あそびバ		0 件
		石原小学校あそびバ	0 件	1 件
10,000 人未満の施設	3 件以下	若葉小学校あそびバ	0 件	1 件
		多摩川小学校あそびバ	3 件	3 件
		第三小学校あそびバ	0 件	0 件
		飛田給小あそびバ	0 件	1 件
		富士見台小学校あそびバ	1 件	0 件
合計			4 件	6 件

第3 事業所別事業報告

1 学童クラブ

(1) 重点事項への取組

ア 安全・安心な学童クラブ運営

受診を伴わない事例も含め、毎月開催する法人施設長会議で「アクシデントシート」及び「ヒヤリハットシート」を活用し、各施設の情報を共有するとともにケガや事故の再発防止、環境整備に努めた。

今年度は様々な感染症が流行したため、年間を通して手洗いの励行と室内換気を徹底し、感染症の拡大・予防に努めた。

イ 施設間の連携

令和4年度に引き続き、法人施設長会議を通して、児童のケガの情報や職員の配置状況など、様々な情報の共有化を図った。

また、7施設9学童クラブの施設長が、職員の育成等について気軽に情報交換や意見交換ができる会議を令和5年度から定期的開催し、施設間の連携を深めることができた。

ウ 中期経営計画の取組推進

中期経営計画に掲げている4つの行動計画テーマを念頭に置き、それぞれのテーマに沿った取り組みを推進した。

「業務の効率化」については、令和5年3月31日に策定した職員マニュアルを配布し、周知を図った。本マニュアルに基づく育成や事故時の対応を実施するとともに、上記の両会議において内容の検証を行い、令和6年1月19日に本マニュアルの改定を行った。

「新拠点の受託」については、令和5年度から調布市立多摩川児童館学童クラブ運営の受託を開始した。運営に当たっては調布市と連携・協力しながら、児童及び保護者との信頼関係を構築するとともに、令和6年度から開始する調布市立多摩川児童館運営の受託に向けた引き継ぎを行い、地域とのつながりや関係性の構築を図るなど受託後の運営の基盤を整えた。

また、調布市立第三小学校学童クラブ運営の受託の開始及び、調布市立多摩川小学校学童クラブの移転においては、地域や学校、行政との連携を密に行い、児童及び保護者が安心できる環境づくりに努めた。

(2) 実績報告

ア 児童の受入状況

なないろ第1学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4
1年生	23	23	23	23	23	23	23	22	21	21	21	21	267	220
2年生	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	101
3年生	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	73	145
4年生	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	8	8	111	117
5年生	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	5	0
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	54	53	54	54	54	53	53	51	50	50	49	49	624	583

※要配慮児：4年生に2人、1年生に1人

なないろ第2学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4
1年生	12	12	13	13	13	13	13	13	15	15	15	15	162	88
2年生	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	56	139
3年生	13	13	13	12	12	12	9	9	9	9	8	8	127	157
4年生	4	4	4	4	5	4	4	4	4	4	4	4	49	33
5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	34	34	35	39	35	34	31	31	32	32	31	31	394	429

※要配慮児：2年生に1人

わかば学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4
1年生	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264	216
2年生	15	15	16	16	17	17	16	15	16	16	16	16	191	221
3年生	45	45	45	45	45	45	44	43	43	42	42	39	523	531
4年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	0
5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	83	83	84	84	85	85	83	81	82	81	81	78	990	968

※要配慮児：3年生に3人、1年生に1人、障がい児：2年生に1人

かみいしわら第1学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4
1年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	322
2年生	23	23	22	22	22	22	23	23	23	23	23	23	272	214
3年生	17	17	17	17	17	16	16	16	16	16	16	16	197	114
4年生	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	24	0
5年生	2	2	2	3	3	2	2	2	2	1	0	0	21	0
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	45	44	43	44	44	42	43	43	43	42	41	40	514	650

※要配慮児：2年生に1人

かみいしわら第2学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4
1年生	10	10	11	10	10	10	10	11	12	12	13	11	130	266
2年生	20	20	19	17	17	17	16	15	15	15	13	13	197	165
3年生	13	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11	136	209
4年生	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48	0
5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	0
計	48	47	47	43	43	43	42	42	43	43	42	40	523	640

※要配慮児：0人

多摩川小学校学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4
1年生	38	38	38	36	36	36	36	36	35	35	34	34	432	375
2年生	28	28	27	26	26	26	25	25	24	24	23	23	305	258
3年生	2	4	5	6	8	8	8	9	9	9	9	9	86	59
4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	68	70	70	68	70	70	69	70	68	68	66	66	823	692

※要配慮児童：1年生に2人、3年生に1人

あおば学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4
1年生	37	38	38	39	39	38	37	37	37	37	37	37	451	348
2年生	27	27	26	26	26	26	26	26	25	25	25	25	310	312
3年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59

4年生	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	5	0
5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	64	65	64	65	65	64	63	64	63	63	63	63	766	719

※要配慮児：0人、障がい児：0人

第三小学校学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4
1年生	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	588	-
2年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	-
3年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
計	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	600	-

※要配慮児：1年生に3人、障がい児：1年生に1人

多摩川児童館学童クラブ

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4
1年生	28	28	27	26	27	27	27	25	25	25	25	25	315	-
2年生	30	30	30	29	27	27	27	27	26	26	26	26	331	-
3年生	26	26	25	24	23	23	23	23	23	22	21	20	279	-
4年生	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	6	-
5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
計	84	84	82	80	78	78	78	76	75	73	72	71	931	-

※要配慮児：1年生に1人、2年生に1人 障がい児：2年生に1人

イ 児童の健康報告

(7) 感染症

新型コロナウイルスは令和5年5月8日から感染法上の分類を「5類」に引き下げられたことに伴い、新型コロナウイルスの感染者数は前年度比で192人減の37人であったが、一方でインフルエンザA型とB型が流行し、全施設での罹患者が前年度比で423人増の448人であった。

(単位：人)

	インフルエンザ		新型コロナウイルス		その他の感染症	
	R5	R4	R5	R4	R5	R4
なないろ第1学童クラブ	54	4	4	21	14	0
なないろ第2学童クラブ	32	3	4	10	9	0
わかば学童クラブ	52	3	7	24	1	2
かみいしわら第1学童クラブ	30	4	3	33	7	0
かみいしわら第2学童クラブ	28	2	0	22	9	0
多摩川小学校学童クラブ	72	3	5	20	1	0
あおば学童クラブ	61	6	11	25	18	0
第三小学校学童クラブ	33	-	1	-	19	-
多摩川児童館学童クラブ	86	-	2	-	9	-
合計	448	25	37	155	87	2

※その他の感染症は、アデノウイルス・水疱瘡・溶連菌・手足口病・プール熱・ヘルパンギナ・流行性結膜炎・頭ジラミ

(イ) 受診ケース

なないろ第1学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
11月1日	4年生女児	屋上でサッカーをしている際に、他児童の蹴ったボールが左目付近に当たってしまった。	眼科

なないろ第2学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
1月6日	3年生女児	プレイルームでドッジビーをしている際に、ディスクをキャッチしようとし、前方に転倒し、顎と左足を床にぶつけてしまった。	整形外科

かみいしわら第2学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
5月12日	2年生男児	2階の多目的室にて15分間の本読み中、児童が本児の手をつかんだ勢いで、本児の左目に手が当たった。	眼科医院
1月30日	3年生男児	館庭でのドッジボール中、ボールをキャッチする際に、ボールが小指に当たり剥離骨折した。	整形外科

多摩川小学校学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
4月26日	3年生男児	ジャングルジムに登っている際に、目の前にある棒に気付かずぶつかってしまい顔を切ってしまった。	皮膚科
7月10日	1年生男児	校庭で鬼ごっこをして遊んでいた際に、鉄棒を通り抜けたと思って頭を上げたところ、後頭部をぶつけてしまった。	脳神経外科
7月19日	1年生男児	集団降室する際に、荷物を持って1階へ向かっていたところ、階段を踏み外し転倒。右手をつき痛めた。	整形外科
11月29日	2年生男児	校庭でドッジビーをして遊んでいる際に、ディスクが左手小指に当たり骨折した。	整形外科
12月13日	3年生男児	工作をしていて手のひらを切ってしまった。	皮膚科

あおば学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
8月17日	1年生男児	5時集団降室中に転倒し、膝に切り傷ができた。	整形外科
10月6日	1年生男児	他児と追いかけていた児童がトイレに逃げ込んだ際、個室ドアに右手人差し指を挟み骨折した。	整形外科

第三小学校学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
4月5日	1年生男児	育成室内を歩いて移動していたところ、椅子の脚に自分の足をひっかけた。後ろ向きに倒れたため、後頭部を床に強打した。	脳神経外科
11月30日	1年生男児	集団降室で校門を出た直後に走って転んだ。顔面をアスファルトに打ち付け、おでこから鼻にかけて擦り傷とたんこぶができた。	脳神経外科
12月5日	1年生男子	帰りの会中に両腕を服の中に入れた状態で椅子に座っていた。前かがみの姿勢になったときにバランスを崩して倒れ、顔面を床に打ち付けた。おでこに痛みと口から出血があった。	小児科 救急外来

多摩川児童館学童クラブ

月 日	学年・性別	項 目	受 診 先
11月2日	1年生女兒	職員が竹馬用の木のハンマーを振り下ろした際に、横に近づいていた児童の鼻に当たった。	整形外科

ウ 年間行事報告

(ア) 共通の行事

行事名	学童別開催月	内 容
親子交流会	・全学童クラブ（適宜）	新型コロナウイルスが流行してから4年間、感染防止対策として親子交流会の開催を実施していなかったが、第5類に引き下げられたことにより、令和5年度から各施設にて様々な親子交流会を開催した。
保護者会	・全学童クラブ（適宜）	各施設ともに、保護者会では日頃の児童の様子や夏休み等の長期休業中の過ごし方等を保護者に伝えた。また、保護者からも家庭での様子や要望等を伺い、情報交換をした。
個人面談	・わかば学童クラブ（9月） ・あおば学童クラブ（9月） ・多摩川児童館学童クラブ（11月） ・第三小学校学童クラブ（10月・11月） ・なないろ第1第2学童クラブ（随時） ・かみいしわら第1第2学童クラブ（随時） ・多摩川小学校学童クラブ（随時）	希望者のみ、学童クラブでの様子やご家庭での様子の情報交換をした。
クリスマス会	・全学童クラブ（12月）	施設内を飾り付けるなどクリスマスならではの雰囲気味わいながら、クリスマスメニューのおやつやビンゴゲーム、玩具のプレゼント提供を行った。また、他施設職員にサンタ役の協力を依頼し、児童たちはサンタの登場に喜ぶ姿が見られた。
児童館まつり	・かみいしわら学童クラブ・なないろ学童クラブ・第三小学学童クラブ（11月） ・わかば学童クラブ・あおば学童クラブ（11月） ・多摩川小学校学童クラブ・多摩川児童館学童クラブ（10月）	【西部児童館】プレイルーム内のゲームコーナーを担当した。 【東部児童館】1階プレイルームを担当しゲームコーナーを担当した。 【多摩川児童館】ゲームコーナーを担当した。
学童クラブ交流事業(ドッジビー大会)	・全学童クラブ（12月）	学童クラブ交流ドッジビー大会に参加した。前年度と同様、新型コロナウイルス感染症の対策を講じる為、2部制での開催となった。
児童館交流事業(サッカー大会)	・全学童クラブ（1月）	前年度に引き続き、新型コロナウイルス対策を講じての交流事業となった。3部制となり、短い時間ではあったが、児童たちが楽しんで参加している姿が多くみられた。また、児童や保護者との交流を図ることができた。
誕生会	・全学童クラブ（毎月）	誕生月の児童を中心に、ゲームや工作等を企画しお祝いをした。また、特別おやつを提供した。
防犯・防火訓練	・全学童クラブ（適宜）	各施設において防災訓練を実施した。緊急時の協力や安全に避難できるよう訓練を行った。施設によっては防災頭巾をかぶる練習等、基本的な訓練を実施した。防犯訓練では、調布警察署の方をお招きし、講義指導を受けた。 また、一体型施設に関しては、合同避難訓練も実施した。

進級式 お楽しみ会	・全学童クラブ（3月）	1年間の振り返りとして学童クラブでの様子をスライドショーで上映し、思い出話をしながら、一人ひとりの成長を喜びお祝いをした。出し物の発表やゲーム等を行い、年度最後の交流を楽しんだ。特別なおやつを提供し、子ども達の喜ぶ姿が見られた。 また、なないろ学童クラブでは保護者を招待（各家庭2名）して実施した。
工作の会	・全学童クラブ（適宜）	各施設、季節に合わせた工作や端材を使った内容を企画し、座席の位置や人数を考慮し感染対策に努めながら実施した。

(イ) 各学童クラブで実施した主な行事

学童名	行事名	内容
なないろ学童クラブ (第1・第2合同)	対面式（4月）	「ドン！じゃんけんゲーム」をプレイルームで行い、2年生以上の在籍児童から新1年生へ、プラバンで作成した記念品をプレゼントした。
	自慢絵コンテスト（6月）	塗り絵、はめ絵、新キャラ、リアルスの4部門の絵をのコンテストに希望者が参加し、表彰式も行った。
	夏の出張ミニ健康講座（8月）	「たばこの煙って…吸ったらどうなるの？」のテーマで、健康推進課の方が講座を行い、児童全員で話を聞いた。
	夏のお楽しみ会（8月）	「ななこプターで世界旅行」と題し、夏休み期間中、4グループに分かれてゲームコーナーを制作し、「旅人」と「ななガイド」に分かれて全員がゲームに参加した。二日目は保育園の5歳児クラスの園児を招待し、交流を深めた。
	ドッジビー交流大会（2月）	多摩川小学校の体育館で、多摩小学童クラブ、多摩小あそびバ児童とのドッジビー交流大会に参加した。
わかば学童クラブ	マンカラ大会（5・6月）	1年生と、2・3年生の男女ごとに優勝と準優勝を決め、賞状授与をした。参加した児童は真剣に勝負し合い、応援している児童は息を飲んで試合を見守っていた。また参加したいとの声があり、マンカラが児童の好きな遊びになっている様子が見られた。
	わかば美術館（6月）	作品作りとして自分の手形を紙に押し、余白に絵を描いた。個性溢れた作品が沢山でき上がり、展示中は多くの児童が興味深く友達の絵を見ていた。
	認知症サポーター講習（8月）	包括支援センターの方を招き、認知症を学んだ。子ども達は高齢者の方のお話しに関心を持っていた。
	株式会社シード 出前授業（万華鏡作り・9月）	講師を招き、目や資源の大切さを学び、コンタクトに関する資料を使用した万華鏡作りを楽しんだ。
	ハロウィンパーティー（10月）	仮装や装飾、特別なおやつを用意して、雰囲気を味わった。ハロウィンにちなんだクイズラリーを行い楽しんでいた。
	秋祭り（11月）	ゲームコーナーを数カ所作り、3年生が店番を交代で行った。限られた時間だったが、子ども達船員がお祭りを満足に楽しめるよう、おやつの提供方法を工夫し、ゲームで遊べる時間を増やした。
	実篤記念館見学（8月・12月）	実篤記念館や敷地内の公園を、施設の職員の方の話を聞きながら見学した。子ども達は、昔の人が着ていた着物に興味を持ち、鯉の餌さやりを楽しんでいた。
	プログラミングのワークショップ（12月）	講師を招いて iPad を使用したプログラミング教室を開催した。自分が考えた福笑いがプログラミングによって動くことが嬉しそうだった。
	わかばおフェスティバル（1月）	あおば学童クラブと若葉小あそびバと合同で、若葉小体育館をお借りし、各施設が企画したゲームコーン

		ーを出店した。子ども達は何度もゲームに挑戦をしたり、他施設交流としてフレンドポイントシールを交換し合い楽しんだ。
	実篤記念館ワークショップ（3月）	実篤記念館の学芸員さんを招き、実篤競先生が作っているような作品作りの体験をした。作品作りでは、自分のハンコを彫ったり葉っぱと擦るクレヨン使って紙に描いたりと喜んでた。
	わかばっ子パーティー（3月）	1年間の思い出や進級を祝うため、皆で楽しめるようにレクリエーションやスライドショーを行い、アルバムを贈呈した。子ども達は盛り上がりながら過ごしていた。
	桐朋学園演劇鑑賞（3月）	桐朋学園の方を招き、演劇を楽しみながら体験した。レクリエーションも行き、楽しい時間を過ごしていた。
	学童遠足（科学技術館）（3月）	大型バスに乗って移動し、学年で分かれて科学技術館のブースを巡り楽しんだ。子ども達は特にシャボン玉の中に入る体験をして喜んでた。
かみいしわら 学童クラブ （第1・第2合同）	第一回あそびバ交流会（6月）	3施設の児童が集まり混合グループになり、謎解きゲームを行なった。
	第二回あそびバ交流会（8月）	第三小学校の体育館にて各施設が「ゲーム×宇宙」をテーマとしたお店をつくり、それぞれのお店を回って遊んだ。
	遊びの教室（ハロウィーン）（10月）	三角帽子を子どもたちで作り、職員とゲームを行い楽しんだ。
	親子交流会（10月）	1日育成の流れを保護者も一緒に体験し、館庭ではドッジビーを親子一緒に遊び楽しんだ。
	第三小ドッジビー交流（11月）	第三小学校の体育館で第三小学校学童クラブ児童と一緒にドッジビーを楽しんだ。
	よんもく大会（1月）	育成の中で児童が特に得意な「よんもく」大会を開き、第2学童児童との交流を図った。
	かみいし商店街（1月） 第1学童	育成の中で、児童が長く取り組んだお店屋さんごっこを集大成として行った。
	あそびバリモート交流会（2月）	PCで第三小学学童クラブとビデオ通話をしながらけん玉などを披露し合い交流を深めた。
	手話の会（年3回）	外部から手話の先生を招き、希望者のみ手話を教わった。
多摩川小学校 学童クラブ	ドッジビー大会（6月）	あそびバと合同で、第三小学校の体育館にてドッジビー大会を行った。
	夏祭り（8月）	子どもたちで作った看板を飾り、くじ引きや射的、ボールすくい、コイン落としをした。
	ハロウィンパーティー（10月）	スライムつかみ取り、イライラ棒、クレーンゲーム、くじ引きをした。
	あそびバ合同 工作会（12月）	クリスマスカードを作成した。
	あそびバ合同 鬼は外（2月）	鬼の人形を作り、的当てをした。
	ドッジビー交流大会（2月）	多摩川小学校の体育館で、多摩川小学学童クラブ、多摩川小あそびバ児童とのドッジビー交流大会を実施した。
あおば学童クラブ	対面式（4月）	お名前ビンゴで自己紹介をし、特別おやつを食べ、手作りプレゼントを渡した。
	遊びの教室（5月・6月・10月・2月）	けん玉やコマなどの昔遊びを体験し、ルービックキューブのように時間をかけて攻略法を覚えるものに挑戦した。また、ドッジビーは投げ方の練習から始まり、ルールを覚えて試合も行い、ドッジビーの楽しさを体験した。

	あおば作品展 (6・7月)	お絵かき、ぬりえ、折り紙、立体製作の4部門の中から好きなものを選び作品を作った。できた作品は期間中に施設内で掲示し、みんなで鑑賞した。
	実篤記念館コラボイベント (8月・12月・2月)	実篤記念館の学芸員さんにご協力いただき、実篤記念館見学・実篤公園散策・工作ワークショップを実施した。
	認知症サポーター講座(8月)	地域包括センターの方より、認知症についてのお話を聞き、ロールプレイを通して認知症の理解を深め、どのような支援ができるかについて学んだ。
	健康講座(8月)	「たばこの煙って吸ったらどうなるの?」というテーマで、健康推進課の職員の方から講義を受けた。たばこが全身に及ぼす影響をクイズや動画、模型等を使って学んだ。
	夏まつり(8月)	ミニゲームコーナー4カ所と工作コーナー(風船鉄砲)を自由に回って楽しんだ。
	お楽しみ会(12月)	宝探しゲームを行い、手作りプレゼントの交換をした。
	プログラミングワークショップ (12月)	外部講師を招き、iPadを使ったゲーム作りを体験した。
	ドッジビー・サッカー交流 (12月)	東部児童館、わかば学童クラブとドッジビー・サッカーの練習をとおして交流を図った。
	学童遠足(3月)	大型バスを使用し、葛西臨海水族園に行った。
第三小学校 学童クラブ	遊びの教室 (4・5・6・7月)	1学期中に、学童クラブで定番の遊びを1年生に覚えてもらう機会として実施した。紙飛行機、マンカラ、ドッジビー、けん玉に挑戦した。
	あそびバ交流会 (6・8・11・2月)	計4回実施した。第1回は謎解き、第2回は夏祭り、第3回はドッジビー交流会、第4回は昔遊びをテーマに、3施設の児童が交流を深める工夫を取り入れた遊びを計画した。
	作品展(7月)	お絵かき、ぬりえ、はめ絵、ブロックの4部門の中から好きなものを選び参加した。作品を期間中に施設内で掲示し、みんなで鑑賞した。
	集団遊び (7・9月)	中学生の職場体験に合わせて、集団遊びを実施した。内容は中学生と相談し、チャンバラとじゃんけん鬼ごっこを企画した。準備・進行には中学生も携わった。
	みんなで力を合わせよう! の日(7月)	夏休み前に仲間意識を高めることをねらいとして、チーム協力型の集団ゲームを実施した。
	夏休み工作(8月)	夏休み期間中の特別工作を、毎週1種類ずつ提供した。「マジックスクリーン」「スライム」「紙コップ戦車」を制作した。
	散歩(10月)	一日育成日に、お弁当を持って西町公園へ出かけた。公園では虫探しやアスレチックなど、自由遊びを楽しんだ。
	遠足(3月)	バスで都立水の科学館へ出かけた。
多摩川児童館 学童クラブ	健康講座(8月)	たばこの害について学んだ。
	降館対策(11月)	5時集団降館時に児童と職員で危険な箇所を確認を行った。
	ドッジビー練習会(12月)	ふじみだい学童クラブとドッジビー大会に向けて練習会を開催した。
	キャタピラーレース(12月)	段ボールで作ったキャタピラーを使用して、レース大会を開催した。
	ゴムだん遊び(1月)	昔遊びでゴムだんを行い、検定も行った。

エ 職員研修の状況

(ア) 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
学童クラブ職員（正規）	児童青少年課の業務について	5月9日 5月30日	児童青少年課	6人
学童クラブ職員（副主任）	人事評価制度新任考課者研修	5月12日	法人内部	2人
学童クラブ職員（正規）	連絡帳・間食費の取り扱い	5月25日	法人内部	32人
学童クラブ職員（管理職）	管理職研修	6月9日	法人内部	2人
勤続1年目学童クラブ職員（主任・副主任）	主任職・副主任職新任研修	6月23日	法人内部	2人
学童クラブ職員（正規）	ジャンジャンスタッフトレーニング	6月29日	児童健全育成推進財団	1人
学童クラブ職員（正規）	発達の気になるお子さんも集団の中で育つためには	6月29日	子供発達センター	2人
学童クラブ職員	子どもまんなか！私たちが描く、これからの放課後	6月30日	放課後NPOアフタースクール	7人
学童クラブ（勤続1年目）	新任フォローアップ研修	6月30日	法人内部	3人
学童クラブ職員	利用者のケガ対応	7月11日	児童青少年課	4人
学童クラブ職員	公的機関の職員が子どもと関わる際の基礎知識	7月19日	児童青少年課	6人
学童クラブ職員	野外活動研修	7月13日	児童青少年課	1人
学童クラブ職員	学童期の集団生活における発達が気になる子どもへの対応	9月7日	児童青少年課	7人
学童クラブ職員（施設長）	館長・施設長研修	9月12日	児童青少年課	5人
学童クラブ全職員	日常における健康習慣について	10月26日	外部講師	30人
学童クラブ職員	キャリアデザイン研修	11月10日	法人内部	1人
学童クラブ職員	子ども発達センター研修会	11月20日	子ども発達センター	1人
学童クラブ全職員	自閉症スペクトラム症の特徴に合わせた活動や配慮・心理学の視点から保護者とうまく付き合う方法を考える	12月15日	武蔵野東教育センター	32人
学童クラブ職員	イェナプラン研修	1月26日	児童青少年課	4人
学童クラブ職員	令和5年度東京都放課後児童支援員資質向上研修	1月30日 2月29日 3月12日	児童青少年課	1人 1人 1人
学童クラブ職員	学童クラブ論	2月1日	児童青少年課	6人

学童クラブ職員	放課後児童支援員認定資格取得研修	6月30日から4日間	東京都福祉保健局	1人
		7月3日から4日間		1人
		9月25日から4日間		6人
		10月10日から4日間		1人
参加延べ人数合計				166人

(イ) 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
学童クラブ全職員	エビペン投与シミュレーション研修	6月15日	児童青少年課	9人
		10月13日		1人
		12月19日		6人
学童クラブ全職員	応急処置研修	7月7日	東京消防署救急係	32人
学童クラブ職員（正規）	ドッジビー研修	9月21日	スポーツ推進委員	29人
学童クラブ全職員	不審者対応訓練	9月26日	調布警察署	2人
		10月19日		7人
		11月9日		4人
学童クラブ全職員	普通救命講習	11月13日	東京防災救急協会	3人
		11月16日		11人
参加延べ人数合計				104人

2 放課後子供教室事業「あそびバ」

(1) 重点事項への取組

ア 「あそびバ」への名称変更

令和5年度から調布市放課後子供教室事業の名称が、「あそびバ」に変更されたことに伴い、10月に市内20の小学校に設置されているすべてのあそびバによる合同展示会を市と連携して実施し、新名称の周知を図った。

イ 安全・安心なあそびバ運営

令和5年度から多摩川小学校、若葉小学校、富士見台小学校あそびバの3施設で土曜日を除く平日の開設時間を午後6時まで延長して運営を行った。年度当初はそれほど多くなかったが、徐々に延長利用する児童が増え始めた。職員体制については、令和4年度からメインサポーターの配置に切り替えたことにより、職員配置が柔軟にできるようになったことに加え、業務の効率化に繋がった。

また、第三小学校の児童数増加に伴い、小学校におけるあそびバのプレイルームが同敷地内で移転することとなり、市と連携しながら、新たな環境での事業運営に向けた準備を行った。

あそびバ内でのケガや事故の未然防止を図るため、学童クラブと同様に法人施設長会議及び各施設のミーティングでヒヤリハットシートを活用して情報の共有化を図るとともに環境整備に努めた。

その他、地震や火災等の避難訓練や不審者対応訓練を各施設で実施し、非常時の備えを行った。

ウ 職員の資質向上

法人独自の研修として子どもの人権に関する理解を深めるため、すべてのあそびバに従事する職員を対象に自らの行動や言動を振り返るセルフチェックを実施するとともに、その結果を各施設へフィードバックし、あそびバ職員として必要な知識の取得や資質向上に努めた。

また、市が主催する研修へ積極的に参加するとともに、各あそびバにおいて、食物アレルギー対応研修を実施し、毎月のミーティングで研修の振り返りを行った。

その他、変動メインサポーターを対象とした施設間交換実習を実施し、普段とは違う場所で勤務することにより、新たな気づきや学びに繋がった。

エ 中期経営計画の取組推進

令和5年3月31日に策定した職員マニュアルに基づく育成や事故時の対応を実施するとともに、毎月各施設で開催する職員ミーティングへのオンライン参加など業務の効率化を図った。

また、地域のスポーツクラブとタイアップしたかけっこ教室や地域の健全育成団体の協力によるキッズソフトイベントを定期的を開催するなど、地域とのつながりを意識した取り組みを継続して実施した。若葉小学校あそびバでは、地域の保護者の協力のもと学校での校庭遊び日数・時間を増やすことができ、来室児童の校庭遊びの充実に繋がった。

(2) 実績報告

ア 児童の受入状況

(単位：人)

	若葉	石原	第三	多摩川	飛田給	富士見台	合計	R4
4月	1023	690	908	973	566	919	5,079	4,453
5月	946	660	876	902	555	1,035	4,974	4,519
6月	780	750	904	831	600	947	4,812	5,407
7月	795	655	832	773	445	909	4,409	4,438
8月	622	434	454	579	222	413	2,724	2,608
9月	683	653	655	605	392	698	3,686	3,941
10月	668	587	754	648	461	667	3,785	3,935
11月	685	573	751	617	402	629	3,657	3,688
12月	618	613	558	611	424	626	3,450	3,573
1月	445	482	423	494	337	638	2,819	3,070
2月	419	407	430	461	409	572	2,698	3,405
3月	475	458	501	587	395	613	3,029	3,632
合計	8,159	6,962	8,046	8,081	5,208	8,666	45,122	46,669

※令和4年度は緑ヶ丘小学校で年間6,889人受入

イ 児童の健康報告

あそびバ名	月 日	学年・性別	項 目	受診先
富士見台小	4月11日	2年生男児	友達と鬼ごっこをしていて転んだ際に、右足首を捻挫した。	整形外科
多摩川小	4月11日	5年生男児	ジャングルジムの中を歩いて遊んでいた際に、頭頂部前側をジャングルジムの横棒にぶつけた。	整形脳神経外科
多摩川小	11月21日	3年生男児	うんていで遊んでいた際に、最後の着地の横棒に着地できず、腰をぶつけた。	整形外科
多摩川小	2月14日	1年生女児	上り棒で遊んでいて下に降りようとした際に、爪が棒に引っ掛かり、右人差し指の爪が割れて一部剥がれてしまった。	皮膚科

ウ 年間行事報告

項 目	内 容
工作の会・伝統遊び	<p>工作の会は、各あそびバで企画をし、各学期に1回以上実施した。マイノート・アイロンビーズの飾り作り・折り紙・切り絵等の工作や、紙コップを使用した工作・風鈴作り・ぶんぶんゴマ・パッチンかえる等、子どもたちが作って遊べる工作に取り組んだ。</p> <p>また、毛糸のポンポン・ミサンガ・ストラップ作り等の手芸工作や季節に合わせた工作（七夕飾り・ハロウィン・クリスマスカード・手作りクリスマスツリー・絵馬・節分の鬼のお面・ひな祭りの置物）を企画し、子どもたちが自由な発想で作品作りに取り組み、できあがった作品を持ち帰った。1日開設する三季休業期間は、数種類の工作を準備し、参加児童が楽しく遊べるよう工夫した。</p> <p>伝統的な遊びとして、けん玉を3あそびバ、コマ回しを2あそびバが取り入れ、遊びを通してけん玉は検定を年間通して複数回実施し、多くの児童が上の級を目指してチャレンジした。</p> <p>今年度は、10月に開催された合同展覧会に向け、各あそびバで「あ」「そ」、「び」「バ」の4文字のうち、担当になった1文字に関わる工作を3種類企画し展示した。</p>
学童クラブとの交流会	<p>学童クラブと同一敷地内で開設しているあそびバ（学童・あそびバ一体型）及び学童クラブとあそびバが隣接している地域は、日々、プレイルームでの工作や小学校校庭・体育館でのドッジビー等の遊びを通して交流を図った。</p> <p>また、第三小あそびバは第三小学校学童クラブ・かみいしわら学童クラブと、多摩川小あそびバは多摩川小学校学童クラブと、年間4回のイベント（ドッジビー大会、夏祭り、昔遊び、クリスマス工作会等）を実施した。</p> <p>富士見台小あそびバは連携先である、ふじみだい学童クラブとドッジビー大会を実施し、若葉小あそびバは、あおば学童クラブ・わかば学童クラブとイベント交流会「わかあおフェスタバル」を実施し、児童間、職員間の交流を図った。</p>
児童館との交流会（出張児童館等）	<p>富士見児童館は「オセロ大会」を石原小あそびバで。多摩川児童館は出張児童館「ジャンジャン」を多摩川小あそびバ、「ドッジビー練習会」を富士見台小あそびバで、西部児童館は出張児童館「ジャンジャン」を飛田給小あそびバで実施した。</p>
東京都専門人材活用プログラム	<p>石原小あそびバは5プログラム（科学実験教室「ロボットアーム」、かけっこ、キッズヨガ、基礎ダンス、タグラグビー）飛田給小あそびバは2プログラム（ポッチャ、将棋体験）・若葉小あそびバは4プログラム（かけっこ、縄跳び、ポッチャ、将棋体験）、第三小あそびバは2プログラム（ポッチャ、シッティングパレー）、多摩川小あそびバは3プログラム（科学実験教室「ゴム動力カー」、縄跳び、基礎ダンス）、富士見台小あそびバは1プログラム（ポッチャ）を実施した。</p>
調布市文化・コミュニティー振興財団による「えばなし寄席」	<p>調布市文化・コミュニティー振興財団による、若手落語家の「えばなし寄席」を飛田給小あそびバで開催。</p>
メガロス調布による「かけっこ教室」	<p>メガロス調布のインストラクターによる「かけっこ教室」を、石原小あそびバ・多摩川小あそびバ・富士見台小あそびバで、各施設1回実施した。</p>

調布市主催NTT 東日本協力のプログラム	NTT 東日本社員による、プログラミング教室（マイクラフト使用）が石原小あそびバにて開催された。
株式会社シード職員による「万華鏡を作ろう」イベント	株式会社シード社員による、イベントを若葉小・石原小・飛田給小・富士見台小あそびバにて実施した。目についてのクイズや、コンタクトレンズの廃材を使用して、万華鏡を作成した。
オンラインによるイベント	石原小あそびバと上ノ原小あそびバ（日本保育サービス）間、飛田給小あそびバと調和小あそびバ（日本保育サービス）間で、オンラインによるクイズやゲームを行い、施設間の交流を図った。
あそびバボランティア（ビバスタ）の活用	若葉小あそびバの校庭遊びにビバスタが見守りの補助として参加し、富士見台小あそびバの「ソフトボール体験会」にビバスタが運営の補助として参加した。 また、第三小あそびバの「バトミントン教室」ではビバスタが指導者として参加し、多摩川小あそびバの「読み聞かせ」にビバスタが読み手として参加し、あそびバ職員と共に行事等を実施した。
あそびバボランティア（ビバスタ）の活用	若葉小あそびバの校庭遊びにビバスタが見守りの補助として参加し、富士見台小あそびバの「ソフトボール体験会」にビバスタが運営の補助として参加した。 また、第三小あそびバの「バトミントン教室」ではビバスタが指導者として参加し、多摩川小あそびバの「読み聞かせ」にビバスタが読み手として参加し、あそびバ職員と共に行事等を実施した。
地域団体との連携	富士見台小健全育成団体「富士見台小学校キッズソフト」の指導者による、ソフトボール体験会を月に1回実施した。
避難訓練	年間2回以上、地震・火災・（一部水害）を想定して訓練を行った。特に1学期最初の避難訓練では、1年生には防災頭巾のかぶり方の訓練を行った。避難訓練では児童も参加し、職員と一緒に校庭等に避難し身の安全を確保し、安全かつ迅速な避難方法と経路の確認を行った。 また、学童クラブと一体型のあそびバでは、学童クラブと合同で避難訓練を行った。訓練終了後、参加児童に避難時の大切な約束事をしっかりと伝えた。
不審者対応訓練	2年に1度、調布警察署防犯課の職員を講師に迎え、不審者対応の基礎知識を学ぶとともに、不審者侵入を想定したシミュレーションを行う。令和5年度は6あそびバで実施した。
食物アレルギー自校研修	アナフィラキシー発症時と新規発症を想定し、エビイベントレーナーを使用したシミュレーショントレーニングや慈恵第三病院へのホットラインの訓練等を行った。

エ 職員研修の状況

(ア) 職種別専門研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
あそびバ職員（固定メインサポーター）	固定メインサポーター全体会	6月27日	法人内部	13人
あそびバ職員	利用者の怪我対応（実技研修）	7月11日	児童青少年課	4人
3年以内に本研修を受講していない、あそびバ職員	公的機関の職員が子どもに関わる際の基礎知識	7月19日	児童青少年課	1人
あそびバ職員	「子ども家庭支援センターすこやか」見学会	7月31日	児童青少年課	1人
あそびバ職員	学童期の集団生活における発達が気になりな子どもへの対応	9月7日	児童青少年課	4人
あそびバ職員	子どもの心に届	1月26日	児童青少年課	5人

	くコミュニケー ションイェナブ ラン教育から考 える関わり方の ヒント			
あそびバ職員（変 動メインサポー ター）	他施設実地研修	1月15日 1月16日 1月18日 1月23日 1月26日 1月29日 2月6日 2月9日 2月13日 3月15日	法人内部	12人
参加延べ人数合計				40人

(イ) 職場研修

対象者	研修名	実施日	実施機関	参加者数
あそびバ全職員	エビペン投与シ ミュレーション 研修	6月15日 10月13日	児童青少年課	10人 8人
あそびバ全職員	食物アレルギー 自校研修（エビペ ン投与シュミレ ーション等）	7月11日 7月13日 7月14日 7月18日 9月25日 12月19日	富士見台小学校あそびバ 若葉小学校あそびバ 飛田給小学校あそびバ 多摩川小学校あそびバ 石原小学校あそびバ 第三小学校あそびバ	8人 8人 9人 8人 8人 8人
あそびバ全職員	不審者対応訓練	10月13日 11月9日 11月21日 12月15日 1月23日 3月7日	調布警察署（第三小あそびバ） 調布警察署（若葉小あそびバ） 調布警察署（多摩川小あそびバ） 調布警察署（飛田給小あそびバ） 調布警察署（富士見台小あそびバ） 調布警察署（石原小あそびバ）	9人 12人 12人 9人 9人 11人
あそびバ全職員	普通救命講習	11月13日 11月16日	東京防災救急協会	13人 10人
参加延べ人数合計				152人

令和5年度社会福祉法人東京かたばみ会事業報告

発行日 令和6年6月6日

発行 社会福祉法人東京かたばみ会

住所 〒182-0015

東京都調布市八雲台1-5-5

TEL 042-484-8551

FAX 042-484-8411

E-mail yagumoen@oregano.ocn.ne.jp

URL <http://www.katabamikai.jp/>
